

## **Oracle8i**

エラー・メッセージ Vol.3

リリース 8.1

**ORACLE**

---

Oracle8i エラー・メッセージ Vol.3 リリース 8.1

部品番号 : A62763-1

第 1 版 : 1999 年 5 月 (第 1 刷)

原本名 : Oracle8i Error Messages, Volume 3, Release 8.1.5

原本部品番号 : A67788-01

Copyright © 1999, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラムの使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当ソフトウェア（プログラム）のリバース・エンジニアリングは禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上記のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Legend が適用されます。

Restricted Rights Legend

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-14, Rights in Data -- General, including Alternate III (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ドラフトのアルファ版およびベータ版ドキュメント

ドラフトのアルファ版およびベータ版ドキュメントはプレリリース状態のものです。これらのドキュメントは、オラクル社の機密かつ所有のドキュメントであり、デモおよび暫定使用のみを目的としたものです。タイプミスからデータの不正確さに至るまでのいくつかの誤りが存在することが考えられます。このドキュメントは予告なく変更する場合がありますが、当ソフトウェアを使用するハードウェアに限定するものではありません。オラクル社はプレリリースのドキュメントに対して、無謬性を保証しません。またそのドキュメントを使用したことによって損失および損害が発生した場合も一切責任を負いかねますのでご了承ください。

---

---

## 目次

はじめに.....	iii
対象読者.....	v
構成.....	v
関連資料.....	vi

### 第I部 プリコンパイラ・メッセージ

- 1 SQL\*Module メッセージ (MOD)
- 2 オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ (O2F)
- 3 オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ (O2I)
- 4 オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ (O2U)
- 5 Pro\*COBOL メッセージ (PCB)
- 6 PCF FIPS メッセージ (PCF)
- 7 Pro\*C/C++ メッセージ (PCS)
- 8 プリプロセッサ (PG2)
- 9 コマンド行メッセージ (PGO)

10 解析機能メッセージ (PPE)

11 プリプロセッサ (PR2)

12 PRO\* メッセージ (PRO)

13 SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

## 第II部 オプション・メッセージ

14 *interMedia* Audio メッセージ (AUD)

15 *interMedia* Image メッセージ (IMG)

16 *interMedia* Video メッセージ (VID)

17 *interMedia* Text Messages (DRG)

18 Time Series メッセージ (TS)

19 空間データ・オプション・メッセージ (SDO)

20 Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

索引

---

# はじめに

『Oracle8i エラー・メッセージ』の Vol.1 ～ 3 では、Oracle 製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、次の製品のメッセージを説明します。

製品 / 章の名前	接頭番号
<i>interMedia Audio</i> メッセージ (AUD)	AUD
<i>interMedia Text</i> メッセージ (DRG)	DRG
Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)	EPC
エクスポート・メッセージ (EXP)	EXP
<i>interMedia Image</i> メッセージ (IMG)	IMG
インポート・メッセージ (IMP)	IMP
パラメータ・メッセージ (LCD)	LCD
BFILE 関連のメッセージ (LFI)	LFI
パラメータ・メッセージ (LRM)	LRM
SQL*Module メッセージ (MOD)	MOD
リモート操作メッセージ (NCR)	NCR
簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)	NMP
Oracle Names Client メッセージ (NNC)	NNC
External Naming メッセージ (NNF)	NNF
Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)	NNL

製品 / 章の名前	接頭番号
Oracle Names Server メッセージ (NNO)	NNO
Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)	NPL
ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)	NZE
オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ (O2F)	O2F
オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ (O2I)	O2I
オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ (O2U)	O2U
Oracle Server メッセージ	ORA-00000 ~ ORA-00816 ORA-00900 ~ ORA-01499 ORA-01500 ~ ORA-02098 ORA-02100 ~ ORA-04099 ORA-04930 ~ ORA-07499 ORA-07500 ~ ORA-09857 ORA-09870 ~ ORA-12071 ORA-12315 ~ ORA-12354 ORA-12400 ~ ORA-12495 ORA-12700 ~ ORA-18010 ORA-19500 ~ ORA-24279 ORA-24280 ~ ORA-28658 ORA-29250 ~ ORA-30729
Pro*COBOL メッセージ (PCB)	PCB
PCF FIPS メッセージ (PCF)	PCF
Pro*C/C++ メッセージ (PCS)	PCS
プリプロセッサ (PG2)	PG2
コマンド行メッセージ (PGO)	PGO
PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)	PLS
解析機能メッセージ (PPE)	PPE

製品 / 章の名前	接頭番号
プリプロセッサ (PR2)	PR2
Pro* メッセージ (PRO)	PRO
サマリー・アドバイザー・メッセージ (QSM)	QSM
Recovery Manager メッセージ (RMAN)	RMAN
空間データ・オプション・メッセージ (SDO)	SDO
SQL ランタイム・メッセージ (SQL)	SQL
SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)	SQL*Loader
Net8 メッセージ (TNS)	TNS
Time Series メッセージ (TS)	TS
interMedia Video メッセージ (VID)	VID
Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)	VIR

このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、および考えられる原因の説明と対処方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合には、解決方法を示します。

## 対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle ユーザーを対象にしています。

## 構成

『Oracle8i エラー・メッセージ』は、全部で 3 冊あります。それぞれの内容は次のとおりです。

- Vol.1
  - 第 I 部「概要」
  - 第 II 部「Oracle Server メッセージ」(前半)
- Vol.2
  - 第 I 部「Oracle Server メッセージ」(後半)
  - 第 II 部「サーバー・ユーティリティ・メッセージ」
  - 第 III 部「ネットワーク・メッセージ」

- Vol.3
  - [第 I 部「プリコンパイラ・メッセージ」](#)
  - [第 II 部「オプション・メッセージ」](#)

## 関連資料

このマニュアルの中で、他の資料の情報を参照している箇所があります。このマニュアルで参照している関連資料は、次のとおりです。

- Oracle Server の概要および機能については、『Oracle8i 概要』を参照してください。
- Oracle Server の管理については、『Oracle8i 管理者ガイド』および『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。
- Oracle Server でのアプリケーションの開発方法については、次を参照してください。
  - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド 基礎編』
  - 『Oracle8i パッケージ・プロシージャ リファレンス』
  - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド ラージ・オブジェクト』
  - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド アドバンスド・キューイング』
- 前のバージョンの Oracle から Oracle8i への移行手順については、『Oracle8i 移行ガイド』を参照してください。
- Oracle SQL コマンドおよび関数については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。
- Oracle Server にバンドルされているユーティリティ（Export、Import および SQL\*Loader など）については、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。
- ホスト・オペレーティング・システムで稼動している Oracle Server 固有の情報については、各オペレーティング・システムに対応する Oracle マニュアル（タイトルはオペレーティング・システムによって異なります）を参照してください。使用可能であれば、システム・リリースも参照してください。
- Net8 については、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。データの暗号化、外部認証サービスおよび Oracle DCE 統合など Oracle Advanced Networking Option に組み込まれている機能については、『Oracle Advanced Security Option 管理者ガイド』を参照してください。Oracle 固有の認証および認可サービスについては、『Oracle Security Server ガイド』および『Oracle Cryptographic ツールキット・ガイド』を参照してください。



オラクル社は、配布メディア上で使用可能な形式でいくつかのファイルを提供する場合があります。これらのファイルには、このマニュアルに記載されていない **Oracle** ソフトウェアのマイナー・リリースについての説明があります。通常、これらのファイルは、**README.DOC**、**BUGFIX.DOC**、**BUGHST.DOC** および **RESTRICT.DOC** という名前で提供されます。マニュアルに記載されていないソフトウェア情報については、これらのファイルを参照してください。

**追加情報：** 上記ファイルの名前および位置は、オペレーティング・システムによって異なる場合があります。これらのファイルについては、各オペレーティング・システムに対応した **Oracle** マニュアルを参照してください。



# 第 I 部

---

## プリコンパイラ・メッセージ

第 I 部には、次の章があります。

- 第 1 章「SQL\*Module メッセージ (MOD)」
- 第 2 章「オブジェクト型トランスレータ型 ファイル・メッセージ (O2F)」
- 第 3 章「オブジェクト型トランスレータ初期化 メッセージ (O2I)」
- 第 4 章「オブジェクト型トランスレータ解析解除 メッセージ (O2U)」
- 第 5 章「Pro\*COBOL メッセージ (PCB)」
- 第 6 章「PCF FIPS メッセージ (PCF)」
- 第 7 章「Pro\*C/C++ メッセージ (PCS)」
- 第 8 章「プリプロセッサ (PG2)」
- 第 9 章「コマンド行メッセージ (PGO)」
- 第 10 章「解析機能メッセージ (PPE)」
- 第 11 章「プリプロセッサ (PR2)」
- 第 12 章「PRO\* メッセージ (PRO)」
- 第 13 章「SQL ランタイム・メッセージ (SQL)」



---

## SQL\*Module メッセージ (MOD)

**MOD-00001 ファイル: *string* をオープンできません。**

**原因:** SQL\*Module は内部的に使用する一時ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、ファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリが読み取り専用で保護されている可能性があります。

**処置:** 十分なディスク領域があること、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許していることを確認してください (システム管理者に問い合わせる)。

**MOD-00002 列: *number*、行: *number* (ファイル: *string*) に無効な構文があります。**

**原因:** SQL 文に構文エラーが存在するか、またはこの文がモジュール・ファイル内で正しく終了していません。

**処置:** SQL 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の SQL 文が正しく終了していることを確認してください。

**MOD-00003 列: *number*、行: *number* (ファイル: *string*) に無効な SQL 識別子があります。**

**原因:** SQL 記述子の記号が無効です。

**処置:** 文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、モジュール・ファイルの宣言セクションで識別子を定義してください。

**MOD-00004 行: *number* (ファイル: *string*) にサポートされないデータ型があります。**

**原因:** モジュール・ファイルのプロシージャ定義で定義したホスト変数が、サポートしていないデータ型であるか、またはサポートしている範囲外の位取りまたは精度です。

**処置:** サポートしているデータ型を使用して、このホスト変数を再定義してください。数値変数の位取りおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

---

**MOD-00005 列: *number*、行: *number* (ファイル: *string*) に無効な挿入ファイル名があります。**

**MOD-00006 列: *number*、行: *number* (ファイル: *string*) に無効なホスト変数があります。**

**原因:** SQL 文で使用されるホスト変数が、プロシージャ定義で定義されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

**処置:** サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言してください。

**MOD-00007 行: *number* (ファイル: *string*) でカーソルをオープンできません。**

**原因:** SQL 文の構文が不完全です。モジュール・コンパイラはホスト変数を想定しているのにそれ以外のものがあります。

**処置:** 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

**MOD-00008 挿入ファイル *string* をオープンできません (行: *number*、ファイル: *string*)。**

**MOD-00009 入力ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** SQL\*Module が INAME オプションで指定した入力ファイルをオープンできません。このエラーの原因としては、次のことが考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- ファイルは存在するが、指定されたパス以外のディレクトリ内にある。
- ファイルを読み取るための許可またはアクセス権を持たない。

**処置:** ファイルの読み取りに必要な許可が付与されているかどうかを確認してください。名前とディレクトリ階層が正しく指定されているかを確認してください。コンパイラを再実行してください。

**MOD-00010 リスト・ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** SQL\*Module がリスト出力ファイルを作成できません。このエラーは通常、現行のディレクトリまたは LNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書込み許可がない場合に発生します。また、名前またはディレクトリ・パスが無効であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

**処置:** 指定されているパスおよびファイルに許可があるかどうかを確認してください。LNAME オプションが使用されていない場合には、現行ディレクトリに対する許可も確認してください。

**MOD-00011 出力ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** SQL\*Module が仕様ファイルや出力コード・ファイルのような出力ファイルを生成できません。このエラーは通常、現行のディレクトリまたは ONAME または SNAME オプション用に指定されているディレクトリに対する書込み許可がない場合に発生します。また、名前やディレクトリ・パスが無効であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

---

**処置:** 指定されているパスおよびファイルに許可があるかどうかを確認してください。ONAME または SNAME オプションが使用されていない場合には、現行ディレクトリに対する許可も確認してください。

**MOD-00012 行: *number* (ファイル: *string*) で文を解析できません。**

**原因:** モジュール言語ファイル内に構文エラーがあります。たとえば、次のような SQL 文がモジュール・プロシージャ内にある場合に、このメッセージが表示されます。

```
SELECT ename INTO :name FORM emp WHERE ...
```

このメッセージは、意味的なエラーからトリガーされていません。詳細は、MOD-00075 を参照してください。

**処置:** 構文エラーを修正し、再コンパイルしてください。

**MOD-00013 *string* のはずでしたが、*string* でした (行: *number*、ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 文の構文が不完全です。モジュール・コンパイラは予想外のトークンまたは不適切なトークンを見つけました。

**処置:** 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

**MOD-00014 行: *number* (ファイル: *string*) でバインド変数を取得できません。**

**原因:** モジュール・コンパイラは、SQL 文内で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

**処置:** 入力ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言し、SQL 文で正しく使用していることを確認してください。

**MOD-00015 ORACLE エラー: *string***

**原因:** このメッセージは、バインド変数のモードに対して値が不当である、といった内部エラーによって発行されます。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**MOD-00016 領域不足 - *number* バイトを割当てられません。**

**原因:** SQL\*Module が SQL\*Module の実行用に、または必要な処理の実行用に、十分なメモリーを割り当てられませんでした。

**処置:** あまり重要でないプロセスを削除して、SQL\*Module を再実行してください。オペレーティング・システムによっては、プロセスが割り当てられるメモリー量に割当て制限がある場合があります。システム管理者に問い合わせてください。必要に応じて、マシンのメモリーを増やしてください。

---

**MOD-00017 *string.string/string* で Oracle に接続できません。Oracle エラー番号: *number***

**原因:** 指定したデータベース接続またはユーザー名、パスワードが間違っていました。このメッセージは、コマンド行の指定上の間違い、またはモジュール AUTHORIZATION 句内のユーザー名またはパスワード（あるいはその両方）の指定上の間違いによって起こることがあります。

**処置:** このドキュメントの ORA メッセージの章でエラー番号を探して、障害に関する情報を参照してください。識別子を訂正し、SQL\*Module を再実行してください。

**MOD-00018 Oracle から切断できません。**

**原因:** Oracle が停止されたため、モジュールがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

**処置:** Oracle が使用可能であることを確認後、再実行してください。

**MOD-00019 標識変数 *string* の型または長さが正しくありません (行: *number*、ファイル: *string*)。**

**原因:** 標識変数をプロシージャ定義内で 2 バイト整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義しなければなりません。

**処置:** 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

**MOD-00020 オプション *string* は EXEC ORACLE OPTION として有効ではありません。**

**原因:** プリコンパイラ・オプションが EXEC ORACLE 文のインラインで指定されました。オプションの中にはコマンド行でのみ指定できるものがあります。たとえば、INAME はインラインで指定できません。

**処置:** EXEC ORACLE 文ではなく、コマンド行にプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで表示するためには、オペレーティング・システムのプロンプトに対してプリコンパイラ・コマンドを（オプションを指定しないで）入力してください。

**MOD-00021 オプション *string* はあいまいです。**

**原因:** モジュール・コマンド行オプション名の使用があいまいです。

**処置:** 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。モジュール・オプションをオンラインで表示するためには、オペレーティング・システムのプロンプトに対して MODADA コマンドを（オプションを指定しないで）入力してください。

**MOD-00022 オペランド *string* は、オプション *string* に対して無効です。**

**原因:** モジュール・オプションに対して指定された値が不適切です。その値はこのモジュール・オプションに対して不適切です。

**処置:** 適切なオプション値を再指定してください。



---

**MOD-00023 オプション *string* は無効です。**

**原因：**モジュール・コンパイラは無効なモジュール・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプション名が存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が抜けているか、間に空白が入っている。

**処置：**オプションが存在するかどうか、オプション名の綴りが正しいかどうかを確認してください。モジュール・オプションをオンラインで表示するためには、オペレーティング・システムのプロンプトに対して MODADA コマンドを（オプションを指定しないで）入力してください。オプション名と値の間に等号があることを確認してください。

**MOD-00024 オプション *string* に対するオペランドがありません。**

**原因：**モジュール・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落したか、等号の前後に空白があります。

**処置：**各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

**MOD-00025 アクセス・モジュールを作成できません。**

**原因：**モジュールがモジュール・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。

**処置：**ファイルに対する検索パスが正しいかどうかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせる）。

**MOD-00026 ホスト言語が未指定です。**

**原因：**ホスト言語名がモジュール・ファイルの LANGUAGE 句に指定されていません。

**処置：**LANGUAGE 句に Ada（大文字および小文字の区別はありません）を指定してください。

**MOD-00027 入力ファイル名が未指定です。**

**原因：**STORE\_PACKAGE=YES オプションが入力されましたが、INAME オプションを使用した入力ファイルが指定されませんでした。

**処置：**コマンド行で INAME を使用してください。

---

**MOD-00028 この SQL 文で配列ホスト変数は無効です。**

**原因：**SQL 文で使用するホスト変数が、プロシージャ定義で宣言されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

**処置：**サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をプロシージャ定義内で宣言してください。

**MOD-00029 VARCHAR *string* (*number*) は 65533 を超えています (行:*number*、ファイル:*string*)。**

**原因：**VARCHAR ホスト変数に宣言したサイズがモジュールの制限である 65533 バイトを超えています。

**処置：**それぞれの VARCHAR 変数のサイズが 65533 バイトを超えていないか宣言を調べてください。

**MOD-00030 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります (行:*number*、ファイル:*string*)。**

**原因：**一方が DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方が DECLARE CURSOR 文にある、2 つの AT 句が同じ SQL 文に属しています。AT 句は DECLARE STATEMENT または DECLARE CURSOR のどちらかに指定できますが、この両方を同時に指定することはできません。

**処置：**いずれかの文から AT 句を削除してください。

**MOD-00031 行:*number*、列:*number* でエラーが発生しました。PLS-*number*: *string***

**原因：**SQL 文または PL/SQL ブロックで、モジュールがエラーを検出しました。

**処置：**表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または PL/SQL ブロックを訂正してください。

**MOD-00032 構文が無効です。PL/SQL を実行できません。(行:*number*、ファイル:*string*)。**

**原因：**SQL 文が予期されているときに、モジュールが PL/SQL ブロックを見つけました。

**処置：**SQL 構文を使用し、PL/SQL ブロックを置き換えることによって、文を修正してください。

**MOD-00033 Ireclen が超過しました。行:*number* (ファイル:*string*) が切捨てられました。**

**原因：**入力ファイルの読み込み中に、モジュールが IRECLEN よりも長い行を検出しました。

**処置：**この入力行を短くするか、またはコマンド行でより長い IRECLEN を指定してください。

**MOD-00034 *string* を実行するには認可が不十分です。**

**原因：**MODADA コンパイラを実行する認証またはライセンスの期限が切れました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**MOD-00035 *string* への認可が期限切れになります。**

**原因:** MODADA プリコンパイラを実行する認証またはライセンスが期限切れになります。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**MOD-00036 内部的なプログラミング例外です。**

**原因:** 内部エラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**MOD-00037 SQL 文または PL/SQL ブロックの終わりが見つかりません。**

**原因:** SQL 文または PL/SQL ブロックの最後にモジュールが想定していた文終了記号以外のものがありました。このエラーは、モジュール・ファイルにタブが埋め込まれている場合に発生する可能性があります。

**処置:** ソース・コードにタブが埋め込まれている場合は、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を確認し、SQL 文に終了記号があることを確認してください。

**MOD-00038 出力言語が Ada の場合は、モジュール名が必要です。**

**原因:** モジュール・ソース・ファイルに MODULE 句が指定されなかったか、モジュールの名前が指定されませんでした。

**処置:** モジュール・ファイル内でモジュール名を指定してください。

**MOD-00039 仕様部ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** SQL\*Module が仕様部（ヘッダー）出力ファイルを作成できません。このエラーは通常、現行のディレクトリまたは SNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書き込み許可がない場合に発生します。また、名前やディレクトリ・パスが不当であったり、パス上にディレクトリが存在しなかったり、またはディスクやファイル・システムに空きがない場合にも起こります。

**処置:** 指定されているパスおよびファイルに許可があるかどうかを確認してください。SNAME オプションが使用されていない場合には、現行ディレクトリに対する許可も確認してください。ディスクまたはファイル・システムに空きがあることを確認してください。

**MOD-00040 出力言語が未指定です。コンパイルは強制終了されました。**

**原因:** LANGUAGE 句がモジュール・ソース・ファイルに指定されていません。

**処置:** モジュール・ファイル内で LANGUAGE 句を指定してください。

---

**MOD-00041 行: *number*、列: *number* に ANSI 違反があります。: *string***

**原因:** FIPS=YES が指定されていて、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル規格に準拠していません。

**処置:** FIPS=NO (デフォルト) を指定するか、コードを修正してください。

**MOD-00042 カーソル *string* は 2 度以上宣言できません。**

**原因:** メッセージに示されているカーソルが、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

**処置:** (モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で) 各カーソル名が一意であることを確認してください。

**MOD-00043 プロシージャ *string* は 2 度以上宣言できません。**

**原因:** プロシージャ名 X が、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

**処置:** (モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で) 各プロシージャ名が一意であることを確認してください。

**MOD-00044 パラメータ *string* は、プロシージャ *string* で 2 度以上宣言できません。**

**原因:** メッセージ内で指定されたプロシージャにおいて、他のパラメータ名として使われている名前がパラメータ名として宣言されています。

**処置:** プロシージャ内の各パラメータ名が一意であることを確認してください。

**MOD-00045 文字列の長さ: *number* は無効です。**

**原因:** CHAR[n] ホスト変数に対して、2 文字未満の長さが指定されました。その長さは少なくとも 2 文字でなければなりません。

**処置:** 少なくとも 2 文字以上の長さを指定するように、宣言を修正してください。

**MOD-00046 カーソル *string* は未宣言です。**

**原因:** モジュール・ファイル内で、まだ宣言されていないカーソルに対して、OPEN、FETCH または CLOSE を実行しようとしてしました。

**処置:** モジュール・ファイルに適切なカーソル宣言を挿入してください。カーソルに対して動作を行う前にファイル内でカーソル宣言を行う必要があります。

**MOD-00047 カーソル *string* に対するオープン文はすでに存在します。**

**原因:** このモジュール内に、指定されたカーソルに対する OPEN コマンドを含むプロシージャが複数あります。

**処置:** 複数ある必要はないので OPEN コマンドを 1 つ削除してください。

---

**MOD-00048 カーソル *string* はオープンされていません。**

**原因：**このメッセージで示されたカーソルに対する OPEN コマンドがモジュール内に存在しません。

**処置：**OPEN コマンドを追加するか、カーソルが必要なければ削除してください。

**MOD-00049 PL/SQL を初期化できません。**

**原因：**このメッセージは、通常、SQL\*Module がモジュールの AUTHORIZATION 句または USERID オプション付きのコマンド行上で記述されるユーザー名およびパスワードを使って、データベースに接続できない時に出力されます。

**処置：**Net8 を使用して接続している場合は、リスナー・プロセスが実行中であることと、AUTHORIZATION 句内またはコマンド行上で指定されたサービス名が TNSNAMES.ORA ファイル内にあることを確認してください。接続パラメータが正しいにもかかわらず、この問題が依然として発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**MOD-00050 仮パラメータ *string* はプロシージャ *string* では使用されません。**

**原因：**プロシージャ内で宣言された仮パラメータが使用されていません。

**処置：**パラメータ宣言を削除するか、パラメータをプロシージャ内で使用してください。

**MOD-00051 パラメータ *string* に対して無効な参照モードが指定されました。**

**原因：**このパラメータのモードは無効です。モードは、IN、OUT または IN OUT のいずれかである必要があります。

**処置：**参照モードを IN、OUT または IN OUT のいずれかに適切に修正してください。

**MOD-00052 STORE\_PACKAGE データベースが接続ホストと一致しません。**

**原因：**モジュールがデータベースにパッケージを格納できません。

**MOD-00053 重複してるマクロ定義は一致しません。**

**MOD-00054 参照 *string* は無効なカーソル参照です。**

**原因：**宣言されていないカーソルを OPEN しようとしてしました。

**処置：**カーソルを宣言するか、カーソルへの間違った参照を削除してください。

**MOD-00055 プリプロセッサ疑似命令が解釈されていません。**

**MOD-00056 配列結合は 0（ゼロ）より大きくなければなりません。**

**原因：**不正な配列索引が指定されています、

**処置：**索引が 0 を超えるように、配列索引を再指定してください。

---

**MOD-00057** マクロの引数リストが見つかりません。

**MOD-00058** マクロの起動にある引数の数が正しくありません。

**MOD-00059** INTO 変数 *string* が仮パラメータとしてリストされていません。

**原因:** SELECT 文内の INTO 句の対象は、プロシージャのパラメータではありません。

**処置:** プロシージャのパラメータ・リスト内で正しいデータ型を使ってパラメータ宣言を行ってください。

**MOD-00060** パッケージの仕様部のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

**原因:** SQL\*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起こりました。

**処置:** データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE で SQL\*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード仕様ファイル（拡張子 .pks）を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**MOD-00061** パッケージの本体のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

**原因:** SQL\*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起こりました。

**処置:** データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE で SQL\*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル（拡張子 .pkb）を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**MOD-00062** 標識のホスト変数を認識できません。

**原因:** 標識変数として使用されたホスト変数が宣言されていません。

**処置:** ホスト変数を宣言するか、可能な場合は、SQL 文から標識変数を削除してください。

**MOD-00063** プロシージャ: *string*、パラメータ: *string*; 無効なインタフェース型 *string*

**原因:** インタフェース・プロシージャ（スタブ）ファイル生成時、被参照ストアド・パッケージまたはストアド・プロシージャ内の WITH INTERFACE PROCEDURE 句が、無効なデータ型を持つパラメータを含んでいます。

**処置:** データ型を修正してください。WITH INTERFACE 句内のデータ型は、PL/SQL データ型ではなく、SQL のデータ型でなければなりません。

**MOD-00064** プロシージャ: *string*; インタフェースに余分なパラメータ *string* があります。

**原因:** ストアド・パッケージまたはストアド・プロシージャの WITH INTERFACE 句で未使用パラメータが宣言されています。

**処置:** パッケージの WITH INTERFACE 句を修正してください。

---

**MOD-00065 プロシージャ : *string* に対するインタフェース定義がありません。**

**原因:** 1 つまたは複数のプロシージャの WITH INTERFACE 句を含まないパッケージに対してスタブを生成しようとしてしました。

**処置:** パッケージ仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください。

**MOD-00066 データベースからパッケージ *string* をロードできません。**

**原因:** PNAME オプションを使用して指定したパッケージ名が正しくないか、または SQL\*Module が必要なデータベース・スキーマにアクセスできませんでした。

**処置:** 指定したパッケージが存在していて、有効な状態かどうかを確認してください。このスキーマに対する USER\_OBJECTS 表の STATUS 列を調べ、パッケージが有効であるかどうかを確認してください。

**MOD-00067 パッケージ名が必要ですが、指定されていません。**

**原因:** オプションと値、RPC\_GENERATE=YES と STORE\_PACKAGE=YES は指定されましたが、PNAME オプションを使用するパッケージ名が指定されていません。

**処置:** PNAME オプションを追加してください。

**MOD-00068 システム構成ファイルが見つからないか、またはオープンできません。**

**原因:** これは警告メッセージです。SQL\*Module がシステム構成ファイルを見つけられないか、ファイルをオープンできません。システム構成ファイルの格納場所は、システム固有です。使用しているシステム上での格納場所については、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

**処置:** ファイルが存在するかどうか、そのファイルに読取り許可または適切なアクセス権限が設定されているかどうかを確認してください。この警告メッセージが出力されないようにするには、空きであってもシステム構成ファイルが存在していなければなりません。

**MOD-00069 パッケージの格納時に ORACLE エラー *number* が発生しました。**

**原因:** SQL\*Module が障害データベースにパッケージを格納しようとしてしました。

**処置:** このドキュメントでこのエラー番号を探し、問題を解決してください。

**MOD-00070 プロシージャ : *string* インタフェースには *string* に対する宣言がありません。**

**原因:** WITH INTERFACE 句内に標識変数が指定されていますが、対応する主変数が宣言されていません。

**処置:** WITH INTERFACE 句を修正してください。標識変数を削除するか、ホスト変数を宣言してください。

---

**MOD-00071 PNAME オプションが必要ですが設定されていません。**

**原因：**データベースに格納されたパッケージの名前が指定されていません。これはストア・パッケージからスタブを生成するのに必要です。

**処置：**データベースに格納されたパッケージの名前を指定してください。

**MOD-00072 PNAME オプションが指定されていますが、意味がありません。**

**原因：**必要がないときに、PNAME オプションが使用されました。PNAME オプションは、RPC\_GENERATE および STORE\_PACKAGE のいずれかまたはその両方を指定する場合のみ必要です。

**処置：**コマンド行を修正してください。

**MOD-00073 INAME オプションが指定されていますが、意味がありません。**

**原因：**必要がないときに、INAME オプションが使用されました。たとえば、RPC\_GENERATE=YES および PNAME オプションの指定時には、INAME は必要ありません。

**処置：**INAME オプションを使用しないでください。

**MOD-00074 ONAME オプションが指定されていますが、意味がありません。**

**原因：**必要がないときに、ONAME オプションが使用されました。たとえば、RPC\_GENERATE=NO および STORE\_PACKAGE=YES 指定時、または OUTPUT 値リストに CODE 値が含まれていない場合は、ONAME オプションは必要ありません。

**処置：**ONAME オプションを使用しないでください。

**MOD-00075 行: *number* でエラーが発生しました。PLS-*number*: *string***

**原因：**SQL\*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起きました。

**処置：**データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE で SQL\*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル（拡張子 .pkb）を確認してください。詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**MOD-00076 行: *number* に ANSI 違反があります。PLS-*number*: *string***

**原因：**FIPS=YES が指定されていて、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル規格に準拠していません。

**処置：**FIPS=NO（デフォルト）を指定するか、コードを修正してください。



---

**MOD-00077 SQLCODE または SQLSTATE など、必須のステータス・パラメータがありません。**

**原因:** すべてのパラメータ定義にステータス・パラメータ SQLCODE または SQLSTATE (あるいは、その両方) を入れてください。

**処置:** SQLCODE または SQLSTATE を入れてください。

**MOD-00078 格納されたパッケージからスタブを生成する場合は、ユーザーの指定が必要です。**

**原因:** USERID の指定がないので、SQL\*Module は、サーバーに接続し、ストアド・パッケージからスタブ (インタフェース・プロシージャ・ファイル) を生成できません。

**処置:** (デフォルト・データベースに接続時以外は) サービス名、ユーザー名およびパスワードを指定してください。この操作は、コマンド行上または構成ファイル内で行ってください。

**MOD-00079 RPC=yes の場合は SQLCHECK は必ず SEMANTICS でなければなりません。**

**原因:** スタブ・ファイルの作成時は SQLCHECK=SYNTAX (または SQLCHECK=NONE) を指定できません。

**処置:** コマンド行または構成ファイルから SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE 指定を削除してください。

**MOD-00080 格納されたパッケージ・ソースの抽出でエラーが発生しました。**

**原因:** コマンド行上または構成ファイル内で OUTPUT=PACKAGE が要求されましたが、指定された名前のパッケージがスキーマ内に存在しないか、INVALID のマークが付けられています。

**処置:** 名前指定したパッケージが存在し、有効であることを確認してください。

**MOD-00081 代入に失敗しました。**

**原因:** SQL\*Module への入力の一部がエラーまたは警告状態を起こしました。このメッセージはいつも特定のエラーメッセージまたは警告メッセージの後に出力されます。

**処置:** このメッセージに対する処置の必要はありません。前出のエラーを直してください。

**MOD-00082 [ パッケージ本体をコンパイルしています ... ]**

**原因:** これは情報メッセージです。

**処置:** 処置は必要ありません。

**MOD-00083 [ パッケージ本体がコンパイルされました ]**

**原因:** これは情報メッセージです。

**処置:** 処置は必要ありません。

---

**MOD-00084 [ パッケージ仕様部をコンパイルしています ...]**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00085 [ パッケージ仕様部がコンパイルされました ]**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00086 エラー：ユーザー名をインストールできません。強制終了されました ...**

原因：ユーザー名はサーバーによって拒否されました。

処置：ユーザー名が有効な場合、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**MOD-00087 [ パッケージをデータベースに格納しています ]**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00088 その機能はまだインプリメントされていません。**

原因：SQL\*Module がコンパイルできるが、まだインプリメントされていない機能を使用している SQL 文がありました。

処置：オラクル社の言語製品管理担当部署に連絡してください。

**MOD-00089 プロシージャ：string: string**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00090 カーソル：string: string**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00091 [ 格納されたパッケージへの RPC コールを生成しています ...]**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**MOD-00092 [RPC コールの生成が完了しました。]**

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

---

**MOD-00093 SNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。**

**原因：**必要がないときに、SNAME オプションが使用されました。たとえば、OUTPUT オプションの値リストに値 SPECIFICATION がなければ、SNAME オプションは必要ありません。

**処置：**SNAME オプションを使用しないでください。

**MOD-00094 PNAME オプションのエクステンションが指定されていますが、これは意味を持ちません。**

**原因：**PNAME オプションの値にファイル名拡張子が含まれていました。パッケージはデータベース・オブジェクトであり、ファイルではありません。

**処置：**エクステンションを削除してください。

**MOD-00095 データ型 *string* はこのホスト言語に対して無効です。**

**原因：**ホスト言語に対してサポートされていないデータ型が使用されました。たとえば、データ型 NUMERIC は、Ada および C に対してサポートされていません。

**処置：**各ホスト言語においてサポートされるデータ型については、各言語のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

**MOD-00096 LNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。**

**原因：**OUTPUT オプション・リストに値 LIST が含まれていません。

**処置：**OUTPUT オプションの値リストに LIST を追加してください。

**MOD-00097 このホスト言語にはインタフェース付きの指定が必要です。**

**原因：**PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部に WITH INTERFACE 句が含まれていませんでした。PL/SQL ファンクションまたはパッケージへのコールを作成するために、MODADA に WITH INTERFACE 句が存在している必要があります。

**処置：**WITH INTERFACE 句を含めるために PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を修正してください。または、WITH INTERFACE 句を持つ PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を使用し、元の PL/SQL パッケージをコールさせてください。

**MOD-00098 bind=late の場合だけ、インタフェース付きがデフォルトになります。**

**原因：**WITH INTERFACE 句を持たない PL/SQL パッケージまたはファンクションへのコールの作成中に、コマンド行オプション「bind=early」が指定されました。

**処置：**コマンド行オプションを「bind=late」に変更するか、PL/SQL 仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください（エラー 97 の処置を参照）。

**MOD-00099 モジュールを保存する場合 (store=yes)、型: *string* は無効です。**

**原因：**現行等しい PL/SQL タイプのないタイプがモジュールに含まれていました。そのタイプはデータベースには格納できません。

---

**処置:** コマンド行オプションを **STORE=NO** に設定するか、または無効なタイプを含む  
プロシージャを別のモジュールへ移動し、そのモジュールを **STORE=NO** でコンパイル  
してください。

---

## オブジェクト型トランスレータ型 ファイル・メッセージ（O2F）

**O2F-00301 INTYPE ファイルからの読み込み試行中にエラーが発生しました。**

**原因：**INTYPE ファイルからの読み込み試行中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

**O2F-00302 メモリーを割り当てられません。**

**原因：**OTT がメモリーを割り当てられませんでした。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2F-00303 INTYPE ファイルが指定されていません。**

**原因：**必須オプションの INTYPE が指定されていません。

**処置：**OTT が変換する型の名前を含むファイルの名前に INTYPE オプションを設定してください。INTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

**O2F-00304 INTYPE のファイル名が無効です。**

**原因：**指定された INTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

**処置：**INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

**O2F-00305 INTYPE ファイルを読み込みでオープン中にエラーが発生しました。**

**原因：**INTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルへのアクセス権があることを確認してください。

---

**O2F-00306 INTYPE ファイルをクローズできません。**

**原因：**INTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

**O2F-00307 INTYPE ファイルを読み込めません。**

**原因：**INTYPE ファイルの最初のトークンを読み込めませんでした。INTYPE ファイルから読み込もうとしたときに、オペレーティング・システム・エラーが発生したか、または INTYPE ファイルの行がすべて空白行またはコメント行です。

**処置：**エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上のタイプ指定が含まれていることを確認してください。

**O2F-00308 INTYPE ファイルにタイプ指定がありません。**

**原因：**INTYPE ファイルにタイプ指定がないか、または前に発生したエラーが原因で、最初のタイプ指定を読み込むことができません。

**処置：**前に発生したエラーをすべて修正してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上のタイプ指定があることを確認してください。

**O2F-00309 ユーザー定義型の名前が無効か、または指定されていません。**

**原因：**ユーザー定義型の名前は、型指定の先頭にあるキーワード TYPE に続けて指定する必要があります。有効な型名が見つかりません。

**処置：**構文上、型指定が正しいかどうか、型名の綴りが正しいかどうかを確認してください。

**O2F-00310 識別子名が無効か、または指定されていません。**

**原因：**AS の後ろに C または C++ の有効な識別子が必要ですが、それが見つかりません。

**処置：**先頭が数字で始まらない英文字、数字およびアンダースコアからなる C または C++ の有効な識別子を使用してください。

**O2F-00311 ファイル名が無効か、または指定されていません。**

**原因：**有効なファイル名が必要ですが、それが見つかりません。

**処置：**TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいファイル名を使用してください。

**O2F-00312 型バージョンの文字列が無効か、または指定されていません。**

**原因：**型バージョン名が必要ですが、それが見つかりません。

**処置：**TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいバージョン名を使用してください。

---

**O2F-00313 属性名が無効か、または指定されていません。**

**原因：**INTYPE ファイル内に属性名が必要ですが、それが見つかりません。

**処置：**TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しい属性名を使用してください。

**O2F-00314 INTYPE ファイルに AS がありません。**

**原因：**INTYPE ファイルの構文は不適切です。

**処置：**TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。

**O2F-00315 タイプの属性がタイプ指定に 2 回記述されています。**

**原因：**ユーザー定義タイプの属性が INTYPE ファイルのタイプ指定に 2 回記述されています。2 番目の指定は無視されます。

**処置：**いずれかの属性を削除してください。

**O2F-00316 タイプ指定の最後で予期せぬトークンが検出されました。**

**原因：**INTYPE ファイルに構文エラーがあります。

**処置：**ドキュメントを参照して、INTYPE ファイルのタイプ指定が構文的に正しいことを確認してください。

**O2F-00317 ERRTYPE ファイルを書込みでオープン中にエラーが発生しました。**

**原因：**書込み用の ERRTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**ERRTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ERRTYPE ファイルの作成または更新ができるか試し、ファイルへの書込みアクセス権があることを確認してください。

**O2F-00318 OUTTYPE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。**

**原因：**OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**オペレーティング・システムのファイル書き込み許可があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

**O2F-00319 OUTTYPE ファイルが指定されていません。**

**原因：**必須オプションの OUTTYPE が指定されていません。

**処置：**OTT によって生成された TYPE ファイルの書込み先のファイル名を OUTTYPE オプションに設定してください。OUTTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

---

**O2F-00320 OUTTYPE ファイルのファイル名が無効です。**

**原因:** 指定された OUTTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

**処置:** OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

**O2F-00321 OUTTYPE を書き込みでオープン中にエラーが発生しました。**

**原因:** OUTTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置:** OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。オペレーティング・システムのファイルをオープンする権限があることを確認してください。

**O2F-00322 OUTTYPE ファイルをクローズできません。**

**原因:** OUTTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置:** エディタで OUTTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

**O2F-00323 OTT の機能 O2F で内部エラーが発生しました。**

**原因:** OTT のコンポーネント O2F で内部 OTT エラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2F-00324 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換不可能。**

**原因:** 型または属性、メソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

**処置:** 名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットは、プラットフォームに依存した方法で指定されます。UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 `NLS_LANG` を設定することによって指定されます。コンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。コンパイラのキャラクタ・セット自体はそのようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

**O2F-00325 名前の文字に正当な識別子の文字がありません。**

**原因:** データベース・エンティティの名前として使用されている文字を英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

**処置:** INTYPE ファイルの名前については明示的な変換を指定してください。



---

**O2F-00326 この名前の文字に不正な識別子の文字があります。**

**原因：**データベース・エンティティ名の1つ以上の文字を、英文字、アンダースコア、数字などのCまたはC++の識別子で使われる文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

**処置：**名前の綴りが正しく、名前の最後が空白、行の終わりまたは等号(=)で終わっているかどうかを確認してください。変換された名前にアンダースコアを追加して使用するか、INTYPE ファイルの名前に対して明示的な変換を指定してください。

**O2F-00327 CASE オプションの値が無効です。**

**原因：**INTYPE ファイルで CASE オプションに指定された値は無効です。

**処置：**CASE オプションに指定した値を、SAME、LOWER、UPPER または OPPOSITE のいずれかの有効な値に変更してください。

**O2F-00328 INITFUNC 名が無効です。**

**原因：**INTYPE ファイルで INITFUNC オプションに指定された関数名はCまたはC++の有効な識別子ではありません。

**処置：**INITFUNC 関数の名前をCまたはC++の有効な識別子に変更してください。この名前はINTYPE ファイル内で与えられるか、コマンド行上で与えられるか、あるいはINITFILE 名から導出されます。

**O2F-00329 型またはオプションを指定してください。**

**原因：**INTYPE ファイル内に型指定またはオプション指定が必要ですが、見つかりません。

**処置：**INTYPE ファイルに構文エラーがないことを確認してください。型指定またはオプション指定を記述してください。型指定はワード TYPE で開始してください。オプション指定はワード CASE、INITFILE または INITFUNC で開始してください。

**O2F-00330 名前が 265 バイトを超えています。**

**原因：**INTYPE ファイルにある名前の長さが 265 バイトを超えています。

**処置：**265 バイトより短い名前を選択してください。

**O2F-00331 INTYPE ファイルに構文上正しくない名前があります。**

**原因：**INTYPE ファイルで使用している名前に構文エラーが発生しました。

**処置：**名前が引用符で囲まれている場合は、左の引用符と右の引用符の両方があることを確認してください。ピリオド(スキーマ名と型名を分ける)が表示される場合は、スキーマ名および型名の両方があることを確認してください。

---

**O2F-00332 ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクは設定できません。**

**原因：**ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクが設定されています。この機能はサポートされていません。

**処置：**OTT が接続するデータベースに、ユーザー定義型を宣言してください。

**O2F-00333 INTYPE ファイルに、キーワードが必要な場所に予期せぬトークンがあります。**

**原因：**INTYPE ファイル内に TYPE などのキーワードが必要ですが、誤ったまたは綴りの正しくないキーワードが見つかりました。

**処置：**TYPE 指定がドキュメントに記述されている構文に準拠していることを検証してください。キーワードの綴りが正しいことを確認してください。

**O2F-00334 INTYPE ファイルにユーザー定義型が複数記述されています。**

**原因：**複数の型指定に同じ名前のユーザー定義型が記述されています。重複した型名指定は無視されます。

**処置：**単一の型指定についての情報（すべての型名および属性名）をすべて調べて、重複している型指定を削除してください。

**O2F-00335 OTT の O2F コンポーネントで内部エラーが発生しました。**

**原因：**データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。OTT のコンポーネント O2F で内部エラーが発生しました。

**処置：**INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2F-00336 サブシステムでレポートされたエラー**

**原因：**データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。データベースへのアクセス時にサブシステムでエラーが発生しました。

**処置：**サブシステムから報告されたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。

**O2F-00337 スキーマが見つからないか、またはスキーマに型が見つかりません。**

**原因：**データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。スキーマが見つからないか、スキーマにユーザー定義型が見つからないか、または Oracle に接続できません。

**処置：**OTT のログインおよびパスワード文字列が指定され、Oracle データベースに OTT で接続可能かどうかを確認してください。データベースの USER\_TYPES 表に少なくとも 1 行が含まれていることを確認してください。

---

**O2F-00338 パッケージ名が見つからないか、または不適切です。**

**原因：**IN、PACKAGE または IN PACKAGE の後に、有効な Java パッケージ名が必要ですが、それが見つかりません。

**処置：**有効な Java パッケージ名を使用してください。

**O2F-00339 CODE オプションの値が無効です。**

**原因：**INTYPE ファイルで CODE オプションに指定された値は無効です。

**処置：**CODE オプションに指定した値を、C、ANSI\_C、KR\_C、JAVA、NATIVE\_JAVA または ORACLE\_JAVA の有効な値のいずれかに変更してください。

**O2F-00340 名前が NULL でした。**

**原因：**名前の長さが 0 文字です。

**処置：**このエラーがユーザーに報告されることはありません。オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2F-00341 使用可能なメッセージがないのでエラーが発生しました。**

**原因：**このエラーの原因は報告されていません。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

## オブジェクト型トランスレータ初期化 メッセージ (O2I)

### O2I-00101 USERID パラメータの値が無効です。

**原因:** USERID パラメータに入力された値は、無効なユーザー名 / パスワード [@ データベース名] 文字列です。

**処置:** データベースの接続時に使用する USERID オプションは、ユーザー名 / パスワードまたはユーザー名 / パスワード @ データベース名の正しい組合せで設定してください。OPSS アカントがある場合は、USERID オプションを省略できます。その場合 OTT は、OPSS ユーザー名のユーザー ID を使用してデータベースに接続してください。USERID オプションは、コマンド行または config ファイルでも指定できます。

### O2I-00102 Oracle に接続できません。

**原因:** OTT が与えられたユーザー名、およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。USERID オプション値が誤っています。または、USERID が入力されていない場合は、ユーザー ID の OPSS ユーザー名が受け入れられません。

**処置:** 現行のユーザー名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle に接続する別のプログラムを実行し、そのユーザー名とパスワードを使って接続できるかどうかを検証してください。

### O2I-00103 INTYPE ファイルで、同じ HFILE ファイルを 2 つのファイル名で参照しています。

**原因:** 同じ HFILE ファイルを参照するのに 2 つの異なるファイル名が INTYPE ファイルで使用されているか、またはコマンド行と INTYPE ファイルで同じ HFILE を参照するのに異なるファイル名が使用されています。

**処置:** HFILE ファイルは一貫して同じファイル名で参照してください。

---

**O2I-00110 OTT のコンポーネント O2I で内部エラーが発生しました。**

**原因：**OTT のコンポーネント O2I で内部 OTT エラーが発生しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2I-00111 メモリーを割り当てできません。**

**原因：**OTT がメモリーを割り当てられませんでした。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2I-00112 HFILE ファイルに書き込みできません。**

**原因：**HFILE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**オペレーティング・システムのファイル書き込み許可があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

**O2I-00113 HFILE ファイルが指定されていません。**

**原因：**OTT によって生成される C 宣言の書き込み先の HFILE ファイルが指定されていません。

**処置：**コマンド行または CONFIG ファイルでグローバルな HFILE オプションを指定してください。型を記述する INTYPE ファイルのエントリで別の HFILE を指定することによって、特定の型に対して別の HFILE を選択している可能性があります。INTYPE ファイルの各エントリで HFILE を指定しており、HFILE のすべての型がそこに記述されている型の宣言しか必要としない場合、グローバルな HFILE オプションは省略できます。OTT の以前の起動で生成された INTYPE ファイルはこれらの条件を満たしています。

**O2I-00114 HFILE ファイル名が無効です。**

**原因：**構文が正しくない HFILE ファイル名が指定されました。

**処置：**HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

**O2I-00115 HFILE ファイルのオープン中にエラーが発生しました。**

**原因：**書き込み用の HFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

**O2I-00116 HFILE ファイルをクローズできません。**

**原因：**HFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

---

**O2I-00117 内部エラー: コンポーネント O2U のメッセージ・ファイルがありません。**

**原因:** 内部 OTT コンポーネント O2U 用のメッセージ・ファイルが見つかりません。OTT が正しくインストールされていない可能性があります。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2I-00118 ユーザー定義のこの型はデータベース内で見つかりません。**

**原因:** INTYPE ファイルで指定されたユーザー定義型がデータベース内で見つかりません。

**処置:** 型名の綴りが正しいことを確認してください。この型が実際にデータベースで宣言されていることを確認してください。

**O2I-00119 サブシステムでレポートされた警告:**

**原因:** OTT によって起動されたサブシステムで警告がレポートされました。この警告は「サブシステムでレポートされた警告」メッセージの後に続いて表示されます。

**処置:** サブシステムからレポートされた警告から、その原因を調べてください。

**O2I-00120 サブシステムでレポートされたエラー:**

**原因:** OTT によって起動されたサブシステムでエラーがレポートされました。このエラーは「サブシステムでレポートされたエラー」メッセージのすぐ後に表示されます。

**処置:** サブシステムからレポートされたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。

**O2I-00121 CODE オプションに対する値が指定されていません。**

**原因:** コマンド行または構成ファイルに、必要な CODE オプションが指定されていません。

**処置:** コマンド行または構成ファイルで CODE オプションを指定してください。現在、コード・オプションの値は、CODE=ANSI\_C、CODE=KR\_C および CODE=C がサポートされています。

**O2I-00122 INITFILE ファイルのファイル名が無効です。**

**原因:** INITFILE ファイルで指定されたファイル名は構文的に正しくありません。

**処置:** INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

**O2I-00123 INITFILE ファイルをクローズできません。**

**原因:** INITFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置:** エディタで INITFILE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

---

**O2I-00124 書き込み用に INITFILE ファイルをオープン中にエラーが発生しました。**

**原因：**書き込み用の INITFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。INITFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

**O2I-00125 INITFILE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。**

**原因：**INITFILE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**オペレーティング・システムのファイル書き込み許可があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

**O2I-00126 SCHEMA\_NAMES=FROM\_INTYPE の場合は INTYPE ファイルを指定する必要があります。**

**原因：**オプション SCHEMA\_NAMES=FROM\_INTYPE は、INTYPE ファイルに指定されているように、OUTTYPE ファイルにスキーマ名を書込むように要求していますが、INTYPE ファイルが指定されていません。

**処置：**INTYPE ファイルの名前を指定するか、SCHEMA\_NAMES オプション ALWAYS または IF\_NEEDED を指定してください。

**O2I-00127 INITFUNC 名が無効です。**

**原因：**INITFUNC 関数の名前が C または C++ の有効な識別子ではありません。

**処置：**INITFUNC 関数の名前を C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で与えられるか、コマンド・ライン上で与えられるか、INITFILE 名から導出されます。

**O2I-00128 Java ファイルに書き込めません。**

**原因：**Java ソース・ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**オペレーティング・システムのファイル書き込み許可があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

**O2I-00129 指定された Java ファイルはありません。**

**原因：**OTT によって生成される Java 宣言が記述されたファイルが指定されていません。

**処置：**Java ファイルはそれを宣言したクラスの名前に基づいて命名されるため、このメッセージが表示されることはありません。オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

**O2I-00130 Java ファイル名が無効です。**

**原因：**構文が正しくない Java ファイル名が指定されました。

**処置：**Java ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

**O2I-00131 Java ファイルのオープンでエラーが発生しました。**

**原因：**書き込み用の Java ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込みアクセス権があることを確認してください。

**O2I-00132 Java ファイルをクローズできません。**

**原因：**Java ファイルをクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

**処置：**Java ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできるかどうかを確認してください。

**O2I-00133 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。**

**原因：**このエラーの原因は報告されていません。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

## オブジェクト型トランスレータ解析解除 メッセージ (O2U)

**O2U-00200** OTT の機能 O2U で内部エラーが発生しました。

**原因:** OTT の O2U 機能で内部 OTT エラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2U-00201** 関数 `o2upt()` への引数が正しくありません。

**原因:** 関数 `o2upt()` へ無効な引数が渡されました。これは通常発生しない内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2U-00202** 無効なデータが関数に渡されました。

**原因:** 無効な値をもつ引数が関数 `o2upt()` に渡されました。これは通常発生しない内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2U-00203** 宣言される型はオブジェクト型か名前付きコレクション型でなければなりません。

**原因:** OTT がサポートしていない型のコードを生成するよう要求されました。Java コードを生成する場合、OTT はオブジェクト型のコードのみを生成します。C 宣言を生成する場合、OTT はオブジェクト型および名前付きコレクション型の宣言のみを生成します。

**処置:** OTT にビルトイン型を宣言するように、または Java コードを生成している場合に名前付きコレクション型を宣言するように要求している可能性があります。このような型の宣言の生成を OTT に要求しないでください。

---

**O2U-00204 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換不可能。**

**原因：**型、属性またはメソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

**処置：**名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットはプラットフォームに依存した方法で指定されます（UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 `NLS_LANG` を設定することによって指定されます）。

**INTYPE** ファイルのキャラクタ・セットを含み、かつコンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。データベースのキャラクタ・セットは、このようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、**INTYPE** ファイルでシノニムを指定してください。

**O2U-00205 型の名前に正当な識別子の文字がありません。**

**原因：**ユーザー定義型の名前として使用されている文字はすべて、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子での開始文字に変換できません。

**処置：****INTYPE** ファイルの型名については明示的な変換を指定してください。

**O2U-00206 型の名前の文字で不正な識別子の文字があります。**

**原因：**ユーザー定義型の名前で 1 つ以上の文字が、英文字、アンダースコア、または数字などの C または C++ の識別子で使われる文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

**処置：****INTYPE** ファイルの型名については明示的な変換を指定するか、変換された型名にアンダースコアを追加して使用してください。

**O2U-00207 属性名に正当な識別子の文字がありません。**

**原因：**型の属性名の文字が、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。影響を受けた属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で明らかに不正なデータ・メンバー名がないか調べてください。

**処置：****INTYPE** ファイルで属性名に対して明示的な変換を指定してください。

---

**O2U-00208 属性名の 1 つまたは複数の文字が正当な識別子文字ではありませんでした。**

**原因：**C または C++ の有効な識別子の文字に変換できない文字が属性名に 1 つ以上含まれている場合、変換できない文字はアンダースコアに置き換えられます。影響を受けた属性または属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で、元の属性名になり余分なアンダースコアを含むデータ・メンバー名がないか調べてください。

**処置：**INTYPE ファイルの影響を受けた属性については明示的な変換を指定するか、変換された属性名にアンダースコアを追加して使用してください。

**O2U-00209 変換する属性名または関数名が見つかりません。**

**原因：**変換が要求された属性名または関数名は、現在の型の属性名または関数名ではありません。

**処置：**名前の綴りが正しく、現在の型で定義された属性名または関数名であることを確認してください。

**O2U-00210 メモリーを割り振れません。**

**原因：**OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**O2U-00211 属性のない型が変換されました。**

**原因：**OTT が属性のない型を変換しました。対応する C 型は構成要素のない構造体で、C では有効ではありません。型の作成中のエラーによりデータベース内に無効な型が生成される可能性があります。さらに、不完全な型は、互いに参照する型の作成時に一時的に使用される可能性があります。

**処置：**データベースに対応する型を再作成し、OTT を再実行してください。

**O2U-00212 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。**

**原因：**このエラーの原因は報告されていません。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

## Pro\*COBOL メッセージ (PCB)

Pro\*COBOL の詳細は、『Pro\*COBOL プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

### **PCB-00001 *string***

**原因：**これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

**処置：**表示されたエラーを訂正してください。

### **PCB-00002 コマンド行プロセッサで重大なエラーが見つかりました。**

**原因：**コマンド行プロセッサが重大なエラーを検出しました。

**処置：**すべてのコマンド行オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションと構成ファイルの全アカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

### **PCB-00003 DBMS オプションの値は、指定した MODE オプションの値に対して無効です。**

**原因：**MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 あるいは V8 が指定されたか、MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 より前では無効であることに注意してください。

**処置：**DBMS=V7 または V8 では、MODE={ANSI14 | ANSI13}ではなく、MODE={ANSI | ORACLE}を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSIではなく、MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE}を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

---

**PCB-00004 UNSAFE\_NULL=YES は DBMS=V7 または V8\$ および MODE=ORACLE と共に使用しなければなりません。**

**原因：** UNSAFE\_NULL=YES オプションが DBMS=V6 または DBMS=NATIVE（デフォルト）とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

**処置：** UNSAFE\_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 または V8、および MODE=ORACLE（デフォルト）を指定してください。または、UNSAFE\_NULL=YES を使用しないでください。

**PCB-00005 コマンド行でオプションが NLS\_LOCAL=YES のとき MODE=ANSI である必要があります。**

**原因：** MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=YES を使用しました。NLS\_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定しなければなりません。

**処置：** NLS\_LOCAL=YES の他に、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定するか、または NLS\_LOCAL=YES を設定しないでください。

**PCB-00006 ユーザー ID は SQLCHECK=FULL のときだけ使用されます、ユーザー ID は無視されました。**

**原因：** SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

**処置：** USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICS の場合にのみ指定してください。

**PCB-00007 *string***

**原因：** これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

**処置：** 表示されたエラーを訂正してください。

**PCB-00008 埋込みの PL/SQL があるときは、SQLCHECK=SEMANTICS (FULL) でなければなりません。**

**原因：** SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE オプションが有効なときにプリコンパイラが PL/SQL ブロックを解析しようとした。SQLCHECK=SEMANTICS を指定している場合にのみ、PL/SQL ブロックを解析できます。

**処置：** PL/SQL ブロックを削除するか、SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

**PCB-00009 EXEC SQL 文の後で、MAXLITERAL の変更はできません。**

**原因：** EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

**処置：** MAXLITERAL オプションは、コマンド行または入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文でのみ使用してください。



---

**PCB-00010 EXEC ORACLE 文にある SQLCHECK 値がコマンド行の値を超えています。**

**原因：**SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンド行に指定した（あるいはデフォルトで受け入れられた）レベルよりも高いチェック・レベルで指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンド行に

SQLCHECK={SYNTAX|LIMITED} を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL} をインラインで指定できません。これは情報メッセージです。プリコンパイラはインライン値を無視して処理を続けます。

**処置：**EXEC ORACLE 文を訂正するか、またはコマンド行のチェック・レベルを低くしてください。

**PCB-00011 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。**

**原因：**V6 との互換性はサポートされていません。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されたものとしてプリコンパイルします。

**処置：**指定した DBMS オプションの値を、V6 から別の値に変更してください。

**PCB-00012 オプション TYPE\_CODE=ANSI の場合、コマンド行オプション DYNAMIC=ANSI が必要です。**

**原因：**DYNAMIC=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション TYPE\_CODE=ANSI が使用されました。TYPE\_CODE=ANSI の場合、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を指定する必要があります。

**処置：**TYPE\_CODE=ANSI に加え、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を設定するか、または TYPE\_CODE=ANSI は設定しないでください。

**PCB-00100 テンポラリ・ファイル: *string* を再オープンできません。**

**原因：**プリコンパイラはテンポラリ・ファイルを再オープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置：**ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

---

**PCB-00101 システム構成ファイルを検出またはオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラがシステム構成ファイルをオープンできませんでした。システム構成ファイルが存在しないか、ディレクトリが正しくありません。

**処置：**システム構成ファイルが正しいディレクトリにあるかどうかを確認してください。システム構成ファイルの配置は、Oracle インストレーション・マニュアルで確認してください。デフォルト・オプションを指定した PCCCOB.CFG のコピーを適切なディレクトリに置いてください。

**PCB-00102 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。**

**原因：**指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

**処置：**各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

**PCB-00104 入力ファイル *string* をオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置：**ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

**PCB-00105 挿入されたファイル名 *string* は、*number* 文字の名前制限を超えています。**

**原因：**指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

**処置：**各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

---

**PCB-00106 INCLUDE ファイル *string* をオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラは INCLUDE 文で指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置：**ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいか確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。また、ディスク領域が十分にあり、オープンするファイルの制限値が十分に大きいことを確認します（システム管理者に問い合せてください）。

**PCB-00108 リスト・ファイル *string* をオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラが LNAME プリコンパイラ・オプションで指定されたリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置：**ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンド行に LTYPE=NONE を指定してください。

**PCB-00109 生成されたソース・ファイル *string* をオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。

- 
- 指定したファイルが存在しない。
  - 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
  - ファイルのアクセス権限が不十分である。
  - 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
  - ディスク領域が不十分である。
  - オープンしているファイルが多すぎる。

**処置:** ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

**PCB-00110 テンポラリ・ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** プリコンパイラはテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である
- 同じ名前のファイルがすでに存在し、ロックされている
- ディスク領域が不十分である
- オープンしているファイルが多すぎる

**処置:** ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルがロックされていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

**PCB-00200 PIC N または PIC G 変数 *string* は同等化できません。**

**原因:** PIC N/G 変数、暗黙の VARCHAR グループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）またはグループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

**処置:** EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型に同値化する場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

---

**PCB-00201 標識変数: *string* はグループ項目ではありません。**

**原因:** ホスト変数は表を含むグループ項目です。この種類のホスト変数と同時に使用する標識変数は、グループ項目ホスト変数の表と対応する標識の表のグループ項目でなければなりません。

**処置:** 標識変数を標識表のグループ項目になるように変更してください。

**PCB-00202 標識変数: *string* はグループ項目または表ではありません。**

**原因:** ホスト変数はグループ項目です。この種類のホスト変数とともに使用する標識変数は、標識変数の表またはグループ項目でなければなりません。

**処置:** グループ項目または標識変数の表を使用してください。

**PCB-00203 ネストされたグループ項目 *string* はサポートされていません。**

**原因:** ホスト変数として使用されている変数は、他のグループ項目を含むグループ項目です。

**処置:** ホスト変数として使用されているグループ項目からすべてのグループ項目を削除してください。

**PCB-00204 グループ項目は INTO または VALUES 句以外で使用できません。**

**原因:** グループ項目ホスト変数が INTO または VALUES 句以外で使用されました。グループ項目ホスト変数は、INTO または VALUE 句でのみ使用できます。

**処置:** グループ項目ホスト変数を INTO または VALUES 句以外で使用しないでください。

**PCB-00205 NLS\_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で PIC N または PIC G 変数は使用できません。**

**原因:** プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=YES が使用されているときに、埋込み PL/SQL ブロックで PIC N または PIC G 変数が使用されました。この状況では PIC N または PIC G 変数はサポートされていません。

**処置:** PL/SQL ブロック内に PIC N または PIC G 変数を使用するか、プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=NO を使用してください。

**PCB-00206 NLS\_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で引用符リテラルの N は使用できません。**

**原因:** プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=YES が使用されているときに、"N" リテラル（フォーム N'...' のリテラル）が PL/SQL ブロック内で使用されています。この状況では N リテラルはサポートされていません。

**処置:** 通常のリテラル（"N" のないリテラル）を PL/SQL ブロック内で使用するか、プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=NO を使用してください。

---

**PCB-00207 NLS\_LOCAL=YES のとき、PIC N または PIC G 表変数は使用できません。**

**原因：** OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。NLS\_LOCAL=YES のとき、PIC N 変数の表はサポートされていません。

**処置：** OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。または、SQL 文で PIC N 変数を使用しないでください。

**PCB-00208 ホスト変数 *string* の型が正しくありません。**

**原因：** SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックに、サポートされていないデータ型の変数が使用されています。

**処置：** サポートされているデータ型のホスト変数を使用してください。

**PCB-00209 ホスト変数 *string* に対してスケールはサポートされていません。**

**原因：** SQL 文または埋込み PL/SQL で位取りをサポートしていない形式の変数が使用されました。次の形式は位取りをサポートしていません。

```
PIC S9(n) COMP
PIC S9(n) COMP-4
PIC S9(n) COMP-5
PIC S9(n) BINARY
PIC 9(n) COMP
```

**処置：** 位取りを削除するか、位取りをサポートするデータ型を使用してください。

**PCB-00210 PIC G および PIC N 変数 *string* では DISPLAY-1 だけ可能です。**

**原因：** USAGE 句で DISPLAY-1 を指定し、PICTURE 句で PIC G または PIC N を指定しないで宣言された変数が、SQL 文で使用されました。

**処置：** DISPLAY-1 を DISPLAY に置き換えるか、PICTURE 句で PIC N または PIC G を使用するように変更してください。

**PCB-00211 VARYING は PIC N または PIC G 変数 *string* でサポートされていません。**

**原因：** キーワード VARYING が PIC N 変数宣言で使用されました。

**処置：** 変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次の例にあるように、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN
DECLARE SECTION END-EXEC.
...
01 ENAME.
```

---

```
05 ENAME-LEN PIC S9(4) COMP.  
05 ENAME-ARR PIC N(20).  
...  
EXEC SQL END DECLARE  
SECTION END-EXEC.
```

**PCB-00212 PICTURE 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因:** PIC 句および COMP-1 または COMP-2 で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

**処置:** PIC 句を削除するか、変数宣言で COMP-1 または COMP-2 以外のデータ型を使用してください。

**PCB-00214 JUSTIFIED 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因:** SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで、JUSTIFIED 句を指定して宣言した変数が使用されました。

**処置:** 変数宣言から JUSTIFIED 句を削除してください。

**PCB-00215 OCCURS TO TIMES 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因:** TO TIMES 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

**処置:** 変数宣言から TO TIMES 副次句を削除してください。

**PCB-00216 OCCURS ASCENDING/DESCENDING は *string* に対して使用できません。**

**原因:** ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

**処置:** 変数宣言から ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を削除してください。

**PCB-00217 OCCURS INDEXED 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因:** SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで、OCCURS INDEXED 句を指定して宣言した変数が使用されました。

**処置:** 変数宣言から OCCURS INDEXED 句を削除してください。

**PCB-00218 RENAMES 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因:** SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで、RENAMES 句を指定して宣言した変数が使用されました。

**処置:** 宣言から RENAMES 句を削除してください。

---

**PCB-00219 EXEC SQL VAR 文で指定したサイズは無効です。**

**原因：**指定されたデータ型に無効なサイズが指定されました。

**処置：**指定された型に有効なサイズを指定してください。

**PCB-00220 EXEC SQL VAR 文で指定したスケールは無効です。**

**原因：**指定されたデータ型に無効なスケールが指定されました。

**処置：**指定された型に有効なスケールを指定してください。

**PCB-00221 OCCURS TO TIMES 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。**

**原因：**DEPENDING ON 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

**処置：**変数宣言から DEPENDING ON 副次句を削除してください。

**PCB-00222 ホスト変数: *string* のサイズが最大サイズを超えています。**

**原因：**既存のプラットフォームで許可されているものよりも大きい *n* を指定した PIC S9(*n*) で宣言した変数が、埋込み SQL 文で使用されました。32 ビット・マシンでは、*n* は 9 を超えることはできません。64 ビット・マシンでは、*n* は 18 を超えることはできません。

**処置：**picture 句で小さい値を指定し、使用しているプラットフォームの最大許容サイズを超えないようにするか、または COMP-3 を使用してください。

**PCB-00223 変数 *string* が宣言されていません。**

**原因：**SQL 文で使われる変数が宣言されていないか、名前の綴りが間違っています。または、オプションで DECLARE\_SECTION=YES を指定した場合に、宣言が DECLARE\_SECTION にありませんでした。

**処置：**変数の宣言を追加するかまたは修正してください。

**PCB-00224 変数 *string* への参照が不明瞭です。**

**原因：**同じ名前の変数が複数個あり、指定された修飾子がどの変数を参照するのか判別するのに不十分です。

**処置：**変数参照で明確な修飾子を使用してください。

**PCB-00225 SQL 識別子 *string* が宣言されていません。**

**原因：**記述子、文またはカーソルの名称を宣言していないか、またはその綴りが間違っています。あるいは、別のタイプの SQL 識別子として宣言されています。

**処置：**記述子、文またはカーソルの宣言を追加するかまたは修正してください。



---

**PCB-00226 SQL 識別子 *string* はすでに定義されています。**

**原因:** SQL 識別子（カーソル名、文名など）がすでに別の方法で定義されています。

**処置:** このような名前を使用するには、別の名前を使用してください。

**PCB-00227 標準変数 *string* が宣言されていません。**

**原因:** SQL 文で使用している標識変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが間違っています。

**処置:** 標識変数の宣言を追加するかまたは修正してください。

**PCB-00228 グループ項目変数 *string* が無効です。**

**原因:** SQL 文で使用できないグループ項目変数が使用されたか、名前の綴りが間違っています。

**処置:** グループ項目変数の宣言または SQL 文での使用を修正してください。

**PCB-00229 標準変数 *string* の型または長さが誤りです。**

**原因:** 標識変数を宣言節内で 2 バイト整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義しなければなりません。

**処置:** 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

**PCB-00230 標識表のサイズはホスト変数より大きくなければなりません。**

**原因:** ホスト変数配列が、より小さいディメンションで宣言された標識配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 EMP-NUM          OCCURS 4 TIMES PIC S9(4) COMP.  
01 EMP-NUM-IND      OCCURS 2 TIMES PIC S9(4) COMP.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.  
...  
SELECT ... INTO EMP-NUM:EMP-NUM-IND ...
```

**処置:** 標識配列のサイズを大きくしてください。

**PCB-00231 ホスト変数と標識変数に同じ名前を付けることはできません。**

**原因:** 1 つの EXEC SQL 文内で、標識変数の名前がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けた標識変数の名前は異なっていなければなりません。さらに、標識変数はホスト変数としては使用できません。

**処置:** ホストまたは標識変数の名前を変更してください。

---

**PCB-00232 SELECT 文では表を入力バインド変数として使用できません。**

**原因：**ホスト表を SELECT-INTO 文の WHERE 句内または SELECT-INTO 文の SELECT リストで使用しています。

**処置：**表を使用しないように SELECT 文を訂正するか、またはカーソルを使用してください。

**PCB-00233 INTO/USING 句の表サイズが一致しません。最小値: *number***

**原因：**INTO/USING 句内の表変数のサイズが、処理された行数に対して小さすぎます。

**処置：**少なくとも表示された最小サイズになるように INTO/USING 句内のすべての表変数を宣言してください。

**PCB-00234 FOR 句の変数 *string* の型が無効です。**

**原因：**FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型（または NUMBER 型または LONG 型と互換性のあるもの）でなければなりません。

**処置：**宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG（または、互換性のある Oracle またはホスト言語データ型）かどうかを確認してください。

**PCB-00235 INTO/USING 句の表サイズが不適切です。最小値: *number***

**原因：**動的 EXECUTE 文の INTO/USING 句内の表変数サイズが ARRAYLEN...EXECUTE されましたが、他のホスト変数は ARRAYLEN...EXECUTE されておらず、1 次元の表または標準の表ではないホスト変数でもありません。次に例を示します。

```
01 X PIC X(10) OCCURS 10.  
01 Y PIC S9(4) COMP OCCURS 10.  
01 Z PIC S9(4) COMP. ... EXEC SQL ARRAYLEN X (DIM) EXECUTE END-EXEC.  
... EXEC SQL EXECUTE S1 USING :X, :Y END-EXEC. <-- error EXEC SQL  
EXECUTE S1 USING :X, :Z END-EXEC. <-- ok
```

警告ではなく、エラーであるという点において、このエラーは 233 とは異なることに注意してください。

**処置：**INTO/USING 句のすべての表変数または 1 次元である必要がある ARRAYLEN...EXECUTE されていないホスト変数を ARRAYLEN...EXECUTE してください。

**PCB-00236 PIC N/G 変数を使用できません。NLS\_NCHAR が未設定か、設定が正しくありません。**

**原因：**ホスト変数として PIC N または PIC G 変数を使用するには、環境変数の NLS\_LANG および NLS\_NCHAR の両方を正しい値で設定する必要があります。次のいずれかの問題が発生すると、Pro\*COBOL が PIC N および PIC G 変数をホスト変数として使用できません。

- NLS\_LANG および NLS\_NCHAR のいずれか、または両方が設定されていない。

- 
- NLS\_LANG が有効な言語、地域または文字セットで設定されていない。
  - NLS\_NCHAR が、有効な NCHAR 文字セットに設定されていない。
  - NLS\_NCHAR で指定した文字セットが、固定幅の文字セットではない。  
Pro\*COBOL は、PIC N または PIC G ホスト変数に対して、固定幅の文字セットのみを使用できます。

**処置:** NLS\_NCHAR 環境変数を有効な固定幅の文字セット名に設定してください。  
NLS\_LANG を有効な言語、地域または文字セットで設定してください。

**PCB-00237 *string* の宣言では、レベル番号が 48 を超えることはできません。**

**原因:** レベル番号が 49 以上の VARYING または SQL-CURSOR 宣言が発生しました。

**処置:** レベルを 48 以下に変更してください。

**PCB-00238 この表グループ項目のホスト変数は、表を要素にできません。**

**原因:** 表であり、かつ表である要素を持つグループ項目が SQL 文で使用されました。

**処置:** OCCURS 句をグループ項目の要素から削除してください。

**PCB-00239 表グループ項目の標識は、表またはグループ項目を要素にできません。**

**原因:** 表であり、かつ標識として使用されるグループ項目に、表またはグループ項目である要素があります。

**処置:** 標識におけるネストされた表またはグループ項目が要素項目となるように変更してください。

**PCB-00240 このホスト変数を含むグループ項目には、表を使用できません。**

**原因:** OCCURS 句でグループ項目に属する基本項目が参照されました。これは許可されていません。

**処置:** グループ項目の表の要素ではない項目に使用された基本項目を変更してください。

**PCB-00241 ここではホスト変数が必要です。**

**原因:** 動的 SQL 文の COUNT 項目はホスト変数である必要がありますが、変数がありません。

**処置:** 動的 SQL 文の COUNT 項目にホスト変数を使用してください。

---

**PCB-00242** ここではホスト変数または真数値定数が必要です。

**原因:** 動的 SQL 文において特定の項目が、ホスト変数または真数値（整数）定数である必要がありますが、定数がありません。

**処置:** 動的 SQL 文の項目を変更し、ホスト変数または真数値定数を使用してください。

**PCB-00300:** ホスト変数のデータ型は ANSI *string* でサポートされていません。

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、VARCHAR などのポインタまたは非標準データ型が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 USERNAME          PIC X(10) VARYING.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。

**PCB-00301 Non-ANSI 機能の使用は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、Non-ANSI 機能が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合、この機能を使用しないでください。

**PCB-00302** この文は ANSI ではサポートされません。

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、PREPARE などの非標準 SQL 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL PREPARE SQL-STMT FROM :HV END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合、非標準文を使用しないでください。

**PCB-00303 動的 SQL と PL/SQL は ANSI SQL に対する Oracle の拡張機能です。**

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

---

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

**PCB-00304 WHENEVER 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。**

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、NOTFOUND、STOP、RAISE または DO などの非準拠キーワードが WHENEVER 文に使用されました (ただし、NOT FOUND は ANSI 準拠です)。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠キーワードを使用しないでください。

**PCB-00305 COMMIT 文と ROLLBACK 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。**

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、パラメータ RELEASE、COMMIT または FORCE が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠パラメータを使用しないでください。

**PCB-00306 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因:** ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

---

**PCB-00307 DROP TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、DROP TABLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、DROP 文を使用しないでください。

**PCB-00308 FOR 句は Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、FOR 句が表処理 SQL 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL FOR :LIMIT INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO)
VALUES (:EMPNUM, :JOB, :DEPTNO) END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR 句を使用しないでください。

**PCB-00309 CONNECT 文は、Oracle の依存処理系です。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、CONNECT 文が Oracle にログインするために使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL CONNECT:USERNAME IDENTIFIED BY:PSSWORD END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、CONNECT 文を使用せずに AUTO\_CONNECT コマンド行オプションを指定してください。

**PCB-00310 AT 句は Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、SQL 文で AT *db\_name* 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、AT *db\_name* 句を使用しないでください。

---

**PCB-00311 データ型の同等化は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、EXEC SQL VAR 文が使用されました。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、EXEC EXEC SQL VAR 文を使用しないでください。

**PCB-00312 ANSI では、ここでキーワード WORK が必要です。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、キーワード WORK を使用しないでください。

**PCB-00313 TO SAVEPOINT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、TO SAVEPOINT *save\_id* 句が ROLLBACK 文で使用されました。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、TO SAVEPOINT 句を使用しないでください。

**PCB-00314 DECLARE DATABASE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、DECLARE DATABASE 文が使用されました。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

**PCB-00315 DECLARE TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、DECLARE TABLE 文が使用されました。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

---

**PCB-00316 SQL FORMS 文は、Oracle 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、次のいずれかの文が使用されました。

- EXEC IAF GET
- EXEC IAF PUT
- EXEC TOOLS GET
- EXEC TOOLS SET

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

**PCB-00317 グループ項目のホスト変数は、Oracle 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、ホスト変数としてグループ項目の変数が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、グループ項目をホスト変数として使用しないでください。

**PCB-00318 ARRAYLEN は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、ARRAYLEN 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

**PCB-00319 EXEC ORACLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、EXEC ORACLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

**PCB-00320 VARYING ホスト変数 *string* は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、VARYING 型で宣言された変数が SQL 文に使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。



---

**PCB-00321 暗黙の VARCHAR ホスト変数は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、暗黙の VARCHAR 変数が SQL 文で使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

**PCB-00322 EXEC SQL LOB 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、EXEC SQL LOB 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

**PCB-00400 *string***

**原因：**構文エラーが検出されました。

**処置：**適切な処置を行い、示されたエラーを修正してください。

**PCB-00401 文字列が正しく終了していません。**

**原因：**文字列が適切な引用符またはアポストロフィで終了していません。

**処置：**文字列が正しく終了していること、および行継続の構文が正しいことを確認してください。

**PCB-00402 擬似テキストが正常に終了していません。**

**原因：**擬似テキストのブロックが、"==" で正しく終了していませんでした。

**処置：**適切な位置に "==" を付けて擬似テキストを終了してください。

**PCB-00403 EXEC 文は領域 A からは開始できません。**

**原因：**EXEC 文が領域 A（列 12 より前）で始まっています。

**処置：**EXEC 文を右に移動し、領域 B（列 12 以降）で始まるようにしてください。

**PCB-00404 *string***

**原因：**構文エラーが検出されました。

**処置：**適切な処置を行い、示されたエラーを修正してください。

---

**PCB-00500 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。**

**原因：**EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されず、オプション THREADS=YES が要求されました。

**処置：**必要なコンテキスト変数（型 SQL\_context の）が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割当ておよび使用されているか確認してください。

**PCB-00501 実行時コンテキスト変数 *string* の型が正しくありません。**

**原因：**EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照されるランタイム・コンテキスト変数の型が SQL\_CONTEXT ではありません。

**処置：**SQL\_CONTEXT 型の実行時コンテキスト変数を宣言してください。

**PCB-00502 この文は THREADS=YES のときだけ使用できます。**

**原因：**THREADS オプションが NO と設定されているが、EXEC SQL ENABLE THREADS が使用されました。

**処置：**オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

**PCB-00525 ここで AT 句は使用できません。**

**原因：**明示的 AT 句が ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文（SQL\_CURSOR 宣言を使用）と同時に使用されました。

**処置：**AT 句の指定を削除してください。

**PCB-00550 *string* では ORACLE にログオンできません。Oracle エラー番号 : *number***

**原因：**プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワードで Oracle にログインできませんでした。ログインしようとしたときに表示された番号の Oracle エラーが発生しました。

**処置：**示された Oracle データベースのエラー・メッセージを探して、適切な処置を行ってください。

**PCB-00551 SQLCA はすでに挿入されています。**

**原因：**SQLCA がすでに組み込まれた後で、プリコンパイラは SQLCA 文の組込みを検出しました。SQLCA は一度しか組み込めません。

**処置：**重複した組込み SQLCA 文を削除してください。

---

**PCB-00552 SQLCA と SQLCODE 変数は両方一度に使用できません。**

**原因：**SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで COBOL コンパイラ・エラーを引き起こす可能性があるため、これは許可されていません。

**処置：**SQLCA 変数または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。SQLCA の組み込みまたは SQLCODE 変数宣言のいずれかを削除してください。

**PCB-00553 この文に FOR 句は使えません。**

**原因：**FOR 句が SELECT、LOB または DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。FOR 句はこれらの文で使用できません。SELECT 文の場合、SELECT を実行して最後のループから戻されたデータは、前のループで戻されたデータを上書きします。

**処置：**FOR 句を文から削除してください。ホスト言語構成体を使用して、文を反復して実行してください。

**PCB-00554 mode=ANSI で WHENEVER SQLWARNING 文を使うとき、SQLCA が必要です。**

**原因：**MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を宣言せずに WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとしていました。MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

**処置：**プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA をハードコーディングして宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

**PCB-00555 WHERE CURRENT OF 句で定義するカーソルには FOR UPDATE 句も必要です。**

**原因：**mode=ORACLE の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

**処置：**カーソル定義を修正してください。

**PCB-00556 回復不能なエラー。前のエラーを修正して再プリコンパイルしてください。**

**原因：**致命的な解析エラーまたはトークン・スタック・オーバフローが検出されました。

**処置：**解析エラーの原因となっている構文エラーを修正してください。

---

**PCB-00557 USING 句は、PREPARED の動的な文でだけ使用できます。**

**原因：**OPEN カーソル文で USING 句が使用され、カーソル宣言が PREPARE された文に対するものでなかったため、重大な意味エラーが発生しました。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL prepare sv from :sel_stmt END-EXEC.  
EXEC SQL declare csv cursor for sv END-EXEC.  
EXEC SQL open csv USING :hv1, :hv2 END-EXEC.
```

**処置：**SQL 文および DECLARE CURSOR 文で PREPARE 文を使用してください。

**PCB-00558 EXEC SQL VAR 文で無効な外部データ型が指定されました。**

**原因：**無効な外部データ型が EXEC SQL VAR 文で指定されました。

**処置：**有効な外部データ型を指定してください。

**PCB-00575 PLS-number: string**

**原因：**示された PL/SQL エラー・メッセージからエラー条件を調べてください。

**処置：**表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを訂正してください。

**PCB-00576 PLS-number: string**

**原因：**埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

**処置：**表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを訂正してください。

**PCB-00577 SQL 文内でホスト表を宣言した ARRAYLEN 文を使用しても無視されます。**

**原因：**ARRAYLEN は PL/SQL でのみ有効です。

**処置：**適切な表タイプを使用してください。

**PCB-00578 変数 string は表である必要があります。**

**原因：**ARRAYLEN 文に、以前宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は表である必要があります。2 番目のホスト変数には 4 バイトの整数で配列を指定します。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN HTABLE (DIM) END-EXEC.
```

ARRAYLEN 文は、HOST\_TABLE および要素数の宣言より後ろにある必要があります。

**処置：**ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているホスト配列名を指定してください。

---

**PCB-00579 *string* に対する ARRAYLEN 文の長さの変数型が無効です。**

**原因：**ARRAYLEN 文に有効な表の要素数が指定されませんでした。表の要素数は、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ETABLE (25) END-EXEC. -- illegal dimension
```

**処置：**有効な表の要素数を指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

**PCB-00580 以前に使用したホスト変数 *string* では異なる識別子を使用されています。**

**原因：**PL/SQL 文内で、ホスト変数に異なる 2 つの標識変数が使用されているか、インスタンスのある標識変数とインスタンスのない標識変数が使用されています。

**処置：**ホスト変数に対する参照をすべて変更して、すべてのホスト変数が同じ標識変数を使用するか、または標識変数を使用しないように設定してください。

**PCB-00581 *string* は、ホスト変数と識別子の両方で使用されました。**

**原因：**PL/SQL 文内で、同じ変数がホスト変数および標識変数の両方で使用されています。

**処置：**ホスト変数および標識変数に異なる変数を使用してください。

**PCB-00600 EXEC IAF 文では標識変数は使用できません。**

**原因：**ホスト変数と対応付けられている標識変数を、ユーザー・イグジットの EXEC IAF 文 (GET や PUT など) で使用できません。

**処置：**標識変数を排除してください。可能であれば (たとえば Forms V4 などのように)、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、標識変数を許可しています。EXEC IAF および EXEC TOOLS 文の詳細は、『Pro\*COBOL プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**PCB-00603 EXEC TOOLS MESSAGE 文で使用するホスト変数が文字型ではありません。**

**原因：**EXEC TOOLS MESSAGE 文でメッセージを指定するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

**処置：**CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

---

**PCB-00625 この属性では標準変数は必要ありません。**

**原因：**LOB DESCRIBE で、標識変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、標準変数がホスト変数とともに使用されました。

**処置：**標識変数を削除してください。

**PCB-00626 LOB の型が一致しません。**

**原因：**型が一致しない LOB 間で LOB 操作が試行されました。たとえば、1 つの LOB を別の LOB に割り当てる場合、両方の LOB が同じ型である必要があります。両方の LOB が同じ型でない場合、このエラーが発生します。

**処置：**同じ型の LOB 間で機能させることによって、LOB 操作を修正してください。これには、指定された操作を実行する LOB 文で使用される LOB の 1 つを再宣言することが必要となります。

**PCB-00627 ホスト変数が文字型ではありません。**

**原因：**指定されたホスト変数が、必要な文字型として宣言されませんでした。この場合、いくつかの可能な文字型の 1 つが受け入れられます。しかしホスト変数型は、そのいずれにも一致しませんでした。

**処置：**許可されている文字型の 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

**PCB-00628 バッファ型が LOB の型と一致しません。**

**原因：**このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- LOB 型と一致しない型のバッファへ LOB から読み込もうとした。
- バッファ型と一致しない型の LOB へバッファを書き込もうとした。

**処置：**LOB およびバッファ型が、指定された操作と一致するように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

**PCB-00629 ホスト変数が内部 LOB 型ではありません。**

**原因：**指定されたホスト変数が内部 LOB として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は内部 LOB 型です。

**処置：**内部 LOB 型の 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言してください。

**PCB-00630 ホスト変数が LOB 型ではありません。**

**原因：**指定されたホスト変数が、内部または外部 LOB のいずれの型としても宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は内部 LOB 型です。BFILE は外部型です。

**処置：**内部または外部のいずれかの LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

---

**PCB-00631 ホスト変数は外部 LOB ではありません。**

**原因：**指定されたホスト変数が外部 LOB として宣言されませんでした。BFILE は外部型です。

**処置：**外部 LOB 型（BFILE）を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

**PCB-00632 READ WRITE モードで外部 LOB をオープンできません。**

**原因：**READ WRITE モードで BFILE をオープンしようとしてしました。書き込み可能な BFILE は現行サポートされていないため、この操作はエラーとみなされます。

**処置：**READ WRITE モードを使用して BFILE をオープンしないでください。BFILE は、READ ONLY モードでのみオープンできます。

**PCB-00633 ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。**

**原因：**LOB DESCRIBE のホスト変数および属性の組み合わせが無効でした。これは、ホスト変数での問題である可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合、このエラーが発生します。

**処置：**通常、その他のより具体的なエラーがこのエラーに付随します。このエラーを解決するには、これらの問題のいくつかまたはすべてを修正してください。

**PCB-00635 この属性は内部 LOB 型に対してだけ有効です。**

**原因：**指定された LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性に対して要求されました。

**処置：**LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を、内部 LOB として宣言された変数と置き換えてください。

**PCB-00636 この属性は外部 LOB 型に対してだけ有効です。**

**原因：**指定された LOB が外部 LOB 型（BFILE）でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性に対して要求されました。

**処置：**LOB DESCRIBE 文で外部 LOB（BFILE）ホスト変数を使用してください。

**PCB-00637 ホスト変数が正しい 2 進整数型ではありません。**

**原因：**ホスト変数が、受入れ可能な正しい 2 進整数型として宣言されないように指定されました。一般に、このエラーが発生すると、符号ありまたは符号なしの整数型が必要です。浮動小数点または不明確な数値型はエラーとみなされます。

**処置：**問題のあるホスト変数を、正しい 2 進整数型を使用して宣言された変数に置き換えてください。

---

**PCB-00638** この属性は外部 LOB 型に対してだけ有効です。

**原因:** 指定されたソースが内部または外部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性に対して要求されました。

**処置:** LOB DESCRIBE 文で LOB ホスト変数を使用してください。

**PCB-00639** LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。

**原因:** 宛先オフセットが、LOB WRITE APPEND 文に指定されました。宛先オフセットは LOB の最後にあるものとみなされるため、明示的な宛先オフセットの指定はエラーとなります。

**処置:** LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

**PCB-00700** この文は DYNAMIC=ANSI を指定しないと使用できません。

**原因:** DYNAMIC=ANSI を指定しないで、次の文のいずれかが使用されました。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ... USING ... *descriptor\_name*
- EXEC SQL EXECUTE ... INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ... USING... *descriptor\_name*
- EXEC SQL OPEN ... INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ... USING... *descriptor\_name*
- SCROLL in DECLARE CURSOR
- EXEC SQL FETCH *orientation* (*orientation* が NEXT、PRIOR、FIRST、LAST、ABSOLUTE または RELATIVE の場合)

**処置:** DYNAMIC=ANSI を指定するか、前述の文を削除してください。

**PCB-00701** MAX OCCURRENCES は 1 から 65535 の間でなければなりません。

**原因:** EXEC SQL ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

**処置:** 値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。



---

**PCB-00702 項目番号が範囲外です。**

**原因：**EXEC SQL GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUES 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

**処置：**値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

**PCB-00901 Pro\*COBOL の内部エラー条件が見つかりました（コード = *number*）。**

**原因：**Pro\*COBOL は、内部データ構造に異常条件を検出しました。このエラー・メッセージは、通常は表示されません。オラクル社カスタマ・サポートに連絡し、エラーを報告してください。

**処置：**報告されている他のエラーを修正してください。修正後も、内部エラーが存在する場合は、条件が検出されたソース・コード部分を調べて、なんらかの方法で変更を試みてください。おそらく、これによって内部エラー条件が軽減されます。

**PCB-00902 メッセージ・ファイルを読み込めません（機能：PCB）。**

**原因：**Pro\*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。おそらく、このファイルは壊れています。

**処置：**Pro\*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。

**PCB-00903 Pro\*COBOL で、その解析機能を初期化できません。**

**原因：**Pro\*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。おそらく、このファイルは壊れています。

**処置：**Pro\*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。



---

## PCF FIPS メッセージ (PCF)

この章では、プリコンパイラ・コマンド行オプション FIPS=YES を指定するとき、および ANSI/ISO 埋込み SQL 標準への Oracle 拡張機能を使用するときに生成されるメッセージを列挙します。コードを標準に準拠させる場合は、メッセージ中に記述されている Oracle 拡張機能は使用しないでください。

**PCF-00251 SQLCODE は使用すべきでない機能です。**

**PCF-00252 SQL 内での C プリプロセッサの使用**

**PCF-00253 AT 句の使用**

**PCF-00254 FOR 句の使用**

**PCF-00255 CONNECT 文の使用**

**PCF-00256 SQLCODE は非標準値を戻します。**

**PCF-00257 COMMIT の後にはキーワード WORK が必要です。**

**PCF-00258 ROLLBACK の後にはキーワード WORK が必要です。**

**PCF-00259 TO SAVEPOINT 句の使用**

**PCF-00260 RELEASE 句の使用**

**PCF-00261 動的 SQL の使用**

**PCF-00262 PL/SQL の使用**

**PCF-00263 WHENEVER 句内の SQLWARN の使用**

**PCF-00264 WHENEVER 句内の NOTFOUND の使用**

**PCF-00265 COMMIT 句内の COMMENT 句の使用**

**PCF-00266 WHENEVER 句内の STOP の使用**

**PCF-00267 FORCE TRANSACTION 句の使用**

**PCF-00268 WHENEVER 句内の DO の使用**

**PCF-00269 DECLARE TABLE 文の使用**

**PCF-00270 DECLARE DATABASE 文の使用**

**PCF-00271 EXEC SQL INCLUDE の使用**

---

PCF-00272 データ型同値化の使用  
PCF-00273 SQL FORMS 文の使用  
PCF-00274 EXEC ORACLE 文の使用  
PCF-00275 無効なデータ型  
PCF-00276 DROP TABLE 文の使用  
PCF-00277 非 ANSI 機能の使用  
PCF-00278 ALLOCATE 文の使用  
PCF-00279 PL/SQL オブジェクト作成のための CREATE の使用  
PCF-00280 OBJECT Navigational Interface の使用  
PCF-00281 LOB 文の使用  
PCF-00282 COLLECTION 文の使用

---

## Pro\*C/C++ メッセージ (PCS)

Pro\*C/C++ の詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

### PCS-00301 読み込み用の入力ファイルを再オープンできません。

**原因:** プリコンパイラの意味分析フェーズで、入力ファイルを再オープンして出力コードを生成できませんでした。

**処置:** プリコンパイルの途中で入力ファイルとディレクトリの保護および権限が変更されていないか確かめてください。

### PCS-00302 コード生成用の出力ファイル: *string* をオープンできません。

**原因:** Pro\*C がコード生成に必要な一時ファイルの一方または両方をオープンできませんでした。プリコンパイラを実行しているユーザーに、現行のディレクトリの書き込み許可（または適切な権限）が必要です。

**処置:** 書き込み許可があり、プリコンパイルするディレクトリでファイルを作成できることを確認してください。

### PCS-00303 挿入ファイルをオープンできません。

**原因:** プリコンパイラが、#INCLUDE プリプロセッサ・ディレクティブまたは EXEC SQL INCLUDE 文を使用して指定されたヘッダー・ファイルをオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルまたはパス内の 1 つまたは複数のディレクトリに対する読み込み許可や読み込みアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

**処置:** ファイルの指定が正しいかどうか、ファイルが存在するかどうか、さらに読み込むファイルに対して読み込み許可があるかどうかを確認してください。

### PCS-00304 C 機能の宣言が無効です。

**原因:** C 関数が無効な構文を使用して宣言されました。

**処置:** C プログラム・マニュアルを調べて、宣言を訂正してください。

---

**PCS-00305 新旧スタイルの C 機能宣言の混合が正しくありません。**

**原因：**従来のスタイル（K&R スタイル）または新しい（ANSI）スタイルの関数宣言を使用して、すべての C 関数を宣言する必要があります。この 2 つのスタイルを混在させることはできません。

**処置：**一貫した関数の宣言スタイルを採用してください。

**PCS-00306 C 機能の名前が正しくありません。**

**原因：**有効な C 識別子でない名前で C 関数が宣言されました。

**処置：**すべての関数名に有効な C 識別子を使用してください。

**PCS-00307 訂正はシングル・パラメータのときだけ使用できます。**

**原因：**次の構文を使用して、機能を宣言または定義できます。

```
int func1(void)
```

関数がパラメータを持たないことを示すために、この場合、void を 1 度のみ使用できます。

**処置：**関数定義または宣言で余分な void を削除してください。

**PCS-00308 この機能宣言には識別子が必要です。**

**原因：**ANSI\_C で書かれた関数定義には、すべてのパラメータに名前および型の両方が必要です。

**処置：**関数定義を書き換えて、各パラメータの名前を含むようにしてください。

**PCS-00309 仮パラメータの宣言が正しくありません。**

**原因：**関数宣言で、型を指定しないで仮パラメータを指定しました。

**処置：**関数宣言を書き換えて、すべてのパラメータの型を関数宣言に含めてください。

**PCS-00310 仮パラメータ VARCHAR はポインタとして宣言してください。**

**原因：**多くの C コンパイラでは、構造体が関数に渡されたり、関数から戻されたりするようになっています。VARCHAR は C 構造体としてインプリメントされますが、VARCHAR はポインタとして関数に渡す必要があります。

**処置：**VARCHAR が関数に渡されるときのアドレスを指定してください。詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

---

**PCS-00311 VARCHAR のビット・フィールドを含めることはできません。**

**原因:** ホスト変数にビット・フィールドを含めることはできません。

**処置:** アプリケーションを再コーディングして、ビット・フィールドを削除してください。

**PCS-00312 2つのディメンションを超える VARCHAR の配列はできません。**

**原因:** 2次元以上の VARCHAR 変数が宣言されました。複数次元の配列はホスト変数としてサポートされません。

**処置:** アプリケーションを再コーディングして、複数次元の配列を削除してください。

**PCS-00313 VARCHAR 宣言の作成に間違いがあります - サイズがありません。**

**原因:** VARCHAR 宣言のとき、長さ指定は必須です。たとえば、次に示す VARCHAR 宣言は意味がなく無効です。

```
VARCHAR v1[];
```

**処置:** それぞれの宣言された VARCHAR に長さを指定してください。

**PCS-00314 定数 SIZEOF 式を評価できません。**

**原因:** プリコンパイラが想定されているところで、SIZEOF 演算子が使用されました。(たとえば、VARCHAR の長さなど。)

**処置:** このインスタンスで SIZEOF 演算子を排除してください。

**PCS-00315 式は定数として評価できません。**

**原因:** 指定された式は定数として評価しません。たとえば、VARCHAR の長さなどのような式が必要です。

**処置:** 定数整数として評価される式に変更してください。

**PCS-00316 定数式にある演算子が正しくありません。**

**原因:** 定数式の中に非算術演算子があります。

**処置:** 式を修正して非算術演算子を削除してください。

**PCS-00317 式のキャスト・タイプが正しくありません**

**原因:** 式の中に無効なキャストがあります。

**処置:** 無効なキャストを削除してください。

**PCS-00318 式にタイプがありません。**

**原因:** 指定した式には型の宣言が欠落しています。

**処置:** 式の型を指定してください。

---

**PCS-00319 式タイプが使用方法に合っていない。**

**原因:** 変数の型がその使用方法に添っていません。たとえば、動的 SQL で SQL のテキスト文を含んでいるホスト変数は、C 文字型として宣言されるか、または SQL 型の STRING と同等化されなければなりません。

**処置:** 宣言を削除してください。

**PCS-00320 算術式のオペランド・タイプが正しくありません。**

**原因:** 算術式は整数型で指定する必要があります。

**処置:** 整数型を使用して、式を修正してください。

**PCS-00321 2 つのポインタ間での減算だけが可能です。**

**原因:** ポインタ値の加算、乗算または除算はできません。ポインタで許可されている算術演算は減算のみです。

**処置:** 再コーディングして、このエラー・メッセージを回避してください。

**PCS-00322 未定義の識別子が見つかりました。**

**原因:** SQL 文に使用されている識別子が定義されていません。たとえば、宣言されていないカーソル名が参照されたり、まだ PREPARE されていない文名が DECLARE CURSOR 文で使用されました。

**処置:** カーソル名や文名などの SQL 識別子がすべて、使用前に定義されていることを確認してください。変数またはその型の識別子（または両方）の宣言をしてください。

**PCS-00323 typedef 名が式の中（値が入るところ）で使用されています**

**原因:** 変数が想定されている場所で TYPEDEF 名が見つかりました。

**処置:** TYPEDEF に対する参照を削除するように式を修正してください。

**PCS-00324 変数名が typedef 名に使用されています。**

**原因:** TYPEDEF が想定されている場所に変数名が見つかりました。

**処置:** 式を修正して、正しい TYPEDEF 参照を指定してください。

**PCS-00325 間接演算が正しくありません。**

**原因:** 非ポインタ型をポインタとして使用しようとしました。

**処置:** 式を修正してください。

**PCS-00326 構造体の参照演算が正しくありません。**

**原因:** 無効な構文を使用して構造体の構成要素が参照されました。たとえば、'.' 演算子ではなく、-> 演算子が使用されました。

**処置:** 不正な参照を訂正してください。



---

**PCS-00327 struct または struct のポインタが必要です。**

**原因：**構造体（またはそのポインタ）が必要なコンテキストで、スカラー・ホスト変数が使用されました。

**処置：**ホスト変数を構造体にするか、または SQL 構文の要件を満たすようにスカラー・ホスト変数をさらに追加してください。

**PCS-00328 struct メンバーが未定義です。**

**原因：**宣言されなかった構造体の構成要素が参照されました。

**処置：**構造体を再定義してください。

**PCS-00329 未宣言機能への参照が見つかりました。**

**原因：**宣言されなかった関数が参照されました。すべての関数の参照を宣言する必要があります。

**処置：**関数を宣言してください。

**PCS-00330 整数タイプの式が入ります。**

**原因：**式が整数として評価されません。たとえば、SQL FOR 式は整数型として評価される必要があります。

**処置：**式を修正してください。

**PCS-00331 SQL の識別子が未定義です。**

**原因：**すべての SQL 識別子は使用前に定義する必要があります。このメッセージは、CURSOR または STATEMENT が参照前に宣言（定義）されていない場合に出力されます。

**処置：**使用前に SQL 識別子を定義してください。

**PCS-00332 SQL の識別子を再定義しようとしてしました。**

**原因：**SQL 識別子（たとえばカーソル名など）は 1 度しか定義できません。

**処置：**SQL 識別子を再定義しないでください。別の名前を使用してください。

**PCS-00333 SQL の識別子が文として宣言されていません。**

**原因：**SQL 文識別子が、PREPARE されてない DECLARE... CURSOR 文で参照されました。

**処置：**すべての SQL 文名が宣言されていることを確かめてください。SQL 文名は識別子であって変数ではないことおよびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

---

**PCS-00334 SQL の識別子がカーソルとして宣言されていません。**

**原因：**宣言されていないカーソル名が OPEN、FETCH または CLOSE 文で使用されました。

**処置：**すべての SQL カーソル名が宣言されていることを確かめてください。カーソルは識別子であって変数ではないこと、およびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

**PCS-00335 カーソル本体で文の識別子に名前をつける必要があります。**

**原因：**動的 SQL メソッド 4 のアプリケーションでは、DECLARE... CURSOR 文は、前の文中で DECLARE...STATEMENT 文の識別子に名前をつける必要があります。

DECLARE...STATEMENT 文は物理的に（論理的にはなく）DECLARE コマンドの前にある必要があります。

**処置：**このメッセージの後に文を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。アプリケーションを再コーディングしてください。

**PCS-00336 ホスト変数式のタイプが正しくありません。**

**原因：**ホスト変数として許可されていない C の型を使用してホスト変数が宣言されました。ホスト変数として許可されている C の型のリストは、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**処置：**許可されているホスト変数の型を使用してください。

**PCS-00337 このタイプに対してはマルチディメンション配列を宣言できません。**

**原因：**複数の次元を持つスカラーのホスト変数配列は宣言できません。複数の次元を持つことを許可されているホスト変数は CHAR および VARCHAR のみです。

**処置：**変数宣言を修正してください。

**PCS-00338 構造体にネストされた struct または union が含まれています。**

**原因：**ホスト変数として使用される構造体は、ネストされた構造体または共用体を含むことができません。

**処置：**変数宣言を修正してください。

**PCS-00339 ホスト変数は union タイプにできません。**

**原因：**ホスト変数として C 共用体を使用できません。

**処置：**このメッセージの後に無効な共用体を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。構造体または対応するスカラー・ホスト変数を使用して、再コーディングしてください。

---

**PCS-00340 構造体にビット・フィールドが含まれています。**

**原因：**ビット・フィールドはデータベース DML 操作では意味をなさないため、ホスト変数では許可されていません。

**処置：**このメッセージの後に無効なホスト変数を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。アプリケーションを再コーディングしてください。

**PCS-00341 ホスト変数のタイプが正しくありません。**

**原因：**ホスト変数に許可されていない（ENUM または VOID など）型が使用されています。

**処置：**許可されたホスト変数のタイプを使用して、ホスト変数の宣言を修正してください。

**PCS-00342 FOR UPDATE 句なしで定義されたカーソルで WHERE CURRENT OF が使用されています。**

**原因：**MODE=Oracle の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

**処置：**カーソル定義を修正してください。

**PCS-00343 カーソルの本体は問合せ式でなければなりません。**

**原因：**カーソル定義は SELECT 文の必要があります。

**処置：**カーソル定義を修正してください。

**PCS-00344 ホスト変数の配列サイズが合っていないません。最小値：*number* を使用しています。**

**原因：**1 つの文のホスト変数の配列は、すべて同じサイズである必要があります。

**処置：**バインド変数の配列の長さをすべて同じサイズに再定義してください。

**PCS-00345 組込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、SQLCHECK=SEMANTICS でなければなりません。**

**原因：**組込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、コマンド行フラグ SQLCHECK=SEMANTICS が使用されている必要があります。

**処置：**SQLCHECK=SEMANTICS オプションを使用してください。なお、これには USERID 接続オプションも必要です。

**PCS-00346 PL/SQL で意味エラーが見つかりました。**

**原因：**存在しない表名や列名などのデータベース・エンティティが参照されました。これはコンパイル時のエラーで、実行時エラーではありません。

**処置：**PL/SQL 文で参照されたオブジェクトがすべて存在し、それらに必要なアクセス許可が付与されていることを確認してください。

---

**PCS-00347 PL/SQL で構文エラーが見つかりました。**

**原因：**PL/SQL 文の使用方法が正しくありません。

**処置：**正しい構文の詳細は、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**PCS-00348 標識は EXEC IAF 文では使用できません。**

**原因：**ホスト変数と対応付けられている標識変数を、ユーザー・イグジットの EXEC IAF 文 (GET および PUT など) で使用できません。

**処置：**標識変数を排除してください。可能であれば (たとえば Forms V4 などのように)、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、標識変数を許可しています。詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**PCS-00349 このタイプには精度を指定する必要があります。**

**原因：**VAR 文または TYPE 文では、特定の Oracle 型に精度の指定が必要です。たとえば、VARCHAR2 および CHAR がそうです。

**処置：**精度を指定してください。

**PCS-00350 この SQL の型は同値化できません。**

**原因：**データ型 NUMBER または DECIMAL に同値化するデータ型または変数が使用できません。詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**処置：**アプリケーションに適切なデータ型を使用してください。

**PCS-00351 データ型の同値化演算が正しくありません。**

**原因：**指定されたデータ型を同値化できないか、または VAR 文または TYPE 文の構文が不正確です。

**処置：**同値化できるデータ型のリストおよび VAR 文や TYPE 文の正しい構文の詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**PCS-00352 バインド位置が PL/SQL から外れています。**

**原因：**PL/SQL が存在しないバインド位置を要求しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PCS-00353 意味的エラーです (行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*) :**

**原因：**このエラー・メッセージの後に明確なエラー・メッセージが表示されます。

**処置：**次のメッセージに示されるエラーを訂正してください。

---

**PCS-00354 #include で挿入されたファイルに SQL 文を含めることはできません。**

**原因:** Pro\*C プリコンパイラは #INCLUDE ディレクティブで参照されたヘッダー・ファイルを読み取り、そこに定義された値を使用します。ただし、プリコンパイラはヘッダー・ファイルの文を使用してコードを生成しないので、ヘッダー・ファイルで SQL 文を使用するのは無効です。

**処置:** SQL 文をアプリケーションの主本体に移動するか、または EXEC SQL INCLUDE を使用して、インクルード・ファイルがプリコンパイルされることを確認してください。

**PCS-00355 オプションが無効か、廃止になっています。無視されます。**

**原因:** Pro\*C リリース 8.1 では使用されないコマンド行オプションが指定されました。たとえば、AREASIZE オプションは Oracle Server で使用するプリコンパイラでは無効になっています。

**処置:** 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

**PCS-00356 警告 (行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*) :**

**原因:** これは一般的な警告メッセージです。特定の警告がこの後に表示されます。

**処置:** 処置は必要ありません。次のメッセージに示されるエラーを訂正してください。

**PCS-00357 ファンクション・コールはホスト変数式として使用できません。**

**原因:** LVALUES (アドレスの決まったもの) であるオブジェクトのみがホスト変数になることができます。関数呼出しが LVALUE でないため、ホスト変数の代用にはなりません。

**処置:** アプリケーションを再コーディングしてください。

**PCS-00358 ARRAYLEN の後の識別子は配列名でなければなりません。**

**原因:** ARRAYLEN 文の引数には、宣言された配列を指定する必要があります。ARRAYLEN 文を指定する前に配列を宣言してください。ARRAYLEN 文の構文の詳細は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**処置:** 引数としてホスト配列を指定し、文を訂正してください。

**PCS-00359 ARRAYLEN を指定する識別子は 4 バイトの整数でなければなりません。**

**原因:** ARRAYLEN の次元を指定する式は整数として評価されなければなりません。たとえば、EXEC SQL ARRAYLEN my\_array(1,3) という文は解析できません。

**処置:** 整数の次元を使用して、文を修正してください。

---

**PCS-00360 この配列型は、ARRAYLEN 文と一緒に使用できません。**

**原因：**いくつかのホスト変数型の配列は許可されていないため、ARRAYLEN 文では使用できません。VARCHAR および DATE はその例です。

**処置：**ホスト配列で利用できるデータ型で配列を指定してください。

**PCS-00361 ARRAYLEN は SQL バインド配列と一緒に使用できません。**

**原因：**ARRAYLEN は、PL/SQL ブロックにバインドできる配列でのみ有効です。

**処置：**適切な配列型を使用してください。

**PCS-00362 ホスト変数は SQL DECLARE 節で宣言されていません。**

**原因：**プリコンパイル時に MODE=ANSI を指定する場合、ホスト変数はすべて宣言節内部で宣言される必要があります。MODE=ANSI は ANSI C ではなく ANSI SQL を示すことに注意してください。

**処置：**EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION... EXEC SQL END DECLARE SECTION 文内ですべてのホスト変数を宣言してください。

**PCS-00363 標識変数は構造体でなければなりません。**

**原因：**ホスト変数が構造体である場合、あわせて使用する標識変数も構造体にする必要があります。

**処置：**アプリケーションを再コーディングして、標識変数を構造体として作成してください。

**PCS-00364 ホストの struct およびその標識の数はフィールド数と同じでなければなりません。**

**原因：**標識変数を含む構造体を宣言して、ホスト構造体と対応付ける場合、標識構造体はホスト構造体と同じフィールド数を含む必要があります。これは、一部の標識変数が使用されない場合や、使用しても意味がない場合（たとえば、NON NULL として制約されているフィールドの場合）にも当てはまります。

**処置：**正しいフィールド数を持つ標識構造体を再宣言してください。

**PCS-00365 標識の配列サイズはホストの配列サイズより大きくなければなりません。**

**原因：**標識配列の次元は、対応するホスト変数配列の次元と等しいかそれより大きくする必要があります。

**処置：**標識配列の次元を変更してください。

**PCS-00366 コマンド行引数：MODE=ANSI は DBMS=V6 と一緒に使用できません。**

**原因：**Oracle パージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO SQL 標準に 100% 準拠していません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6\_CHAR オプションを使用した V6 の方法が要求されている場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

**処置：**V6 オプションで ANSI モードを使わないでください。

---

**PCS-00367 この標識変数は SHORT 型で宣言しなければなりません。**

**原因：**この型のホスト変数標識は、C の SHORT 型である必要があります。また、このような標識の配列は、SHORT 型の配列でなければなりません。

**処置：**標識変数または標識配列を SHORT 型で宣言してください。

**PCS-00368 EXEC TOOLS のホスト変数コンテキスト名が CHAR 型ではありません。**

**原因：**EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文でコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

**処置：**CHAR 型のホスト変数に対してコンテキスト名を宣言してください。

**PCS-00369 EXEC TOOLS のホスト・ポインタ変数がポインタではありません。**

**原因：**EXEC TOOLS コンテキストを指定するホスト変数はポインタ型である必要があります。

**処置：**変数がポインタであることを確認して、再宣言してください。

**PCS-00370 EXEC TOOLS MESSAGE のホスト変数が CHAR 型ではありません。**

**原因：**EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文でコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

**処置：**CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

**PCS-00371 FOR 句が正しくありません。**

**原因：**FOR 句の引数は、整数または整数を含んだ識別子として指定する必要があります。

**処置：**FOR 句を修正してください。

**PCS-00372 SELECT 文に FOR 句を含めることはできません。**

**原因：**SELECT コマンドを含んだ SQL 文に FOR 句は指定できません。このような文の意味は不明です。

**処置：**FOR 句を削除して、SELECT 文を修正してください。

---

**PCS-00373 EXEC SQL DECLARE 節での宣言が無効です。**

**原因：**DECLARE 節に不適切な宣言があります。このメッセージは通常、DECLARE 節内に、EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR の宣言を組み込むことによって発生します。

**処置：**宣言を EXEC SQL DECLARE 節の外に移動してください。

**PCS-00374 SQLCHECK の値がコマンド行の値を超えています。**

**原因：**EXEC ORACLE 文で SQLCHECK オプションに指定した値がコマンド行で指定した値よりも大きいか、または SQLCHECK オプションがコマンド行で指定されていない場合にデフォルト値よりも大きくなりました。オプション値の順序は、SEMANTICS>SYNTAX>NONE となっています。このメッセージが表示されるとき、SQLCHECK の元の値（デフォルト値またはコマンド行値）が有効です。

**処置：**.PC ソース・ファイルで EXEC ORACLE オプションを削除または再コーディングして、この警告メッセージを回避してください。

**PCS-00375 SQL 文がファンクション本体の外にあります。**

**原因：**PARSE=FULL のときに、宣言、データ型同等化または WHENEVER 文以外の SQL 文がファンクションの本体外で検出されました。

**処置：**SQL 文をファンクションの本体内に移動してください。

**PCS-00376 DEF\_SQLCODE = TRUE の場合、SQLCODE を宣言できません。**

**原因：**SQLCODE 宣言がすでに明示的にプログラム内にある場合は、DEF\_SQLCODE オプションを指定できない可能性があります。

**処置：**プログラムから SQLCODE 宣言を削除するか、または DEF\_SQLCODE=NO（デフォルト）を指定してください。

**PCS-00377 暗黙の VARCHARS の配列は使用できません。**

**原因：**HOST\_VARCHAR=TRUE のときに、暗黙の VARCHARS の配列が宣言されました。

**処置：**配列を使用しないで、暗黙の VARCHAR 宣言を修正してください。

**PCS-00378 各国語キャラクタ変数の型が無効です。**

**原因：**NLS\_CHAR オプションを使用して各国語キャラクタとして宣言された変数が、CHAR または暗黙の VARCHAR として宣言されませんでした。

**処置：**CHAR または暗黙の VARCHAR として変数を宣言するか、または NLS\_CHAR オプションを使用して指定しないでください。



---

**PCS-00379 各国語キャラクタ変数を同値化できません。**

**原因：**各国語キャラクタ変数（NLS\_CHAR オプションを使用して指定）が、EXEC SQL VAR 文または TYPE 文を使用して、データ型の同値化を行いました。

**処置：**各国語キャラクタ変数を同値化しないでください。

**PCS-00380 ユーザーのパスワードの変更時に接続モードを指定できません。**

**原因：**同じ CONNECT 文で ALTER AUTHORIZATION 句を使用して、同時にパスワードを変更しようとしたときに、SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続されました。

**処置：**SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続中のパスワードの変更は禁止されています。ALTER AUTHORIZATION 句または CONNECT MODE 句のいずれかを削除して、CONNECT 文を修正してください。

**PCS-00382 NLS\_LOCAL=YES を使用するとき、MODE=ANSI と指定しなければなりません。**

**原因：**MODE=ANSI を指定しないで、NLS マルチバイト文字変数を指定するために、NLS\_CHAR が使用されました。

**処置：**NLS\_LOCAL=YES を使用する場合には、コマンド行で MODE=ANSI を指定してください。

**PCS-00383 型 OCIExtProcContext の式が必要です。**

**原因：**REGISTER CONNECT USING 文で指定されるバインド変数の型が、OCIExtProcContext（のポインタ）ではありません。

**処置：**型 OCIExtProcContext（のポインタ）の変数を宣言して、REGISTER CONNECT USING 文で使用してください。

**PCS-00384 配列長指定子がありません。**

**原因：**配列長指定子を使用しないで配列宣言を指定しました。

**処置：**配列宣言の長さを指定してください。

**PCS-00385 NLS\_CHAR および NLS\_LOCAL=TRUE を使用するとき、CHAR\_MAP は使用できません。**

**原因：**NLS マルチバイト文字変数としてプリコンパイラが処理するホスト変数を示しているときに、CHAR\_MAP オプションが指定されました。このマッピングは、NLS\_LOCAL=YES オプションで実行できません。このエラーは、NLS\_CHAR および NLS\_LOCAL=YES とともに DBMS=V6 が使用される場合も発生します。

**処置：**CHAR\_MAP オプションを削除するか、または NLS\_LOCAL=NO を設定してください。DBMS が V6 に設定されていないことを確認してください。

---

**PCS-00386 AT 句はここでは使用できません。**

**原因：**明示的 AT 句が ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文（SQL\_CURSOR 宣言を使用）とともに使用されました。

**処置：**AT 句の指定を削除してください。

**PCS-00387 タイプには sql\_cursor の式が必要です。**

**原因：**結果セット SQL\_CURSOR として宣言されなかった ALLOCATE 文、FETCH 文または CLOSE 文でホスト・バインド変数が使用されました。

**処置：**SQL\_CURSOR 型の変数を宣言してください。

**PCS-00388 SELECT 文の FROM/WHERE 句内では配列は使用できません。**

**原因：**ホスト配列を SELECT-INTO 文の WHERE 句内で使用しています。

**処置：**配列を使用しないように SELECT 文を訂正するか、またはカーソルを使用してください。

**PCS-00389 配列は SELECT リストの入力バインド変数として使用できません。**

**原因：**ホスト配列を SELECT-INTO 文の SELECT リスト内で使用しています。

**処置：**SELECT リスト内で配列を使用しないように SELECT 文を訂正してください。

**PCS-00390 EXEC SQL CONTEXT USE 文は発生しませんでした。**

**原因：**EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されないで、THREADS=YES オプションが使用されています。

**処置：**必要な（SQL\_CONTEXT 型の）コンテキスト変数が宣言され、実行可能な SQL 文の前で割り当てられ、使用されているか確認してください。

**PCS-00391 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。**

**原因：**EXEC SQL CONTEXT USE 文または REGISTER CONNECT 文の RETURNING 句にあるホスト変数が、SQL\_CONTEXT 型として宣言されませんでした。

**処置：**SQL\_CONTEXT 型のランタイム・コンテキスト変数を宣言してください。

**PCS-00392 すでに EXEC SQL DECLARE SECTION 内に入っています。**

**原因：**1 つの SQL DECLARE SECTION が別の SQL DECLARE SECTION 内にネストされています。

**処置：**DECLARE SECTIONS をネストしないようにしてください。ネスト内の DECLARE SECTION を削除してください。

**PCS-00393 SQL 文が EXEC SQL DECLARE SECTION の中に見つかりました。**

**原因：**実行可能な SQL 文が DECLARE SECTION 内にあります。

**処置：**SQL 文をファンクションの本体に移動してください。

---

**PCS-00394 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。**

**原因：** INAME および ONAME の値が同じであるか、またはデフォルトの出力ファイル名が ONAME で指定したものと同じです。

**処置：** ONAME を使用して、出力ファイルに別のファイル名を指定してください。

**PCS-00395 構造体の配列を使用する場合、その構造体に名前がついていなければなりません。**

**原因：** 名前の付いていない構造体の配列がホスト変数として使用されました。構造体の配列を使用するときには、構造体に名前またはタグが必要です。

**処置：** 構造体に名前を指定してください。

**PCS-00396 構造体の配列内での配列の使用方法が正しくありません。**

**原因：** スカラーの配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドが含まれている構造体の配列がホスト変数として使用されました。

**処置：** スカラー配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドを使用しないように構造体を修正してください。

**PCS-00397 #include ファイル内では VARCHAR 宣言は許可されません。**

**原因：** #include 形式を使用して組み込まれたファイル内に VARCHAR 宣言が見つかりました。

**処置：** EXEC SQL INCLUDE 形式を使用して、VARCHAR 宣言を指定したファイルを組み込んでください。

**PCS-00398 この文のその型に対しては標識は無視されます。**

**原因：** 標識変数を要求または必要としない文で、ある型に対する標識変数が、ホスト変数および標識変数の組で使用されました。通常、ALLOCATE および FREE 文では、オブジェクトまたはコレクション型以外の型に対して標識変数は使用されません。OBJECT CREATE/DEREF 文でも、REF 型に対しては使用されません。

**処置：** 指定された文でこの型に対する標識を使用しないでください。そうでない場合、標識は無視されます。

**PCS-00399 DBMS=V6 に対して CHAR\_MAP オプションが不正です。オプションを無視します。オプションが無視されました。**

**原因：** CHAR\_MAP=VARCHAR2 以外の CHAR\_MAP オプションがインラインで指定されました。DBMS=V6 であるため、このオプションは問題の文における文字変数または文字列変数に対して無視されます。

**処置：** DBMS を V6 以外に設定するか、または CHAR\_MAP=VARCHAR2 を指定してください。

---

**PCS-00400 このホスト変数はポインタ型で宣言しなければなりません。**

**原因：**指定されたホスト変数はポインタ型として宣言されていません。

**処置：**ホスト変数をポインタ型として宣言してください。

**PCS-00401 この型のホスト変数配列は現在サポートされていません。**

**原因：**指定された型のホスト変数配列はサポートされていません。

**処置：**この型の配列を使用しないようにプログラムを修正してください。

**PCS-00402 オブジェクト・キャッシュを使用するには、Pro\*C オプション、OBJECTS=YES が必要です。**

**原因：**このホスト変数に対してオブジェクト・キャッシュが使用されますが、Pro\*C コマンド行で OBJECTS=NO が指定されました。

**処置：**オブジェクト・キャッシュを使用する場合には、Pro\*C コマンド行で OBJECTS=YES を指定してください。

**PCS-00403 このホスト変数に対しては無効な型の標識変数です。**

**原因：**標識変数の型が、指定されたホスト変数に対して適切ではありません。

**処置：**標識変数の型を有効な型に変更してください。適切な標識変数についての説明は、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

**PCS-00404 この標識変数はポインタ型で宣言しなければなりません。**

**原因：**指定されたホスト標識変数はポインタ型として宣言されていません。

**処置：**標識変数をポインタ型として宣言してください。

**PCS-00405 変数の型が未定義です。**

**原因：**変数の型識別子に対する宣言が見つかりませんでした。

**処置：**ホスト変数の型に有効な宣言を指定してください。プログラムでオブジェクトを使用している場合、オブジェクト型の OTT 生成ヘッダーが組み込まれており、型ファイルが Pro\*C コマンド行の INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

**PCS-00406 フォーム 'RETURN[ING] REF INTO :ref' だけが入ります。**

**原因：**OBJECT CREATE 文で RETURNING 句を使用している時は、1 つの 'REF INTO :host\_variable' のみが必要です。このエラーが発生するのは、REF が属する式リストが 1 つ以上であるか、または 1 つ以上のホスト変数がリストに指定されている場合です。

**処置：**RETURNING 句をそれぞれの指定ごとに修正してください。

---

**PCS-00407 オブジェクトと REF 型が合致していません。**

**原因：**OBJECT CREATE または DEREF 文で、指定されたオブジェクトとそれに対応する REF の型が一致しません。

**処置：**オブジェクトとその REF の型が同じであることを確認してください。型情報は OTT によって生成され、OTT が作成するヘッダー・ファイルに表示されます。

**PCS-00408 オブジェクト型の式が入ります。**

**原因：**式がオブジェクト型ではありません。たとえば、ナビゲーションル文の多数のホスト変数式は、変数がいくつかのオブジェクト型に宣言される必要があります。

**処置：**式を修正するか、または変数をオブジェクト型に宣言してください。

**PCS-00409 REF 型の式が入ります。**

**原因：**式が REF 型ではありません。たとえば、ナビゲーションル CREATE および DEREF 文のホスト変数は、REF 型に宣言する必要があります。

**処置：**式を修正するか、または変数を REF 型に宣言してください。

**PCS-00410 コレクション型の式が必要です。**

**原因：**式がコレクション型ではありません。VARRAY またはネストした表オブジェクトが必要ですが、指定されたホスト変数が有効なコレクション型に変換されませんでした。

**処置：**コレクション型の OTT 生成ヘッダーが Pro\*C/C++ プログラムに正しく組み込まれており、型ファイルが Pro\*C/C++ コマンド行の INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

**PCS-00411 INDICATOR 記述子項目のホスト変数に対して型が無効です。**

**原因：**INDICATOR 記述子項目と対になっているホスト変数の型が無効です。INDICATOR 項目に許可されている型は、符号付き 2 バイトの数値型、またはユーザー定義のオブジェクト型用に OTT によって生成された標識の構造体です。

**処置：**INDICATOR ホスト変数を有効な型を持つものと置き換えるか、既存のホスト変数を有効な型に再宣言してください。

**PCS-00412 FOR 句は、OBJECT GET または SET 文で使用できません。**

**原因：**明示的な FOR 句が OBJECT GET または OBJECT SET 文で使用されました。これらの文に FOR 句は使用できません。

**処置：**FOR 句を削除してください。

---

**PCS-00413 属性の数がホスト変数の数と合致していません。**

**原因：**GET 文の OBJECT SET の属性リストに指定された属性の数が、この文に指定されたホスト変数の合計数と一致しません。

**処置：**その文から属性またはホスト変数をいくつか削除して、それぞれの合計数を同じにしてください。

**PCS-00414 この属が指定したオブジェクトにありません。**

**原因：**OBJECT SET または GET 文の属性リストに指定された属性が、その文に指定されたオブジェクトのメンバーではありません。

**処置：**リストから属性を削除してください。

**PCS-00415 OBJECT GET または SET にあるオブジェクト属性は操作できません。**

**原因：**オブジェクト自体がオブジェクトまたは REF 型であるオブジェクトの属性を GET または SET しようとした。

**処置：**文の属性リストから属性を削除してください。

**PCS-00416 OBJECT GET または SET にあるオブジェクトは配列であってはなりません。**

**原因：**OBJECT GET または SET 文で指定されたオブジェクトが配列であるため無効です。

**処置：**オブジェクトが配列でないように、オブジェクトを再宣言してください。または、オブジェクト配列の要素を 1 つのみ指定するためにオブジェクトをサブスクリプトしてください。

**PCS-00417 属性とホスト変数の型変換が不適当です。**

**原因：**ナビゲーション GET または SET 文で、属性型とホスト変数型間において、無効な型変換が試行されました。

**処置：**属性またはホスト変数のどちらかの型を変更してください。

**PCS-00418 オブジェクトと REF ホスト変数との配列サイズが一致しません。**

**原因：**OBJECT CREATE または Deref のオブジェクトおよび REF 変数の配列サイズが一致しません。

**処置：**互いに等しくなるように、2 つのホスト変数の配列を調整してください。

**PCS-00419 OBJECT SET または GET でホスト変数は配列にできません。**

**原因：**OBJECT SET または GET 文のホスト変数リストで、配列が見つかりました。

**処置：**(一次元の CHAR または VARCHAR 変数を除き) スカラーのみが、OBJECT SET または GET のホスト変数リストで許可されます。これらの文ではスカラーのみを使用してください。

---

**PCS-00420 型指定が不完全（または欠落）です。**

**原因：**SQL 文で使用するホスト変数の宣言時に、不完全または欠落している型が指定されました。

**処置：**SQL 文で使用するホスト変数を宣言する時には、完全な型の定義を指定してください。

**PCS-00421 このホスト変数には標識変数を使用する必要があります。**

**原因：**標識変数を明示的に必要とする特定のホスト変数に、標識変数が指定されていません（一致していません）。

**処置：**SQL 文で指定されたホスト変数に使用する標識変数を指定してください。

**PCS-00422 所定のコンテキスト・オプションに指定した値が無効です。**

**原因：**CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された実行時コンテキスト・オプションの値が無効です。

**処置：**特定のオプションの文で、有効なオプション値を使用してください。

**PCS-00423 このオプション値のホスト変数に無効な型があります。**

**原因：**CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文の特定のオプション値に対応するホスト変数の型が無効です。

**処置：**特定の値に適した型を使用してください。

**PCS-00424 値とホスト変数の数が一致しません。**

**原因：**CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された値の数と、指定された有効なホスト変数の数が一致していません。

**処置：**特定の文で指定した値と同じ数のホスト変数を使用してください。

**PCS-00425 この属性では標識変数は必要ありません。**

**原因：**LOB または DESCRIBE コレクションで、標識変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、標識変数がホスト変数とともに使用されました。

**処置：**標識変数を削除してください。

---

**PCS-00426 LOB の型が一致しません。**

**原因：**型が一致していない LOB の間で、LOB 操作を実行しようとした。たとえば、LOB を別の LOB に ASSIGN している場合、LOB は両方とも同じ型である必要があります。同じ型でない場合、このエラーとなります。

**処置：**同じ型の LOB 間で機能するように、LOB 操作を修正してください。指定の操作を実行する LOB 文で使用される LOB のうちの 1 つを、再宣言する必要があります。

**PCS-00427 式が正しい文字列型ではありません。**

**原因：**指定されたホスト変数式が、要求された文字型で宣言されませんでした。この場合、いくつかの文字型のうち 1 つは受け入れ可能です。ただし、ホスト変数型はどの文字型とも一致しません。

**処置：**許可されている文字型の 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

**PCS-00428 バッファ型が LOB の型と一致しません。**

**原因：**このエラーは、次に示す状況で発生します。

- 1. LOB からその LOB 型と互換性のないバッファ型へ読み込みしようとした。
- 2. バッファをそのバッファ型と互換性のない LOB 型へ書き込みしようとした。

**処置：**LOB 型およびバッファ型が指定された操作と互換性を持つように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

**PCS-00429 内部 LOB 型の式が必要です。**

**原因：**指定されたホスト変数は、内部 LOB として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB が受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのどれにも一致しませんでした。

**処置：**内部 LOB 型のどれか 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言してください。

**PCS-00430 任意の LOB 型の式が必要です。**

**原因：**指定されたホスト変数は、内部 LOB 型または外部 LOB 型のいずれにも宣言されませんでした。内部 LOB 型だけでなく、BFILE も受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのどれにも一致しませんでした。

**処置：**内部 LOB 型または外部 LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。



---

**PCS-00431 外部 LOB 型 (BFILE) の式が必要です。**

**原因:** 指定されたホスト変数は、外部 LOB として宣言されませんでした。この場合、BFILE のみが受け入れられます。

**処置:** 外部 LOB 型 (BFILE) を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

**PCS-00432 READ WRITE モードで外部 LOB (BFILE) をオープンできません。**

**原因:** BFILE を READ WRITE モードで OPEN しようとした。書き込み可能な BFILE は現在サポートされていないため、この操作はエラーであるとみなされます。

**処置:** READ WRITE モードを使用して、BFILE をオープンしないでください。BFILE は READ ONLY モードでのみオープンできます。

**PCS-00433 ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。**

**原因:** LOB または DESCRIBE コレクションで、ホスト変数と属性の組合せは無効です。この場合、ホスト変数に問題がある可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合、または指定されていない場合に、このエラーが発生します。

**処置:** 通常、さらに明確なその他のエラーが出力されます。いくつかの問題またはすべての問題を修正すると、このエラーを解決できます。

**PCS-00434 LOB 文では FOR 句を使用できません。**

**原因:** 明示的 FOR 句が LOB 文で使用されました。FOR 句を LOB 文で使用すると、エラーとみなされます。

**処置:** FOR 句を削除してください。

**PCS-00435 この属性は内部 LOB 型に対してだけ有効です。**

**原因:** LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

**処置:** LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を内部 LOB として宣言された変数と置き換えてください。

**PCS-00436 この属性は外部 LOB 型 (BFILE) に対してだけ有効です。**

**原因:** LOB が外部 LOB 型 (BFILE) でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

**処置:** 外部 LOB 型 (BFILE) ホスト変数を LOB DESCRIBE 文で使用してください。

---

**PCS-00437 2 進整数型の式が必要です。**

**原因：**有効な 2 進整数型のホスト変数が指定されませんでした。一般的に、このエラーが発生するとき、符号付きまたは符号のない整数型が必要です。浮動小数点または正確でない数値型は、エラーがあるとみなされます。

**処置：**問題のあるホスト変数を正確な整数値型を使用して宣言された変数と置き換えてください。

**PCS-00438 収集オブジェクトの配列は使用できません。**

**原因：**収集オブジェクトの配列が COLLECTION 文で指定されました。スカラー（配列でない）収集オブジェクトのみが COLLECTION 文で使用できます。

**処置：**配列にならないようにホスト変数コレクションの宣言を変更してください。

**PCS-00439 この COLLECTION 文では FOR 句を使用できません。**

**原因：**特に TRIM 文または DESCRIBE COLLECTION 文を使用できない COLLECTION 文で、無効な FOR 句が使用されました。

**処置：**FOR 句を文から削除してください。

**PCS-00440 この属性は内部または外部 LOB に対して有効です。**

**原因：**指定された内部 LOB 型または外部 LOB 型（BFILE）のどちらでもない LOB ホスト変数の LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

**処置：**内部 LOB 型ホスト変数または外部 LOB 型ホスト変数のどちらかを LOB DESCRIBE 文で使用してください。

**PCS-00441 属性の数がホスト変数の数と一致しません。**

**原因：**LOB または DESCRIBE コレクションで、属性の数および有効なホスト変数の数に不一致があります。

**処置：**要求されている各属性に、ホスト変数の値を持つように指定された有効なホスト変数が 1 つでも存在することを確認してください。

**PCS-00442 値は 1 から 65535 の間でなければなりません。**

**原因：**ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句または GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUE 句で指定される値が、1 未満または 65535 を超えました。

**処置：**値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

---

**PCS-00443** この使用方法は、DYNAMIC=ANSI が指定されている場合だけ有効です。

**原因：** 次の文のいずれかは、DYNAMIC=ANSI コマンド行オプション設定を指定しないで使用されます。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL EXECUTE ... INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL OPEN ... INTO ...
- EXEC SQL OPEN ... USING ... *descriptor*

**処置：** DYNAMIC=ANSI を指定するか、またはプログラムから前述の文を削除してください。

**PCS-00444** 記述子句と非記述子句の組み合わせが無効です。

**原因：** ANSI 動的 SQL 文で記述子句および非記述子句が混在しています。

**処置：** 問題の ANSI 文では記述子と非記述子を混在して使用しないでください。

**PCS-00445** USING 句は PREPARED 動的文でだけ有効です。

**原因：** PREPARE されていない文によってカーソル宣言されたカーソルに対して OPEN 時に USING 句が指定されています。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL PREPARE s FROM :stmt;  
EXEC SQL DECLARE c CURSOR FOR s;  
EXEC SQL OPEN c USING ...;
```

**処置：** SQL 文に対して PREPARE 文を実行して、これを DECLARE CURSOR 文で使用してください。

**PCS-00446** DEALLOCATE 文では FOR 句を使用できません。

**原因：** 明示的 FOR 句が DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。

**処置：** FOR 句を文から削除してください。

---

**PCS-00447 LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。**

**原因：**宛先オフセットが LOB WRITE APPEND 文で指定されました。宛先オフセットは LOB の終わりとみなされるので、明示的な宛先オフセットを指定するとエラーになります。

**処置：**LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

**PCS-00448 NLS\_NCHAR オプションに UCS2 変数は指定できません。**

**原因：**UTEXT、UVARCHAR または LONGUVARCHAR として宣言された変数が、NLS\_NCHAR コマンド行オプションで指定されています。

**処置：**NLS\_NCHAR コマンド行オプションで変数を指定せずに、再プリコンパイルしてください。

**PCS-00449 UCS2 型は型同値にできません。**

**原因：**UCS2 型が EXEC SQL TYPE 文で同値化指定されたか、または UCS2 型は EXEC SQL VAR 文で同値化指定されました。

**処置：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文を削除してください。

---

## プリプロセッサ (PG2)

**PG2-00010 文字列リテラルの走査中にファイルの終わりが見つかりました。**

**原因:** SQL 文の文字列は引用符で区切る必要がありますが、正しく終了されていません。

**処置:** すべての文字列が区切られていることを確かめてください。

**PG2-00011 識別子が 128 文字を超えているのが見つかりました (切捨て済)。**

**原因:** プリコンパイラが長すぎる識別子を発見しました。

**処置:** 識別子を短くしてください。SQL の識別子は 128 文字に制限されています。

**PG2-00012 文字定数に合致する引用符が見つかりません。**

**原因:** 引用符付き文字定数が終了されませんでした。

**処置:** 文字定数を終了させてください。

**PG2-00013 不明なエスケープ・シーケンスがあります。**

**原因:** プリコンパイラが文字列リテラル内で処理できないエスケープ・シーケンスを発見しました。このエラーは、シフトインまたはシフトアウト・エスケープ・シーケンスを含むマルチバイト文字列を使用している場合に発生することがあります。

**処置:** 文字列を訂正してください。

**PG2-00014 構文エラー (行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*) :**

**原因:** プリコンパイラが C または埋込み SQL 構文にエラーを発見しました。このメッセージの後に特定のエラー・メッセージが続いています。

**処置:** 構文エラーを修正してください。

---

**PG2-00015 挿入ファイルをオープンできません。**

**原因:** `#include` 文または `EXEC SQL INCLUDE` 文を使って指定したヘッダー・ファイルをプリコンパイラがオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルあるいはパス内の 1 つまたは複数のディレクトリに対する読み許可や読み込みアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

**処置:** ファイルの指定が正しいかどうか、ファイルが存在するかどうか、また、読み取るファイルに対して読み取り許可があるかどうかを確認してください。

**PG2-00016 挿入ファイルのパス名が長すぎます。**

**原因:** インクルード・ファイルのパス名が 80 文字の最大長を超えています。

**処置:** インクルード・ファイルを移動するか、環境変数または論理パスを作成してパス名を短くしてください。

**PG2-00017 出力ファイルをオープンできません。**

**原因:** プリコンパイラが出力ファイルをオープンできませんでした。このファイルは生成コード出力ファイル (`.c file`) またはリスト・ファイルのどちらかです。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定した出力ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクに空きがないため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- パス内の指定したディレクトリ（複数の場合もある）に対する書き込み許可がない。

**処置:** 前述のエラーの原因を調査して、訂正してください。

**PG2-00018 コメントの走査中にファイルの終りが見つかりました。**

**原因:** C コードまたは埋込み SQL 文の中の C コメントが終了していません。

**処置:** 終わっていないコメントを見つけて「\*/」で終了させてください。

**PG2-00019 プリプロセッサの警告（行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*）:**

**原因:** プリコンパイラがプリプロセッサのパスを実行中に、警告が発生しました。このメッセージの後にさらに詳細なエラー・メッセージが出力されます。

**処置:** 続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、条件を修正してください。

---

**PG2-00020 プリプロセッサのエラー（行：*number*、列：*number*、ファイル：*string*）：**

**原因：**プリコンパイラがプリプロセス・フェーズにあるため、エラーが発生しました。  
このメッセージの後にさらに詳細なエラー・メッセージが出力されます。

**処置：**続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、エラーを修正してください。

**PG2-00021 文字列リテラルの走査中に改行が見つかりました。**

**原因：**文字列定数が、次のように改行文字を含んでいます。

```
char x[] = "Hello world";
```

**処置：**改行文字を削除してください。

**PG2-00022 SQL 文の走査中にファイルの終りが見つかりました。**

**原因：**EXEC SQL 文の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

**処置：**文終了記号 (;) を追加するか、または EXEC SQL 文を終了してください。

**PG2-00023 PL/SQL 文の走査中にファイルの終りが見つかりました。**

**原因：**PL/SQL 文 (EXEC SQL EXECUTE ...) の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

**処置：**PL/SQL 文を終了してください。





---

## コマンド行メッセージ (PGO)

**PGO-00035 CMD-LINE: 構成ファイルの CONFIG= オプションが無効です。**

**原因:** ユーザー構成ファイル内にユーザー構成ファイルを指定できません。つまり、ネストされた構成ファイルをネストできません。

**処置:** ネストされた構成ファイルがある場合は、オプションをネストされたファイルから最上位のファイルに移動してください。

**PGO-00040 CMD-LINE: オプションが選択されましたが、値がありません。**

**原因:** コマンド行にオプションが指定されましたが、そのオプションの値が組み込まれていませんでした。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
proc iname=sample1.pc oname=
```

**処置:** オプションに値を指定してください。

**PGO-00041 CMD-LINE: オプションが存在しません:**

**原因:** 存在しないオプションをコマンド行に指定しました。

**処置:** 有効なコマンド行オプションおよびその値の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

**PGO-00043 CMD-LINE: オプション構文が無効です。**

**原因:** コマンド行オプションの値が正しく指定されませんでした。

**処置:** 指定するコマンド行オプションの値の正しい構文の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

**PGO-00044 CMD-LINE: オプションの値が無効か範囲外です:**

**原因:** コマンド行オプションに指定した値が許容範囲内ではありません。たとえば、MAXOPENCURSORS オプションの範囲は 5 ~ 256 です。範囲外の値が指定される場合、メッセージが出力されます。

**処置:** オプション値の範囲の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

---

**PGO-00045 CMD-LINE: オプションが一意ではありません:**

**原因:** 一意ではないオプション名がコマンド行に部分的に指定されました。たとえば次のような場合です。

```
% proc in=t.pc
```

この「in」オプションは、INAME または INCLUDE オプションのいずれかの意味に合わせられます。

**処置:** コマンド行に十分な文字を指定して、オプション名を一意にしてください。

**PGO-00046 CMD-LINE: 構成ファイルをオープンできません:**

**原因:** 存在しないユーザー構成ファイルが、構成オプションでコマンド行に指定されました。

**処置:** 構成ファイルに有効なファイル名を指定してください。

**PGO-00047 CMD-LINE: オプションはインラインでは使用できません。**

**原因:** コマンド行または構成ファイルでのみ入力できるオプションが、インラインで入力されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC ORACLE OPTION (NLS_CHAR=name);
```

NLS\_CHAR オプションは、コマンド行または構成ファイルでのみ入力できます。

**処置:** ソース・ファイルからオプションを削除して、コマンド行で指定してください。

**PGO-00066 CMD-LINE: システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。**

**原因:** システム構成ファイルは、標準名 (pmcfg.cfg) およびオペレーティング・システム依存の位置を持っています。UNIX システムでは \$

ORACLE\_HOME/precomp/admin ディレクトリにあります。pmcfg.cfg という名前のファイルが標準位置に見つからないと、この警告メッセージが出力されます。

**処置:** 標準位置にシステム構成ファイルを作成してください。ファイルは空になっていることがあります。オペレーティング・システム固有の Oracle ドキュメントも参照してください。

---

**PGO-00081 CMD-LINE: 未終了のオプション値リストまたは値リストが切捨てられました。**

**原因:** 値リストを必要とするオプションが入力されました。値リストは閉じカッコを持っていませんでした。1 行に入力された値リストが長すぎて、Pro\*C が切捨てた場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

**処置:** すべての値リストを閉じカッコで終了するようにしてください。長い値リストは個々のエントリに分割してください。

**PGO-00129 CMD-LINE: クライアントからの静的オプション表が無効です。**

**原因:** これは通常出力されない内部エラー・メッセージです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。

**PGO-00132 CMD-LINE: メモリーを割当てできません。**

**原因:** これは通常出力されない内部エラー・メッセージです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。

**PGO-00133 CMD-LINE: 文字列処理機能にエラーがあります。**

**原因:** これは通常出力されない内部エラー・メッセージです。STRCPY または STRLEN などの C 文字列関数がエラーを戻したことを示しています。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートカスタマ・サポートに問い合わせてください。

**PGO-00134 CMD-LINE: オプションが NULL です。**

**原因:** コマンド行で長さゼロのオプションが指定されました。

**処置:** 有効なオプションを指定して、コマンド行を再入力してください。

**PGO-00135 CMD-LINE: ヘルプが要求されました。**

**原因:** これは、コマンド行オプションに関する情報が要求されたときにプリコンパイラが発行する最後のメッセージです。たとえば、proc ? コマンドが発行され、コマンド行オプションの現行のデフォルト値リストが表示された場合、このメッセージはリストの最後に表示されます。

**処置:** 処置は必要ありません。

**PGO-00138 CMD-LINE: 内部一貫性エラーです。**

**原因:** プログラムの例外に関係する内部メッセージです。コマンド行プロセッサが予期しない条件を検出し、一貫性チェックが失敗しました。このようなメッセージが出力される原因として次のものが考えられます。

- 無効なコマンド行オプション
- メモリーの破壊

---

**処置:** 次の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマ・サポートに報告してください。

- エラーが発生するまでの経過
- 実行しようとしてエラーを引き起こした操作
- このエラーが発生する前の通常と異なる状況

**PGO-00144 CMD-LINE: 等号記号 (=) 両側にブランク文字を使用できません。**

**原因:** ブランク文字が等号記号 (=) の直前または直後にありました。

**処置:** コマンド行上の等号記号 (=) の両辺にブランク文字を入れないようにして、プログラムを再コンパイルしてください。

**PGO-00150 行: *number*, 列: *number* でエラーが発生しました。ファイル: *string***

**原因:** 示された場所でエラーが検出されました。

**処置:** 示されたソース・ファイルをチェックし、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

**PGO-00151 行: *number*, 列: *number*: ファイル: *string***

**原因:** 示された場所でエラーが検出されました。

**処置:** リストされたソース・ファイルをチェックし、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

**PGO-00152 ファイル: *string* をオープンしてソース行: *number* を表示またはリストアップできません。**

**原因:** ファイルにエラーが含まれていますが、ファイルを再オープンして誤りのある行をリストまたは表示できません。

**処置:** ファイルが壊れていないこと、および読取り許可があることを確認してください。操作を再実行してください。

**PGO-00153 ファイル: *string* をオープン**

**原因:** リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがオープンされました。

**処置:** 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

**PGO-00154 ファイル: *string* をクローズ**

**原因:** リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがクローズされました。

**処置:** 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

---

## 解析機能メッセージ (PPE)

**PPE-00200 不明な句読点の順序が見つかりました。**

**原因:** このエラーは、プリコンパイラ解析機能が不正確な識別子またはキーワードを検出したことを示します。

**処置:** 構文を訂正してください。

**PPE-00201 構文エラーが見つかりました。**

**原因:** この一般メッセージの後に、エラーの詳細を示す 1 つ以上の特定メッセージが続きます。

**処置:** 処置は必要ありません。次のメッセージで示されるエラーを訂正してください。

**PPE-00202 No typedef 名が付けられていません。**

**原因:** プリコンパイラ解析機能が、型指定の後ろに名前のない TYPEDEF 文を検出しました。次に例を示します。

```
typedef int;
```

**処置:** 構文を訂正してください。

**PPE-00203 予期しないときにファイルの終りが見つかりました。**

**原因:** たとえば、一致しない '{' および '(' のように、一般的な構文エラーの発生時に解析機能がこのメッセージを出力することがあります。

**処置:** 構文を訂正してください。

**PPE-00204 EXEC SQL INCLUDE は、挿入ファイルからは使用できません。**

**原因:** EXEC SQL INCLUDE 文はネストできません。また、#include 文を使用して組み込まれたファイルに EXEC SQL INCLUDE 文は置けません。

**処置:** ネストされた組込み文が必要ないように、プログラムを再コードしてください。

---

**PPE-00205 解析機能エラー（行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*）:**

**原因:** プリコンパイラ解析機能が、C コードまたは SQL コードの構文エラーを検出しました。さらに詳細なメッセージが続きます。

**処置:** このメッセージに対する処置の必要はありません。続きのメッセージに対する適切な処置を行ってください。

**PPE-00206 DDL 文で、ホスト変数は使用できません。**

**原因:** データ定義言語文ではホスト変数を使用できません。たとえば、次のような文は CREATE TABLE 文の表名をホスト変数で表現できないため無効となります。

```
CREATE TABLE :table_name (c1 char(10));
```

**処置:** 実行時にデータベース・オブジェクト（表、ビューおよび列など）の名前を作成するには、動的 SQL を使用してください。動的 SQL の詳細は、言語固有のプリコンパイラプログラマーズ・ガイドを参照してください。

**PPE-00207 マクロ名が無効です。**

**原因:** プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているマクロ名を持たない #define 文を検出しました。次に例を示します。

```
#define
```

**処置:** 構文を訂正してください。

**PPE-00208 #include 文でファイル名が指定されていません。**

**原因:** プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているファイル名を持たない #include 文を検出しました。次に例を示します。

```
#include
```

**処置:** #include 文で適切なファイル名を指定するか、または構文を修正してください。

**PPE-00209 マクロ起動の引数の数が無効です。**

**原因:** ソースのマクロ起動に、#define 行のマクロ定義と同じ引数の数値がありません。

**処置:** マクロ参照またはマクロ定義を訂正してください。

---

**PPE-00210 C++ の句読点シーケンスをサポートしていません。**

**原因：**C++ 句読点シーケンスは、ProC/C++ プリコンパイラによってサポートされていません。

**処置：**句読点シーケンスを使用しないで C++ コードを修正し、再プリコンパイルしてください。





---

## プリプロセッサ (PR2)

### PR2-00100 PL/SQL を初期化できません。

**原因：**プリコンパイラが Oracle に接続しましたが、PL/SQL エンジンを実行できませんでした。このエラーは、プロシージャ・オプションがない、以前のリリースの Oracle7 が使用されると、発生する場合があります。

**処置：**PL/SQL を使用するには、Oracle7 のより新しいリリースにアップグレードしてください。

### PR2-00101 入力ファイルをオープンできません。

**原因：**プリコンパイラが入力ファイルをオープンできませんでした。これは INAME= オプションで指定された .pc ファイルです。つまり、ファイルが存在しないか、パス名にディレクトリを正しく指定しなかったか、プリコンパイラを実行しているユーザーがファイルに対する読み込み許可がないことを示します。また、このメッセージはオペレーティング・システムのエラーが原因で出力される場合もあります。たとえば、マウントされていないファイル・システムやディスクの入出力エラーがこのエラーの原因となります。

**処置：**ファイルの読み込み許可が存在し、フルパス名が正しく指定されたことを確認してください。オペレーティング・システム固有の問題を確認してください。オペレーティング・システム固有の Oracle ドキュメントも参照してください。

### PR2-00102 C プリプロセッサ処理を実行中に致命エラーが発生しました。

**原因：**プリコンパイラは特定のメッセージの後にこのメッセージを発行します。

**処置：**前のメッセージで指定された問題を訂正してください。

### PR2-00103 パスワード：

**原因：**パスワードを入力しないで、コマンド行にユーザー名を入力しました。次に例を示します。

```
proc sqlcheck=full iname=sample1.pc userid=scott
```

**処置：**コマンド行を再入力して、パスワードを入力するかまたはプロンプトが表示されたらパスワードを指定してください。

---

**PR2-00104 Oracle に接続できません。**

**原因：**プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。これはプリコンパイラ・メッセージであって、実行時メッセージでないことに注意してください。このメッセージは、コマンド行または構成ファイルの USERID オプション値が不正であることを示します。

**処置：**現行のユーザー名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。サーバ・マネージャまたは SQL\*Plus を実行し、そのユーザー名とパスワードを使用して接続できることを確認してください。

**PR2-00105 リスト・ファイルをオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラがリスト・ファイルをオープンできませんでした。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定したリスト・ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクに空きがないため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- 指定したディレクトリへの書き込み許可がない。

**処置：**前述のエラーの原因を調査して、訂正してください。

**PR2-00106 ユーザー ID は SQLCHECK = FULL のときのみ使用。ユーザー ID は無視されます。**

**原因：**コマンド行で USERID オプションが指定されましたが、SQLCHECK が FULL または SEMANTICS と等しくありませんでした。SQLCHECK=FULL または SQLCHECK=SEMANTICS でない限り、USERID は無効です。これは単なる警告メッセージです。

**処置：**処置は必要ありません。

**PR2-00107 CODE = CPP のときは PARSE = FULL は指定できません。**

**原因：**コマンド行で PARSE=FULL オプションおよび CODE=CPP オプションの両方が指定されました。PARSE=FULL オプションは、C 解析機能を起動します。C 解析機能は、CODE=CPP オプションを指定してプリコンパイラで生成される C++ 構文を認識しません。

**処置：**CODE=CPP オプションが指定される場合は、PARSE オプションを NONE または PARTIAL のどちらかに設定してください。

**PR2-00108 MODE=ORACLE で DBMS=V7 または V8 の場合に、UNSAFE\_NULL=YES が指定できます。**

**原因：**UNSAFE\_NULL=YES がコマンド行に指定されましたが、MODE が ORACLE でないか、または DBMS が V7 または V8 ではありませんでした。

**処置：**UNSAFE\_NULL=YES を使用する時には、MODE=ORACLE および DBMS=V7 または V8 を指定してください。

---

**PR2-00109 SQLCHECK=NONE はサポートされません。SYNTAX を使用します。**

**原因：**SQLCHECK=NONE がコマンド行に指定されましたが、そのオプションは、サポートされていません。SQLCHECK=SYNTAX がかわりに使用されました。

**処置：**これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

**PR2-00110 DBMS=V6\_CHAR は使用不可。CHAR\_MAP=VARCHAR2、DBMS=V7 を使用してください。**

**原因：**DBMS=V6\_CHAR がコマンド行に指定されましたが、そのオプションはサポートされていません。CHAR\_MAP=VARCHAR2 および DBMS=V7 オプションがかわりに使用されました。

**処置：**これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、CHAR\_MAP=VARCHAR2、および必要に応じて、DBMS=V7 を指定してください。

**PR2-00111 CHAR\_MAP オプションは無視されました。DBMS=V6 では CHAR\_MAP=VARCHAR2 のみ使用可**

**原因：**DBMS=V6 が指定され、さらに VARCHAR2 以外の値の CHAR\_MAP が指定されました。CHAR\_MAP 値は無視されました。

**処置：**これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、DBMS=V6 以外の DBMS 値を指定するか、または CHAR\_MAP=VARCHAR2 を使用してください。

**PR2-00112 OBJECTS オプションは無視されました。OBJECTS=YES は DBMS=V6、V7 では使用不可です。**

**原因：**Pro\*C コマンド行で OBJECTS=YES が指定されましたが、DBMS オプション値が無効です。

**処置：**これは単なる警告メッセージです。OBJECTS=YES に対して、この警告を回避するには、V8 データベースで DBMS=V8 または DBMS=NATIVE を使用してください。

**PR2-00113 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE、CHAR\_MAP=VARCHAR2 を使用してください。**

**原因：**コマンド行で DBMS=V6 が指定されましたが、このオプション値はサポートされなくなりました。オプション DBMS=NATIVE および CHAR\_MAP=VARCHAR2 がかわりに使用されました。

**処置：**プログラムをチェックして、V6 の動作に依存していないことを確認してください。DBMS=V6 指定の影響については、『Pro\*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

---

**PR2-00114 コマンド行の引数: MODE=ANSI は、DBMS=V6 と一緒に使用できません。**

**原因:** Oracle バージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO SQL 標準に 100% 準拠しているわけではありません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6\_CHAR オプションを使用した V6 の方法が要求されている場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

**処置:** V6 オプションで ANSI モードを使用しないでください。

**PR2-00115 書き込むための出力ファイルをオープンできません。**

**原因:** 書き込みで、出力データ・ファイルがオープン（または作成）できなかったヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

**処置:** ディレクトリの適切な許可、および可能なファイル・オブジェクト（データ・ファイルがすでに存在している場合）を調べて、書き込み許可が付与されているかを確認してください。

**PR2-00116 HEADER オプションを使用してファイル拡張子を指定する必要があります。**

**原因:** 生成されたデータ・ファイルの作成中に、使用するための拡張子の名前を指定せずに、ヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

**処置:** プリコンパイルされたヘッダーのデータ・ファイルの作成中に、HEADER オプションを使用して、使用すべきファイル拡張子の名前を指定してください。

---

## PRO\* メッセージ (PRO)

**PRO-00001 ファイル: *string* をオープンできません。**

**原因:** プリコンパイラは内部的に使用するための一時ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、オープンするファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリが読み取り専用に保護されている可能性があります。

**処置:** 十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること（システム管理者に問い合わせる）、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許可していることを確認してください。

**PRO-00002 構文が無効です（列: *number* 行: *number* ファイル: *string*）。**

**原因:** EXEC 文に構文エラーがあるか、または文が正しく終了していません。

**処置:** EXEC 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の EXEC 文が正しく終了していることを確認してください。

**PRO-00003 SQL 識別子が無効です（列: *number* 行: *number* ファイル: *string*）。**

**原因:** 条件付きプリコンパイル文（EXEC ORACLE IFDEF など）内の記号に誤りがあります。または、SQL の記述子、文またはカーソルの名前に誤りがあるかまたは正しく宣言されていません。

**処置:** 文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、エラーのある行の前の変数宣言または DECLARE 文に記述子を定義してください。

**PRO-00004 対応していない IF/ELSE/ENDIF ブロックがあります（行: *number* ファイル: *string*）。**

**原因:** EXEC ORACLE IFDEF 文と一致しない EXEC ORACLE ELSE 文または EXEC ORACLE ENDIF 文があります。

**処置:** 欠落している EXEC ORACLE IFDEF 文を追加するか、または EXEC ORACLE ELSE または EXEC ORACLE ENDIF 文を削除または移動してください。

---

**PRO-00005 サポートされていないデータ型があります (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 宣言節で定義したホスト変数がサポートしていないデータ型であるか、またはサポートされている範囲外の位取りまたは精度です。

**処置:** サポートされているデータ型を使用してホスト変数を再定義してください。数値変数の位取りおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

**PRO-00007 WHENEVER 条件が無効です (列: *number* 行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQLERROR、SQLWARNING または NOT FOUND 以外の条件を EXEC SQL WHENEVER 文で指定したか、またはこれらのいずれかを指定しているのに綴りが間違っています。

**処置:** WHENEVER 条件の綴りを修正するか、または特殊な条件をテストするホスト言語の IF 文を使用してください。

**PRO-00008 WHENEVER アクションが無効です (列: *number* 行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 次のいずれかの原因が考えられます。

- CONTINUE、DO、GOTO または STOP 以外のアクションを EXEC SQL WHENEVER 文で指定した。
- 指定したアクションの 1 つに綴りの誤りがある。
- ホスト言語がこのアクションを許可していない (STOP は Pro\*Pascal プログラムでは無効です)。
- GOTO ラベルが誤っている。

**処置:** 指定された WHENEVER アクションがホスト言語で許可されているかどうかを確認してください。必要に応じて、WHENEVER アクションの綴りを修正するか、または GOTO ラベルを修正してください。

**PRO-00009 ホスト変数が無効です (列: *number* 行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** EXEC SQL 文で使用されているホスト変数が、宣言節で宣言されていないか、サポートされていないデータ型です。

**処置:** サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数を宣言節内に宣言してください。

**PRO-00010 文の位置が正しくありません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** EXEC 文がホスト・プログラム内の正しい位置にありません。たとえば、宣言節内にデータ操作文がある場合などです。Pro\*COBOL プログラムであれば、宣言節が WORKING-STORAGE または LINKAGE SECTION 外にある可能性があります。

**処置:** この文を削除するか、または位置を変更してください。

---

**PRO-00011** すでに declare section 内です (行: *number* ファイル: *string*)。

**原因:** 宣言節内に BEGIN DECLARE SECTION 文が見つかりました。

**処置:** 余分の BEGIN DECLARE SECTION 文を削除してください。

**PRO-00012** declare section 内ではありません (行: *number* ファイル: *string*)。

**原因:** BEGIN DECLARE SECTION 文と一致しない END DECLARE SECTION 文が見つかりました。BEGIN\_DECLARE\_SECTION 文が欠落しているか、綴りが間違っているか、または END DECLARE SECTION 文が余分であるかのいずれかです。

**処置:** BEGIN DECLARE SECTION 文を追加または修正するか、余分な END DECLARE SECTION 文を削除してください。

**PRO-00013** include ファイル *string* をオープンできません (行: *number* ファイル: *string*)。

**原因:** プリコンパイラは INCLUDE 文で指定した入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置:** ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうか確認してください。また、ファイルに対する必要なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。さらにディスク領域が十分にあり、オープンするファイルの制限値が十分に大きいことを確認してください (システム管理者に問い合わせて確認してください)。

**PRO-00014** SQL 識別子 *string* が宣言されていません (行: *number* ファイル: *string*)。

**原因:** 記述子、文またはカーソルの名前が宣言されていないか、またはその綴りが間違っています。

**処置:** 記述子、文またはカーソルの宣言を追加または修正してください。

---

**PRO-00015 不明なホスト言語構文は無視されました (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 宣言節内にホスト変数を定義するために使用しているホスト言語の構文に誤りがあります。

**処置:** 構文および綴りを調べ、宣言を修正してください。

**PRO-00016 カーソルをオープンできません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラはホスト言語を想定しているのにそれ以外のものがあります。

**処置:** 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

**PRO-00017 文を解析できません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 配列の宣言に構文エラーがあります。プリコンパイラは右大カッコ (]) を想定しているのにそれ以外のものがあります。

**処置:** 構文を調べて、配列宣言を訂正してください。

**PRO-00018 *string* が必要ですが、*string* が見つかりました (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラは予想外の不適切なトークンを見つけました。

**処置:** 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

**PRO-00019 バインド変数を取得できません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** プリコンパイラは、SQL 文内で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

**処置:** 入力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

**PRO-00020 定義変数を取得できません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** プリコンパイラは SQL 文内で使用している出力ホスト変数 (定義変数) に関する情報を見つけられませんでした。

**処置:** 出力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

**PRO-00021 Oracle エラーが発生しました: *string***

**原因:** Oracle エラーが発生しました。

**処置:** このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されているメッセージを参照してください。



---

**PRO-00022: 領域が足りません。 *number* バイトを割り当てられません。**

**原因:** プリコンパイラ・プロセスがメモリーを使い果たしました。

**処置:** このプロセスにより多くのメモリーを割り当ててください。その後、再実行してください。

**PRO-00023: Oracle からログオフできません。**

**原因:** Oracle がシャットダウンされたため、プリコンパイラがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

**処置:** Oracle が使用可能であることを確認してください。その後、再実行してください。

**PRO-00024 標識変数 *string* の型または長さが正しくありません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 標識変数を宣言節内で 2 バイト整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義する必要があります。

**処置:** 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

**PRO-00025 標識変数 *string* は宣言されていません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 文で使用している標識変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが間違っています。

**処置:** 標識変数の宣言を追加または修正してください。

**PRO-00026 ホスト変数 *string* は無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 文で使用しているホスト変数が正しく宣言されていません。次のような原因が考えられます。

- 宣言節で宣言されていない。
- そのデータ型がサポートされていない。
- 名前の綴りが間違っている。
- COBOL グループの項目になっている。Pro\*COBOL の場合、SQL 文で許可されているのは基本項目のみです。

**処置:** ホスト変数の宣言を追加または修正してください。

**PRO-00027 SQL 識別子 *string* が重複して宣言されています (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** SQL 記述子、文またはカーソルの名前が再宣言されました (2 回宣言されました)。

**処置:** この識別子の綴りを調べ、必要に応じて余分な宣言を削除してください。

---

**PRO-00028 オプション *string* は正しい EXEC ORACLE オプションではありません。**

**原因:** プリコンパイラ・オプションを EXEC ORACLE 文内にインラインで指定しました。オプションの中にはコマンド行からしか指定できないものがあります。たとえば、INAME をインラインで指定できません。

**処置:** EXEC ORACLE 文ではなく、コマンド行にプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

**PRO-00029 オプション *string* があいまいです。**

**原因:** プリコンパイラ・オプションの名前をあいまいに短縮して指定しました。たとえば、MAX= は MAXLITERAL または MAXOPENCURSORS とみなされる場合があります。

**処置:** 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

**PRO-00031 オプション *string* に無効な値が指定されています。**

**原因:** 値の綴りが間違っている（たとえば、LTYPE=HORT）または値が範囲外であるために（たとえば、PAGELEN=-55）、プリコンパイラ・オプションに無効な値が指定されています。

**処置:** 綴りが正しいかどうかおよび値が有効な範囲内であることを確認してください。

**PRO-00032 オプション *string* が無効です。**

**原因:** プリコンパイラが無効なプリコンパイラ・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプションが存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が欠落しているか、等号の前後に空白が入っている。

**処置:** オプションが存在するかどうか、オプション名の綴りが正しいかどうかを確認してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。オプション名と値の間に等号があることを確認してください。

**PRO-00033 オプション *string* にオペランドがありません。**

**原因:** プリコンパイラ・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落しているか、等号の前後に空白があります（LTYPE=SHORT のように）。

**処置:** 各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

---

**PRO-00036 入力ファイル名が指定されていません。**

**原因：**コマンド行で入力ファイルを指定しませんでした。

**処置：**INAME コマンド行オプションを使用して入力ファイルを指定してください。

**PRO-00037 *string* で Oracle にログオンできません。Oracle エラー番号: *number***

**原因：**プリコンパイラは指定されたユーザー名およびパスワードで ORACLE へログインできませんでした。ログインしようとしたときに、示された番号の Oracle エラーが発生しました。

**処置：**このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されているメッセージを参照してください。

**PRO-00038 カーソルをオープンできません。**

**原因：**これは通常出力されない内部エラー・メッセージです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。アプリケーションが SQL 文の意味上または構文上の確認を必要としておらず、PL/SQL を使用しない場合は、コマンド行に SQLCHECK=NONE を指定してください。

**PRO-00039 入力ファイル *string* をオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定した入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置：**ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。さらにディスク領域が十分にあり、オープンするファイルの制限が十分に大きいことを確認してください（システム管理者に問い合せて確認してください）。

---

**PRO-00040 リスト・ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** プリコンパイラが、LNAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置:** ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンド行に `LTYPE=NONE` を指定してください。

**PRO-00041 出力ファイル *string* をオープンできません。**

**原因:** プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置:** ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。さらにディスク領域が十分にあり、オープンするファイルの制限が十分に大きいことを確認してください（システム管理者に問い合わせて確認してください）。

---

**PRO-00042 mode=ANSI と WHENEVER SQLWARNING が指定されている場合は EXEC SQL INCLUDE SQLCA を実行しなければなりません。**

**原因：**MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を宣言しないで WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとした。MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

**処置：**プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA を静的に宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

**PRO-00044 INTO/USING 句の配列サイズが不適切です。最小値: *string* (*number.number*)**

**原因：**INTO/USING 句内の配列変数のサイズが処理された行数に対して小さすぎます。

**処置：**最低でも表示された最小サイズを持つように INTO/USING 句内のすべての配列変数を宣言してください。

**PRO-00045 不適当な *string* 句があります (行: *number* ファイル: *string*)。無視されました。**

**原因：**EXEC SQL 文の最後に位置を誤った句があります (たとえば、SELECT 文の最後にある AT 句)。FOR 句内で指定した処理に誤りがあります (たとえば、FOR :loop INTO...)。

**処置：**この文の構文を調べ、位置が間違っている場合はその句の位置を変え、句に誤りがある場合はそれを修正してください。

**PRO-00047 行: *number*、ファイル: *string* の付近から始まるコメントまたは文字定数が未終了です。**

**原因：**文字列定数で終端引用符が欠落しているか、またはコメントで終了デリミタが欠落しています。

**処置：**すべてのコメントが区切られていて、すべての文字定数が引用符で囲まれていることを確認してください。

**PRO-00050 プログラム単位終了行: *number* に記述子を生成できません。ファイル: *string***

**原因：**プリコンパイラが、コンパイル・ユニットの記述子を生成できませんでした。このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- 存在しない、または正しくインプリメントされていない宣言節。
- ソース・ファイルの先頭付近、または END DECLARE SECTION 文の直前にある検出されなかった構文エラー。

---

**処置:** 宣言節が正しくインプリメントされているかどうかを確認してください。次に、コンパイル・ユニットの先頭および END DECLARE SECTION 文の前で構文エラーの確認を行い、適切に訂正してください。

**PRO-00051 VARCHAR: *string* のサイズが 65533 を超えています (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 宣言された VARCHAR ホスト変数のサイズがプリコンパイラの制限である 65533 バイトを超えています。

**処置:** 宣言節を調べて、それぞれの VARCHAR 変数のサイズが 65533 バイトの制限値を超えていないかどうかを確認してください。

**PRO-00053 FOR 変数: *string* のデータ型が無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型 (または NUMBER 型あるいは LONG 型と互換性のあるもの) である必要があります。

**処置:** 宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG (または、互換性のある Oracle またはホスト言語データ型) かどうかを確認してください。

**PRO-00054 文の終わりがが必要です (列: *number* 行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** プリコンパイラは EXEC 文の最後に文終了記号を想定しているのに、それ以外のものがありました。このエラーは、ソース・コードにタブが埋め込まれていた場合に発生することがあります (プリコンパイラには、1 つのタブがいくつかの空白を表しているかを認識する方法がないため)。

**処置:** ソース・コードにタブが埋め込まれている場合には、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を調べ、EXEC 文に文終了記号があることを確認してください。各埋込み CREATE {FUNCTION | PROCEDURE | PACKAGE} 文および埋込み PL/SQL ブロックでは、文終了記号が END-EXEC であることを確認してください。

**PRO-00055 配列: *string* はバインド変数として無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** ホスト配列を SELECT 文の WHERE 句内でバインド (入力) 変数として使用しています。これは許可されていません。

**処置:** ホスト配列を削除するか、またはホスト配列を単純なホスト変数で置き換えてください。

---

**PRO-00056 FOR 句は SELECT 文中で使用できません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** FOR 句が SELECT 文とともに使用されました。これは、SELECT の実行で最後のループから戻されたデータが、前のループで戻されたデータを上書きするため、許可されません。

**処置:** SELECT 文から FOR 句を削除して、ホスト言語要素を使用し、反復して SELECT 文を実行してください。

**PRO-00060 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 一方が DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方が DECLARE CURSOR 文にある、2 つの AT 句が同じ SQL 文に属しています。AT 句は DECLARE STATEMENT、または DECLARE CURSOR のいずれかに指定できますが、この両方とともに指定はできません。

**処置:** いずれかの文から AT 句を削除してください。

**PRO-00061 構文エラーが発生しました。(行: *number* 列: *number* PLS-*number*. ) *string***

**原因:** 埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

**処置:** 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを訂正してください。

**PRO-00062 埋込み PL/SQL で SQLCHECK=SEMANTICS (FULL) が指定されていません。**

**原因:** SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE を指定したときに、プリコンパイラが PL/SQL ブロックを解析しようとしてしました。SQLCHECK=SEMANTICS が指定されている場合にのみ、PL/SQL ブロックを解析できます。

**処置:** PL/SQL ブロックを削除するか、SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

**PRO-00063 eof: *string* が文終了子の前で検出されました (行: *number*! )。**

**原因:** PL/SQL ブロックの解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

**処置:** PL/SQL ブロックに適切な文の終了記号 (;) またはブロックの終わりを示す文 (END;) を追加してください。

**PRO-00064 複数のホスト変数が同一の標識変数に対応しています。**

**原因:** EXEC SQL 文内のホスト変数の複数の使用が異なる標識変数に対応付けられています。これは許可されていません。

---

**処置:** ホスト変数の各オカレンスが同一の標識変数に対応付けられるように、標識変数を改名してください。

**PRO-00065 Userid が指定されていません。**

**原因:** SQLCHECK=SEMANTICS オプションが指定されましたが、コマンド行で USERID オプションが指定されていません。

**処置:** USER ID= ユーザー名 / パスワードを指定するか、プロンプトが表示されたら ユーザー名およびパスワードを入力してください。または SQLCHECK={SYNTAX|NONE} を指定してください。

**PRO-00066 SQLCHECK=FULL のときのみ Userid を指定するので Userid を無視しました。**

**原因:** SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

**処置:** USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICSIFULL の場合にのみ指定してください。

**PRO-00067 IRECLLEN の値を超過しました (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** 入力ファイルの読み込み中に、プリコンパイラが IRECLLEN よりも長い行を検出しました。

**処置:** この入力行を短くするか、またはコマンド行でより長い IRECLLEN 値を指定します。

**PRO-00068 ホスト変数名と indicator 変数名が一致してはいけません。**

**原因:** 1 つの EXEC SQL 文内で、標識変数の名前がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けた標識変数の名前は異なっている必要があります。さらに、標識変数はホスト変数として使用できません。

**処置:** ホスト変数または標識変数の名前を変更してください。

**PRO-00069 ホスト変数 *string* のデータ型はサポートされていません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** ホスト変数のデータ型がサポートされていません。サポートされているデータ型については、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください

**処置:** サポートされているデータ型を指定して、宣言節内にホスト変数を再定義します。

**PRO-00070 SQL 文: *string* で、構文または指数値が無効です。**

**原因:** プリコンパイラが科学表記法で指定した数値を解析中に構文エラーを見つけました。プリコンパイラは指数標識 (E) の後に符号付きの整数を想定していますが、別のものが見つかりました。

**処置:** 数値を正しく再フォーマットしてください。



---

**PRO-00071 メッセージ・ファイルをオープンできません。**

**原因：**プリコンパイラはプリコンパイラによって発行されるメッセージが含まれているメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。これは、オープンしているファイルが多すぎるか、またはプリコンパイラのインストラクションに問題がある場合に発生する可能性があります。

**処置：**オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることを確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

**PRO-00072 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。**

**原因：**指定したファイル名の長さが最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

**処置：**各プラットフォームでファイル名に使用できる最大長以下のファイル名を使用してください。

**PRO-00073 カーソルが宣言されましたがオープンされませんでした（行: *number* ファイル: *string*）。**

**原因：**カーソルが宣言されましたが、OPEN 文で参照されませんでした。これは、情報メッセージです。

**処置：**カーソル宣言を削除するか、カーソルに OPEN 文をコーディングしてください。

**PRO-00075 標識変数の前に ":" が必要です。**

**原因：**標識変数の前に必要なコロンがありません。

**処置：**問題となっている標識変数の前にコロンを付けてください。

**PRO-00076 DISPLAY タイプは SIGN LEADING SEPARATE である必要があります。**

**原因：**このメッセージは、Pro\*COBOL によってのみ発行されます。DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE は、Pro\*COBOL でサポートする唯一の DISPLAY タイプです。

**処置：**変数宣言の綴りを確認します。必要に応じて、サポートされていない DISPLAY タイプへの参照を削除します。

**PRO-00077 WHENEVER 文の数値ラベルのコロンは無効です（ANSI）。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。詳細は、数値 WHENEVER... GOTO ラベルの前にコロンが付いています。たとえば、コードは次のようになっている可能性があります。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR GOTO :99;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字（数値ではない）WHENEVER ... GOTO ラベルの前にはコロンを付けてください。

**PRO-00078 FIPS 警告: SQL 識別子が無効です（ANSI）。**

---

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数に次のいずれかの名前が指定されました。

- 18 文字よりも長い名前
- 英文字以外で始まる名前
- アンダースコアが連続するまたは最後にアンダースコアがある名前

次の Pro\*C の例では、ホスト変数名が 19 文字のため、準拠していません。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
int department_location:  -- not ANSI/ISO compliant EXEC SQL END DECLARE  
SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ホスト変数名は、18 文字以下の長さで、英文字で始まり、連続したアンダースコアや末尾にアンダースコアを含まないように変更してください。

**PRO-00079 WHENEVER 文のラベルにはコロンが必要です (ANSI)。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。詳細は、英数字の WHENEVER... GOTO ラベルの前にコロンが付いていません。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO NO_MORE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字（数字ではない）の WHENEVER ... GOTO ラベルの前にはコロンを付けられます。

**PRO-00080: TYPE 識別子は既に TYPEd されています。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文で TYPEd されている識別子は、前の EXEC SQL TYPE 文ですでに宣言されています。指定された識別子は、1 つの EXEC SQL TYPE 文にのみ宣言できます。

**処置：**識別子の綴りを確認してください。各 EXEC SQL TYPE 文で異なる識別子を使用するか、EXEC SQL TYPE 文のいずれか 1 つを削除してください。

**PRO-00081 このデータ型での位取り (Scale) 指定は無効です。**

**原因：**EXEC SQL VAR または EXEC SQL TYPE 文で参照される Oracle 外部データ型には、位取り指定は認められません。

---

**処置:** 精度の指定を確認し、位取り指定を削除します。

**PRO-00082 長さや位取り (Scale) 指定では整数を使用します。**

**原因:** 長さまたは位取りの指定に、浮動小数点数または数字以外が使用されました。整数のみを使用できます。

**処置:** 長さまたは位取りの指定 (またはその両方) を訂正または削除してください。

**PRO-00083 CREATE 文でのバインドと変数宣言は無効です。**

**原因:** ホスト変数は CREATE 文では使用できません。CREATE 文の作成が実行時まで認識できない場合は、この CREATE 文の実行には動的 SQL 文を使用する必要があります。プログラムは実行時に CREATE 文を受け入れるか、または作成し、それをホスト文字列に格納して実行します。

**処置:** CREATE 文を訂正するか、または削除してください。

**PRO-00085 ファイル: string への書き込み中にエラーが発生しました。**

**原因:** プリコンパイラは指定された出力ファイルへの書き込みを行えませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

**処置:** ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうか調べてください。さらにディスク領域が十分にあり、オープンするファイルの制限値が十分に大きいことを確認します (システム管理者に問い合せて確かめます)。

**PRO-00086 ソース・ファイル: string の長さがゼロです。**

**原因:** コマンド行で指定したソース・ファイルにはコードがありません。したがって、プリコンパイラは何も処理できません。

**処置:** 埋込み SQL 文を含む有効なソース・ファイルを指定してください。

**PRO-00087: EXEC SQL TYPE 文は、現ホスト言語で使用できません。**

**原因:** ユーザー定義のデータ型の同等化をサポートしていないホスト言語で EXEC SQL TYPE 文を使用しました。この機能は Pro\*C および Pro\*Pascal でのみ使用可能です。

**処置:** 無効な EXEC SQL TYPE 文を削除してください。

---

**PRO-00088 ユーザー定義データ型の識別子を使用してください。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文のユーザー定義データ型名が欠落しているか、綴りが誤っているか、予約語であるか、ホスト言語の有効な識別子でないか、またはその言語における基本データ型と矛盾しています。

**処置：**ユーザー定義データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、有効なユーザー定義データ型を宣言してください。ユーザー定義データ型の同値化は Pro\*C と Pro\*Pascal でのみ使用可能です。

**PRO-00089 ORACLE TYPE 指定が無効です。**

**原因：**EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文において Oracle 外部データ型名が欠落しているか、綴りが間違っています。

**処置：**外部データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているデータ型名を指定してください。

**PRO-00090 DECIMAL データ型で精度 / 位取り指定が必要です。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文で、Oracle 外部データ型 DECIMAL に対して精度および位取り（またはそのどちらか）の指定が省略されました。

**処置：**EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、精度および位取り（またはそのどちらか）の指定を追加してください。

**PRO-00091 この Oracle データ型では、TYPE 文に書式指定が必要です。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、長さ、精度および位取り（または、そのいずれか）の指定が省略されました。

**処置：**EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、外部データ型の長さ、精度および位取り（または、そのいずれか）の指定を追加してください。

**PRO-00092 長さ / 位取りは、指定されたデータ型には無効です。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、無効な長さまたは位取りが指定されました。

**処置：**外部データ型に適応できるだけの十分な長さが指定されていることを確認してください。位取りを指定する場合は、-84 ～ 99 の範囲内にあることを確認してください。

**PRO-00093 オプションが無効なため無視しました。**

**原因：**プリコンパイラは以前のバージョンまたは異なるホスト言語において（現在のバージョンまたはホスト言語ではなく）、使用可能なオプションを検出しました。

**処置：**そのオプション指定を削除してください。

---

**PRO-00094 char[n] データ型では、配列のサイズは 2 以上でなければなりません。**

**原因：**MODE={ANSI|ANSI14} のときに、CHAR[n] ホスト変数に対して 2 文字未満の長さが指定されたか、CHAR 単純変数が指定されました。MODE={ANSI|ANSI14} のとき、その長さは少なくとも 2 文字である必要があります。このメッセージは Pro\*C プリコンパイラによってのみ出力されます。

**処置：**少なくとも 2 文字以上の長さが指定されるように、宣言を修正してください。

**PRO-00095 PROGRAM または SUBROUTINE, FUNCTION, BULOCK DATA 文が欠落しています。**

**原因：**FORTRAN ソース・ファイルには少なくとも 1 つの PROGRAM, SUBROUTINE, FUNCTION または BLOCK DATA 文が必要です。それらはプリコンパイラがルーチンまたはコンパイル単位の始まりを検出するために使用します。

**処置：**ソース・ファイルにこれらの文のいずれかを追加します。

**PRO-00096 MODE=ANSI14 では配列の FETCH は認められません。**

**原因：**MODE=ANSI14 のときに、配列の SELECT または FETCH が試行されました。MODE=ANSI14 のときは、配列の操作は行えません。

**処置：**MODE=ANSI14 を指定する場合には、配列インタフェースを使用せずに、ホスト言語のループに SELECT または FETCH 文を指定してください。

**PRO-00097 COBOL と PL/I でのみ DECIMAL、DISPLAY 型を使用できます。**

**原因：**PRO\*COBOL または PRO\*PL/I 以外の Oracle プリコンパイラとともに、EXEC SQL VAR 文または EXEC SQL TYPE 文で DECIMAL および DISPLAY 外部データ型が使用されました。これらの外部データ型は、Pro\*COBOL および PRO\*PL/I でのみ使用できます。

**処置：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文から DECIMAL または DISPLAY 外部データ型への参照を削除してください。

**PRO-00098 現コンテキストでの位取り (Scale) 指定は無効です。**

**原因：**Pro\*C、Pro\*FORTRAN または Pro\*Pascal などのプログラムの場合、現行の文脈では EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に位取りを指定できません。

**処置：**EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から位取り指定を削除してください。

---

**PRO-00099 長さの指定は ROWID または DATE、MLSLABEL 型では使用できません。**

**原因：**EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に、外部データ型 ROWID、DATE または MLSLABEL の長さが指定されました。これらの文は固定長タイプであるため、この指定は不要です。

**処置：**EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から長さの指定を削除してください。

**PRO-00100 非整数ラベルは無効です (ANSI)。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、整数でない WHENEVER... GOTO ラベルが Pro\*Pascal プログラム内にありました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO quit;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、PRO\*Pascal プログラムでは整数の WHENEVER... GOTO ラベルのみ使用してください。

**PRO-00101 小文字 'e' は浮動小数点指定として正しくありません (ANSI)。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、科学表記法で小文字の 'e' が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
maxnum = 10e38;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、科学表記法には大文字の 'E' を使用してください。

**PRO-00102 FOR UPDATE は Oracle 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、カーソル宣言で FOR UPDATE OF 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL DECLARE emp_cursor CURSOR FOR SELECT ENAME, SAL FROM EMP WHERE  
DEPTNO = :dept_number FOR UPDATE OF SAL;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、FOR UPDATE OF 句を使用しないでください。

---

**PRO-00103 AT 句は ORACLE 拡張機能の 1 つです。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、SQL 文で *ATdb\_name* 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、*ATdb\_name* 句を使用しないでください。

**PRO-00104 FOR 句は ORACLE 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、FOR 句が配列処理 SQL 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL FOR :limit INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO) VALUES  
(:emp_number, :job_title, :dept_number);
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、FOR 句を使用しないでください。

**PRO-00105 ここにはキーワード WORK が必要です (ANSI)。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、キーワード WORK を使用しないでください。

**PRO-00106 RELEASE は COMMIT や ROLLBACK 文に対する ORACLE 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、パラメータ RELEASE が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

---

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、パラメータ **RELEASE** を使用しないでください。

**PRO-00107 CONNECT 文は ORACLE の拡張機能です。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、ORACLE へのログインに **CONNECT** 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL CONNECT :username IDENTIFIED BY :password;
```

この情報メッセージは、**FIPS=YES** のときに **FIPS** フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、**CONNECT** 文を使用せずに **AUTO\_CONNECT** コマンド行オプションを指定してください。

**PRO-00108 この文は ANSI においてサポートされていません。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、**PREPARE** などの非準拠 SQL 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL PREPARE sql_statement FROM :sql_string;
```

この情報メッセージは、**FIPS=YES** のときに **FIPS** フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、非準拠 SQL を使用しないでください。

**PRO-00109 動的 SQL と PL/SQL は ORACLE の ANSI SQL 拡張機能です。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
XEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC;
```

この情報メッセージは、**FIPS=YES** のときに **FIPS** フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

**PRO-00110 WHENEVER は ORACLE の拡張機能です。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への ORACLE 拡張機能が使用されました。特に、**NOTFOUND**、**STOP**、**RAISE** または **DO** などの非準拠キーワードが **WHENEVER** 文に使用されました（ただし、**NOT FOUND** は ANSI 準拠です）。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP;
```

この情報メッセージは、**FIPS=YES** のときに **FIPS** フラガーによって発行されます。



---

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、非準拠キーワードを使用しないでください。

**PRO-00111 EXEC ORACLE 文での SQLCHECK 値はコマンド行での値を超えています。**

**原因:** SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンド行に指定された（またはデフォルトで受け入れられた）レベルよりも高いチェック・レベルが指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンド行に SQLCHECK={SYNTAX|LIMITED} を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL} をインラインで指定できません。

**処置:** EXEC ORACLE 文を訂正するか、コマンド行のチェック・レベルを低くしてください。

**PRO-00112 データ型がサポートされていません (ANSI)。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、VARCHAR などのポインタまたは非準拠データ型が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION VARCHAR username[20];  
EXEC SQL END DECLARE SECTION
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、ポインタまたは非準拠データ型を使用しないでください。

**PRO-00113 現 MODE オプションでの DBMS オプションが無効です。**

**原因:** MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 が指定されたか、または MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは、Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 以前では無効であることに注意してください。

**処置:** DBMS=V7 では、MODE={ANSI14|ANSI13} ではなく、MODE={ANSI|ORACLE} を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSI ではなく MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE} を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

---

**PRO-00114 EXEC SQL VAR 文での VARxxx 型にはサイズ指定が必要です。**

**原因：**EXEC SQL VAR 文で、長さのない VARCHAR または VARRAW 外部データ型が指定されました。他の型とは異なり、VARCHAR および VARRAW には、データ・フィールドの最大長を指定する必要があります。

**処置：**EXEC SQL VAR 文に長さの指定を追加してください。

**PRO-00115 ここでは配列が必要です。**

**原因：**ARRAYLEN 文に、以前宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は配列である必要があります。2 番目のホスト変数は配列を 4 バイトの整数で指定する必要があります。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN host_array (dimension);
```

宣言節内の ARRAYLEN 文は、*host\_array* および *dimension* の宣言の後に指定する必要があります。

**処置：**ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているホスト配列名を指定してください。

**PRO-00116 配列はすでに ARRAYLEN 文で指定されています。**

**原因：**2 つの異なる ARRAYLEN 文に、同じホスト配列が指定されました。指定されたホスト配列は、複数の ARRAYLEN 文に指定できません。

**処置：**両方の ARRAYLEN 文のホスト配列名の綴りを確認してください。異なるホスト配列名を参照するよう一方のホスト配列名を修正するか、または一方の ARRAYLEN 文を削除してください。

**PRO-00117 ARRAYLEN サイズ変数が無効です。**

**原因：**ARRAYLEN 文に有効な配列ディメンションが指定されませんでした。配列ディメンションは、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、違反しているコードは次のような形をしています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ename_array (25); -- illegal dimension
```

**処置：**有効な配列ディメンションを指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

---

**PRO-00118 ANSI SQL でホスト変数の初期化はサポートしていません。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。特に、ホスト変数がその宣言内で初期化されました。次の Pro\*C の例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION; int dept_number = 20;  -- not
ANSI/ISO-compliant
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言内でホスト変数を初期化しないでください。

**PRO-00119 INTO 句の定数が変更されます。**

**原因：**型指定子 "const" とともに宣言した変数が、INTO 句で使用されました。この変数は、INTO 句で変更および使用できません。

**処置：**INTO 句の識別子の綴りがすべて正しいかどうかを確認してください。必要に応じて、ホスト変数宣言から "const" を削除するか、または別のホスト変数を使用してください。

**PRO-00120 コードの生成中にファイル I/O エラーが発生しました。**

**原因：**コード生成中にファイル I/O エラーが発生しました。このエラーは、ディスク領域不足が原因で発生する場合があります。

**処置：**十分なディスク領域があることを確認してください。

**PRO-00121 VARCHAR 型ポインタの配列はサポートされません。**

**原因：**許可されていないポインタの配列が宣言されました。ただし、スカラー型のポインタは許可されています。PRO\*C で、CHAR[n] 変数および VARCHAR[n] 変数のポインタを、CHAR または VARCHAR のポインタとして（長さを指定しないで）宣言します。

**処置：**宣言を訂正するか、または削除してください。

**PRO-00122 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。**

**原因：**コマンド行で、INAME と ONAME に同じパス名が指定されました。INAME はプリコンパイラ入力ファイルを指定し、ONAME はプリコンパイラ出力ファイルを指定します。

**処置：**パス名またはファイル名のどちらかを変更してください。

---

**PRO-00123 VARCHAR の宣言が 1 行に納まっていません。**

**原因：**Pro\*C プログラムの場合、VARCHAR 宣言が 2 行以上になることは許可されていません。

**処置：**宣言が 1 行になるように訂正してください。

**PRO-00124 COMMON\_NAME オプションは PROGRAM やサブルーチンの開始位置より前です。**

**原因：**FORTRAN プログラム、サブルーチンまたはファンクションで、PROGRAM 文、SUBROUTINE 文または FUNCTION 文の後に、プリコンパイラ・オプション COMMON\_NAME を誤って指定しました。COMMON\_NAME をインラインで指定する場合は、その EXEC ORACLE OPTION 文が PROGRAM 文、SUBROUTINE 文、FUNCTION 文の前にある必要があります。

**処置：**EXEC ORACLE OPTION 文の位置を変更するか、コマンド行で COMMON\_NAME を指定してください。

**PRO-00126 システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。**

**原因：**プリコンパイラは、システム構成ファイル（事前設定コマンド行オプションが指定されているテキスト・ファイルで、プリコンパイラがデフォルトで使用する）を検出またはオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

このメッセージは、警告にすぎません。システム構成ファイルがなくても処理は続行されます。

**処置：**ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうか、また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうかを確認してください。また、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

**PRO-00127 string**

**原因：**これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

**処置：**表示されたエラーを訂正してください。

**PRO-00128 コマンド行処理機能に重大なエラーがあります。**

**原因：**コマンド行プロセッサが重大なエラーを検出しました。

**処置：**すべてのコマンド行オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションおよび構成ファイルの全アカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**PRO-00129 オプション: *string* が必要です。**

**原因:** 必要なコマンド行オプションが欠落しています。たとえば、入力ファイル名を指定する INAME オプションが欠落している可能性があります。

**処置:** 必要なコマンド行オプションを指定してください。

**PRO-00132 標識配列サイズは、ホスト変数のものより小さくできません。**

**原因:** ホスト変数配列が、より小さいディメンションで宣言された標識配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;
int   dept_no[20];
short dept_no_ind[10];
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
... SELECT ... INTO dept_no:dept_no_ind ...
```

**処置:** 標識配列のサイズを大きくしてください。

**PRO-00133 コマンド行オプション: MODE=ANSI を使用するときはオプション:**

**NLS\_LOCAL=YES が必要です。**

**原因:** MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS\_LOCAL=YES を使用しました。NLS\_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定する必要があります。

**処置:** NLS\_LOCAL=YES に追加して、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定するか、または NLS\_LOCAL=YES は設定しないでください。

**PRO-00135 Result Set Cursor の使用は標準 SQL ではありません。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、Oracle Result Set Cursor が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、Result Set Cursor を使用しないでください。

**PRO-00136 SQL\_CURSOR 宣言部が無効です。**

**原因:** SQL\_CURSOR ホスト変数が配列として宣言されたか、または Pro\*COBOL の場合に、SQL\_CURSOR 宣言に対して PICTURE 句が指定されました。Pro\*FORTRAN の場合は、SQL\_CURSOR 宣言に対する長さ指定 (つまり「\*n」) が行われました。このような使用法はサポートされていません。

**処置:** SQL\_CURSOR 変数が配列として宣言されていないかどうかを確認してください。Pro\*COBOL の場合には、SQL\_CURSOR に PICTURE 句が指定されていないことを確認してください。Pro\*FORTRAN では、SQL\_CURSOR に対する長さ指定 (つまり、「\*n」) がないことを確認してください。

---

**PRO-00137 SQL カーソル・ホスト変数の指定が無効です。**

**原因：**SQL\_CURSOR 変数が INTO 句または WHERE 句で使用されました。

SQL\_CURSOR 変数は、通常のカーソル識別子、または PL/SQL ブロックではカーソルが通常使用される場所でのみ使用できます。

**処置：**INTO 句または WHERE 句から SQL カーソル変数参照を削除するか、INTO 句または WHERE 句に別の型のホスト変数を使用してください。

**PRO-00138 Result Set Cursors はこのプリコンパイラではインプリメントされていません。**

**原因：**ホスト変数をカーソルの参照として参照しようとした。カーソル変数が PRO\*Pascal または Pro\*PL/I にインプリメントされていません。

**処置：**標準 SQL のカーソルを使用するように、ホスト言語コードを修正してください。

**PRO-00139 MAXLITERAL は EXEC SQL 文の後で変更できません。**

**原因：**EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

**処置：**MAXLITERAL オプションは、コマンド行または入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文でのみ使用してください。

**PRO-00140 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は Oracle 拡張機能です。**

**原因：**ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

これらの文は、ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能です。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

**処置：**処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

**PRO-00141 Thread Safety はこのプリコンパイラではインプリメントされていません。**

**原因：**CONTEXT SQL 文を使用しようとした。Thread Safety 機能が PRO\*Pascal、Pro\*PL/I または Pro\*C 1.x にはインプリメントされていません。

---

**処置:** コンテキストを使用しないように、ホスト言語コードを修正してください。

**PRO-00142 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。**

**原因:** EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されず、オプション THREADS=YES が要求されました。

**処置:** 必要な (SQL\_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割振りおよび使用されているか確認してください。

**PRO-00143 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。**

**原因:** EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照されるランタイム・コンテキスト変数の型が SQL\_CONTEXT 型ではありません。

**処置:** SQL\_CONTEXT 型のランタイム・コンテキスト変数を宣言してください。

**PRO-00144 UNSAFE\_NULL=YES は DBMS=V7 かつ MODE=ORACLE を指定して使用しなければなりません。**

**原因:** UNSAFE\_NULL=YES オプションが DBMS=V6 または DBMS=NATIVE (デフォルト) とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

**処置:** UNSAFE\_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 および MODE=ORACLE (デフォルト) を指定してください。または、UNSAFE\_NULL=YES を使用しないでください。

**PRO-00145 この文は THREADS=YES を指定した場合のみ使用できます。**

**原因:** THREADS オプションを NO と設定し、EXEC SQL ENABLE THREADS または EXEC SQL CONTEXT 文が使用されました。

**処置:** オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

**PRO-00146 ホスト・オプションの値が間違っています。無視されました。**

**原因:** コマンド行ホスト・オプションを使用して、無効なホスト言語が指定されました。ホスト・オプションの有効値は Pro\* 言語固有です。たとえば、Pro\*FORTRAN の場合、有効値は FORTRAN のみです。Pro\*COBOL の場合、有効値は COBOL および COB74 のみです。

**処置:** ホスト・オプションで、有効なホスト言語を指定してください。

**PRO-00147 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。**

**原因:** V6 との互換性はサポートされなくなりました。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されていたものとしてプリコンパイルします。

---

処置：指定した DBMS オプションの値を、V6 から別の値に変更してください。

**PRO-01000 Pro\*COBOL の実行は認可されていません。**

原因：Pro\*COBOL コンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01001 Pro\*COBOL 認可期間は間もなく満了します。**

原因：Pro\*COBOL プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01002 標識領域内の文字 "character" は無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

原因：PRO\*COBOL プリコンパイラ・プログラムで、標識領域には空白、ハイフン (-)、アスタリスク (\*)、スラッシュ (/) または文字 "D" のみ使用できますが、それ以外の文字が見つかりました。

処置：不適切な文字を削除するかまたは置き換えてください。FORMAT=ANSI オプションを指定している場合は、列 7 の行の終わりを確認してください。

**PRO-01003 継続行が無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

原因：PRO\*COBOL プログラムで、継続行が継続文字以外完全に空白です。

処置：空の継続行を削除するか、または置き換えてください。

**PRO-01004 EXEC 文の途中でファイルが終了しました。**

原因：Pro\*COBOL 入力ファイルで、最後の EXEC 文が正しく終了していません。

処置：最後の EXEC 文を END-EXEC で終了してください。

**PRO-01005 PROCEDURE DIVISION が見つかりません。**

原因：プリコンパイラは、Pro\*COBOL に PROCEDURE DIVISION ヘッダーを見つけられませんでした。次のような原因が考えられます。

- ヘッダーにキーワードが欠落しているか、ヘッダーの綴りの誤り。
- REMARKS セクションにアポストロフィがある (プリコンパイラがアポストロフィを文字列リテラルの開始とみなした)。
- WORKING-STORAGE セクションのリテラルにリテラルの終わりのアポストロフィが不足している。



- 
- FORMAT オプションに間違った値を指定した。

**処置:** PROCEDURE DIVISION ヘッダーが適切な位置にあって綴りが正しいこと、REMARKS セクションにアポストロフィがないこと、WORKING-STORAGE SECTION のすべてのリテラルが終了されていること、FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

**PRO-01006 EXEC 文を領域 A 内で始めることはできません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** Pro\*COBOL プログラムでは、EXEC 文が領域 B で始まる必要がありますが、プリコンパイラは領域 A 内で始まる文を見つけました。

**処置:** この文を領域 B で始まるように右側に移動してください。

**PRO-01007 WORKING-STORAGE SECTION が見つかりません。**

**原因:** キーワードが欠落しているまたは綴りが間違っている、または FORMAT オプションに誤った値が指定されているため、プリコンパイラが Pro\*COBOL プログラムの WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーを検出できませんでした。

**処置:** WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーが適切な位置にあり、綴りが正しいことおよび FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

**PRO-01008 DECLARE セクションで複数のエレメント・レコードは宣言できません。**

**原因:** COBOL コンパイラの中には、CALL 文でグループ項目をパラメータとして引き渡すことができないものがあります (COBOL コンパイラのユーザーズ・ガイドを参照してください)。このようなコンパイラを使用している場合は、DECLARE セクション内のグループ項目には 1 つの要素項目のみ含むことができます。

**処置:** 各ホスト変数に独自のグループ項目を割り当ててください。

**PRO-01009 SQL 文の終わりには ELSE またはピリオドを使用します (HOST=COB74)。**

**原因:** Pro\*COBOL プログラムでは、同一の文内で EXEC SQL 文の後に別の文が続きます。COBOL-74 の文では EXEC SQL 文は最後の文である必要があるため、キーワードの ELSE またはピリオドで終了する必要があります。

**処置:** プログラム・ロジックを変更して、文内の最後に EXEC SQL 文があるようにしてください。

**PRO-01010 文字リテラル中に無効な NULL 文字が存在します。**

**原因:** 文字列リテラル中で NULL 文字 (バイナリのゼロ) が見つかりました。これは Pro\*COBOL では許可されていません。

**処置:** 文字列リテラルから NULL を削除してください。

---

**PRO-01011 USAGE IS BINARY 句は、同じ行で、"." で終了しなければなりません。**

**原因：**USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドは、USAGE 句と同じ行に存在する必要があります。このメッセージは、COMP-5 が BINARY に代用されている Pro\*COBOL の COMP5=YES コマンド行オプションをサポートするオペレーティング・システムでのみ発生します。

**処置：**USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドが USAGE 句と同じ行にあることを確認してください。

**PRO-01012 DATA DIVISION が見つかりません。**

**原因：**Pro\*COBOL プリコンパイラが、入力ソース・ファイルの DATA DIVISION を検出しませんでした。DATA DIVISION を持つには、Pro\*COBOL アプリケーションが必要です。

**処置：**入力ソース・ファイルに DATA DIVISION を追加してください。

**PRO-01013 PIC N 配列変数: *string* (行: *number*, ファイル: *string*) の使用が無効です。**

**原因：**OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。PIC N 変数の表は、Pro\*COBOL プリコンパイラによってサポートされていません。

**処置：**OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。または、SQL 文で PIC N 変数を使用しない場合には、宣言節の外側で宣言してください。

**PRO-01014 PIC N PICTURE 句で "VARYING" はサポートされていません。**

**原因：**キーワード VARYING が PIC N 変数宣言で使用されました。

**処置：**変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次の例にあるように、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC. ... 01
ENAME. 05
ENAME-LEN PIC S9(4) COMP. 05
ENAME-ARR PIC N(20) ...
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

**PRO-01015 PIC N 変数: *string* を等価にできません。**

**原因：**PIC N 変数または暗黙の VARCHAR グループ項目（基本項目として PIC N 変数を使用）が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

---

**処置:** EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型と等価にする場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

**PRO-01016 "N" 文字リテラルは、埋込み PL/SQL でサポートされません。**

**原因:** "N" 文字リテラルが PL/SQL ブロック内で使用されました。

**処置:** PL/SQL ブロックから "N" 文字リテラルを削除してください。

**PRO-1017 SQLCA 変数も SQLCODE 変数も使用できません。**

**原因:** SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで COBOL コンパイラ・エラーを引き起こす可能性があるため、許可されていません。

**処置:** SQLCA 変数または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。SQLCA の組み込みまたは SQLCA 変数宣言のいずれかを削除してください。

**PRO-01018 変換バッファ・サイズが指定できるのは文字型だけです。**

**原因:** CONVBUFSZ 句が EXEC SQL VAR 文で使用されましたが、変数が文字型ではありません。

**処置:** EXEC SQL VAR 文から CONVBUFSZ 句を削除してください。

**PRO-01019 変換バッファ・サイズが無効です。**

**原因:** CONVBUFSZ 句に指定するサイズは、1 ～ 32765 の範囲内の整数である必要があります。指定されたサイズが整数でないか、範囲外の値が指定されています。

**処置:** 1 ～ 32765 の範囲内の整数を指定してください。

**PRO-01100 Pro\*FORTRAN の実行は認可されていません。**

**原因:** PRO\*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01101 Pro\*FORTRAN 認可期間は間もなく満了します。**

**原因:** PRO\*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-1102 ラベルが無効です (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** Pro\*FORTRAN プリコンパイラは列 1 ～ 6 の無効な FORTRAN 文ラベルを見つけました。

---

処置：文ラベルを訂正または削除してください。

**PRO-01200 Pro\*C の実行は認可されていません。**

原因：PRO\*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01201 Pro\*C 認可期間は間もなく満了します。**

原因：Pro\*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01202 識別子: *string* は 31 文字に切り捨てられました。**

原因：ホスト識別子（たとえばホスト変数名など）がプリコンパイラの許可する最大長（31 文字）まで切捨てられました。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**PRO-01300 Pro\*PL/I の実行は認可されていません。**

原因：PRO\*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01301 Pro\*PL/I の認可期間は間もなく満了します。**

原因：PRO\*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01400 Pro\*Pascal の実行は認可されていません。**

原因：PRO\*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01401 Pro\*Pascal の認可期間は間もなく満了します。**

原因：PRO\*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**PRO-01500 Pro\*Ada の実行は認可されていません。**

**原因:** PRO\*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01501 Pro\*Ada の認可期間は間もなく満了します。**

**原因:** PRO\*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**PRO-01510 *string* に Package または Procedure、Function の文がありません。**

**原因:** すべての Ada ソース・ファイルには Package、Procedure または Function の文が存在する必要があります。プリコンパイラは 1 つも検出できませんでした。

**処置:** ソース・ファイルに適切な文を追加し、Pro\*Ada を再実行してください。

**PRO-01511 識別子 (行: *number* ファイル: *string*) がファイル: *string* で生成されたコードに対して長すぎます。**

**原因:** ホスト・プログラムで使用している識別子が長すぎるため、プリコンパイラで生成するコード長がソース行での制限を超えています。

**処置:** 識別子を短くするか、または ORECLEN オプションを使用して許可される行の長さを増やしてください。

**PRO-01512 ファイル: *string* への無効な EXEC SQL INCLUDE があります (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** EXEC SQL INCLUDE 文は Pro\*Ada では許可されていません。

**処置:** 必要なソース・テキストを直接 Pro\*Ada ファイルに埋め込んでください。"with" コンテキスト句を使用して、必要なパッケージを組み込んでください。

**PRO-01513 FIPS 警告: データ型がサポートされていません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ANSI/ISO 標準タイプ以外でホスト変数が宣言されました。

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ANSI/ISO 標準タイプのみを使用してください。

**PRO-01515 FIPS 警告: ホスト変数: *string* が宣言されていません (行: *number* ファイル: *string*)。**

**原因:** ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、宣言節外でホスト変数が宣言されました。

---

**処置:** 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言節内にホスト変数を宣言してください。

---

## SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

**SQL-02100 メモリーが足りないため割当てできません。**

**原因:** SQLLIB がプログラムを実行するために十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

**処置:** ユーザー・プロセス用により多くのメモリーを割り当ててください。その後、プログラムを再実行してください。繰り返しエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。

**SQL-2101 無効なカーソル・キャッシュです。ユニット・カーソル/グローバル・カーソルが一致しません。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-02102 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・キャッシュ・エントリがありません。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-2103 無効なカーソル・キャッシュです。カーソル・キャッシュ参照の範囲を超えています。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-2104: 無効なホスト・キャッシュです。使用可能なカーソル・キャッシュがありません。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

---

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-2105 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・カーソルがありません。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-2106 無効なカーソル・キャッシュです。Oracle カーソル番号が無効です。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-02107 実行時ライブラリに対してプログラムが古すぎます。プログラムを再度プリコンパイルしてください。**

**原因:** プログラムがこのリリースの SQLLIB と互換性のない古いバージョンの Oracle Precompiler でプリコンパイルされています。

**処置:** より新しいバージョンの Oracle Precompiler を使用して、このプログラムをプリコンパイルしてください。

**SQL-02108 実行時ライブラリに無効な記述子が渡されました。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-2109: 無効なホスト・キャッシュです。ホスト参照が範囲外です。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-02110: ホスト・キャッシュが無効です。ホスト・キャッシュ・エントリの型が無効です。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

**SQL-02111 ヒープ一貫性エラーが発生しました。**

**原因:** 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置:** メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効、配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。



---

**SQL-02112 SELECT..INTO が戻す行が多すぎます。**

**原因：**SELECT ... INTO 文が、指定したホスト変数に格納できる行数よりも多くの行を戻しました。

**処置：**3つの解決方法が考えられます。

- プリコンパイラ・オプション SELECT\_ERROR=NO を使用する。
- より大きな配列次元のホスト変数を宣言する。
- SELECT 文のカーソルまたはカーソル変数を宣言する。

**SQL-02113 メッセージ・ファイルをオープンできません。**

**原因：**SQLLIB は、NLS\_LANGUAGE の値に依存する *language\_id* のある、SQLLIB メッセージ・ファイル、および *SQLlanguage\_id*.MSB を検出またはオープンできませんでした。

**処置：**このファイルが存在し、読み込み可能であることを確認してください。メッセージ・ファイルの位置は、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

**SQL-02114 無効な SQL カーソルの使用：すでにクローズしているカーソルをクローズしようとしてしました。**

**原因：**MODE={ANSI|ANSI14} ですでにクローズされているカーソルをクローズしようとしてしました。クローズされているカーソルを再クローズできるのは、MODE={ORACLE|ANSI13} のときのみです。

**処置：**MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、カーソルをクローズする前にカーソルがすでにクローズされていないかどうか調べてください。クローズされているカーソルを再クローズする場合は、MODE={ORACLE|ANSI13} を指定してください。

**SQL-02115 コード解析の問題：COMMON\_NAME の使用法をチェックしてください。**

**原因：**PRO\*FORTRAN プログラムで、プリコンパイラ・オプション COMMON\_NAME が正しく指定されていない場合にこのエラーが発生します。また、その他の Oracle プリコンパイラでは、プリコンパイラがコードセグメントの生成ができないときにこのエラーが発生します。

**処置：**Pro\*FORTRAN で、COMMON\_NAME を使用して複数のソース・モジュールをプリコンパイルしている場合には、各モジュールに異なる共通名を指定しているかどうか確認してください。その他の Oracle プリコンパイラでこのエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SQL-02116 FATAL ERROR: 再入可能なコード・ジェネレータが無効なコンテキストを与えました。**

**原因：**通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

**処置：**メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

---

**SQL-02117 無効な SQL カーソルの使用：すでにオープンしているカーソルをオープンしようとしてしました。**

**原因：**MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} ですでにオープンされているカーソルをオープンしようとしてしました。オープンしているカーソルを再オープンできるのは、MODE=ORACLE のときのみです。

**処置：**MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} の場合には、カーソルをオープンする前に、カーソルがすでにオープンされていないかどうか調べてください。オープンされているカーソルを再オープンする場合は、MODE=ORACLE を指定してください。

**SQL-02118 WHERE CURRENT OF 操作の列が無効です。**

**原因：**UPDATE 文または DELETE 文の CURRENT OF 句を使用して、存在していない行を参照しようとしてしました。このエラーは、FETCH が実行されなかった場合や、FETCH が "no data found" (データが見つかりません) というエラーを戻したのに対しプログラムがそのエラーをトラップできなかった場合に発生します。

**処置：**最後のカーソル操作が正しく完了したかどうか、カーソルの現在行が有効かどうか確認してください。カーソル操作の結果は、2つの方法で確認できます。WHENEVER 文で暗黙的に確認するか、または SQLCA の SQLCODE を明示的に確認できます。

**SQL-02119 HSTDEF 引数が無効です。**

**原因：**最初の引数が使用されたときに、SQLRCN コール of 2 番目の引数として NULL 以外のポインタが HSTDEF に対して指定されました。SQLRCN の最初または 2 番目の引数のいずれかが NULL である必要があります。

**処置：**SQLRCN に対する最初または 2 番目の引数のいずれかに NULL ポインタを渡してください。

**SQL-02120 SQLRCN の第 1 引数および第 2 引数が両方とも NULL です。**

**原因：**SQLRCN の最初の引数と 2 番目の引数が両方とも NULL でした。OCI LDA (最初の引数) の形式で、または HSTDEF ポインタ自体 (2 番目の引数) として、HSTDEF を SQLRCN に渡さなければなりません。

**処置：**OCI LDA または HSTDEF のいずれかを渡すか、両方とも渡さないでください。

**SQL-02121 ホスト名が無効です。**

**原因：**SQLFCN コールに渡されたホスト名は、SQLRCN への以前のコールで使用されませんでした。

**処置：**対応する SQLRCN コールで使用された同じ識別子を使用してください。

**SQL-02122 データベースへ接続での OPEN または PREPARE が無効です。**

**原因：**別のデータベース接続のために現在オープンしているカーソルを使用して、OPEN 文または PREPARE 文を実行しようとしてしました。このカーソルはこの接続では使用できません。

---

**処置:** 現在接続しているデータベースでできるように、カーソルをクローズするか使用可能な他のカーソルに対して実行してください。

**SQL-02123 EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で参照されているコンテキストが見つかりません。**

**原因:** EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で指定されたコンテキスト名が、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文とともに格納されませんでした。

**処置:** 後で検索できるように、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文を使用して、すべてのコンテキストを保存してください。

**SQL-02124 EXEC TOOLS 文から NULL 値が戻されました。**

**原因:** EXEC TOOLS から、標識変数が指定されていないホスト変数に対して NULL 値が戻されました。このエラーが戻されるのは、MODE=ANSI の場合のみです。MODE=ORACLE のときには、ホスト変数の値が予測不能であっても、エラーは生成されません。

**処置:** NULL を戻す可能性のあるホスト変数と標識変数を関連付けてください。

**SQL-02125 接続エラーでメッセージを取り出せません。**

**原因:** 接続ができませんでした (デフォルト・ホストにも)。その結果、SQLLIB は、発生した Oracle エラーのメッセージ・テキストを読み取れませんでした。ただし、SQLLIB は、メッセージを調べるために使用できる Oracle エラー番号を戻します。

**処置:** このマニュアルで該当するメッセージを調べて、その原因と解決方法を参照してください。

**SQL-02126 配列要素の数は 0 以上でなければなりません。**

**原因:** プリコンパイラによって SQLDA (動的 SQL メソッド 4 で使用する SQL 記述子領域) の N 変数または F 変数変数の配列変数に負数が検出されました。DESCRIBE 文を実行する前に、N を記述配列の次元に設定してください。DESCRIBE 文の実行後、F 変数に格納されている、DESCRIBE された変数の実際の数に N を再設定してください。

**処置:** N または F 変数が負以外の値に設定されているかどうかを確認してください。

**SQL-02127 プリコンパイラと SQLLIB のバージョンが一致しません。**

**原因:** プログラムが、SQLLIB 旧バージョンにリンクされており、Oracle プリコンパイラのこのリリースとの互換性がありません。

**処置:** プログラムを SQLLIB の新しいバージョンに再リンクしてください。

---

**SQL-02128 セッションがまだ存在します。ログオフしません。**

**原因:** XA が依然としてセッションをそのホストと対応付けているため、SQLLIB からホストが削除（「ログオフ」）されませんでした。

**処置:** SQLXDH をコールしてホストを削除する前に、XA がそのホストのすべてのセッションを削除するか、または "doit\_anyway" フラグを設定してください。

**SQL-02129 取出されたバイト数が奇数です。**

**原因:** プログラムが、無効な列値をマルチバイト NLS ホスト変数に FETCH しようとしてしました。具体的には、有効な 2 バイト・データがその列に含まれていませんでした。

**処置:** 列がダブルバイトのデータのみを含むようにしてください。これを確認するには、SQL\*Plus または Server Manager を使用してください。

**SQL-02130 EXEC TOOLS インタフェースが使用できません。**

**原因:** EXEC TOOLS インタフェースをサポートしていない Oracle Tool のバージョンにリンクしようとしてしました。EXEC TOOLS interface.

**処置:** Oracle Tool をアップグレードするか、または EXEC IAF インタフェースを使用してください。

**SQL-02131 ランタイム・コンテキストは使用中です。**

**原因:** アプリケーションが、すでに使用中のランタイム・コンテキストを使用して、SQL 文を実行しようとしてしました。

**処置:** 同一のランタイム・コンテキストで 1 つのスレッドが完了するのを待ってから別の SQL 文を実行するようにするか、または各スレッドごとに別々のランタイム・コンテキストを割り当て使用するように、アプリケーションを訂正してください。

**SQL-02132 実行時コンテキスト : sdfla asdjklfajs jfja ajsdf を割り当てできません。**

**原因:** ランタイム・コンテキストを割り当てようとしてしましたが、できませんでした。

**処置:** このエラーは通常、プロセス・メモリーのサイズが小さいときに発生します。より多くのメモリーを割り当て、再度アプリケーションを実行してください。

**SQL-02133 スレッドで使用するプロセスを初期化できません。**

**原因:** 内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。

**SQL-02134 ランタイムのコンテキストが無効です。**

**原因:** この文に関連するランタイム・コンテキストが適切に割り当てられていません。

**処置:** SQL 文を実行する前に、EXEC SQL CONTEXT ALLOCATE 文を実行するようアプリケーションを訂正してください。

---

**SQL-02135 与えられたマスクでは日付書式を初期化できません。**

**原因：**ランタイム・ライブラリは与えられた日付書式マスクで日付書式設定文を発行できませんでした。

**処置：**日付書式の妥当性を検査し、必要に応じて修正してください。詳細はORA エラー番号で調べてください。

**SQL-02136 NCHAR キャラクタ・セット ID が無効です。**

**原因：**NCHAR ホスト変数をバインドまたは定義しようとしたが、NLS\_NCHAR 変数が正しく設定されていませんでした。

**処置：**NLS\_NCHAR 環境変数を有効な固定幅キャラクタ・セット ID に設定し、再度アプリケーションを実行してください。

**SQL-02137 RETURNING 句のないマルチスレッド・エージェントがあります。**

**原因：**EXEC SQL REGISTER CONNECT 文は RETURNING 句を含みません。またエージェントはスレッド・モードで実行しています。

**処置：**宣言された SQL\_CONTEXT ホスト変数を参照する RETURNING 句を使用した文へ修正してください。

**SQL-02138 外部プロシージャのコンテキストが存在しません。**

**原因：**EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に渡された外部プロシージャ・コンテキストが有効ではありません。

**処置：**次のことを行ったかどうか確認してください。

1. CONTEXT パラメータで PL/SQL プロシージャおよびファンクションを作成した。
2. 外部プロシージャの仮パラメータ・リストに OCIEExtProcContext が含まれている。
3. OCIEExtProcContext が EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に正しく渡された。

**SQL-02139 OCI ハンドルを取得できません。**

**原因：**OCIEExtProcGetEnv へのコールが失敗しました。

**処置：**外部プロシージャが CONTEXT パラメータで作成された OCIEExtProcContext を確認し、このコンテキストが EXEC SQL REGISTER CONNECT 文で正しく参照されていることを確認してください。

**SQL-02140 名前のない接続がすでに存在します。**

**原因：**実行時コンテキストに名前のない接続がすでに存在するときに、外部プロシージャ・コンテキストを登録しようとした。

---

**処置:** 外部プロシージャから EXEC SQL CONNECT 文で、接続を設定しないでください。

**SQL-02141 収集記述子が割当てられていません。**

**原因:** 割当てられていないコレクション記述子を COLLECTION SET 文または COLLECTION GET 文で参照しました。

**処置:** EXEC SQL ALLOCATE 文でコレクション記述子を割り当ててください (たとえば、EXEC SQL ALLOCATE :coldesc\_p; など)。

**SQL-02142 収集が NULL です。**

**原因:** EXEC SQL COLLECTION 文で参照されるコレクションが NULL です。

**処置:** EXEC SQL COLLECTION 文を実行する前に、関連付けられた標識変数の状態を調べてください。

**SQL-02143 ターゲット・オブジェクトが適切に割当てられていません。**

**原因:** コレクションから、割り当てられていないオブジェクト・ポインタに、要素を取り出そうとしました。

**処置:** EXEC SQL ALLOCATE 文でオブジェクト・ポインタを割り当ててください。

**SQL-02144 ANSI Dynamic の使用方法が無効です。**

**原因:** 動的オプションを設定していないときに、ANSI の割当て記述子文、割当て解除記述子文、取得記述子文または設定記述子文が検出されました。

**処置:** オプション DYNAMIC=ANSI でソースをプリコンパイルしてください。

**SQL-02145 Dynamic 記述子が無効です。**

**原因:** 割り当てられていないまたは無効な記述子へアクセスしようとしてしました。

**処置:** ANSI 記述子用に、記述子名が有効であることおよび記述子が割り当てられており、以前に割り当て解除されていないことを確認してください。または MODE=ANSI で Oracle 記述子 (SQLDA) を使用する場合は、DYNAMIC=ORACLE も使用してください。

**SQL-02146 既存の記述子を割当てようとしてしました。**

**原因:** 以前割当てられていた記述子を割当てようとしてしました。

**処置:** 一意の記述子名を使用するかまたは記述子を再割当てしようとする前に、その記述子の割当てを解除してください。

---

**SQL-02147 ANSI Dynamic のオカレンス値が範囲外です。**

**原因：**動的 GET 文または動的 SET 文の句の値が、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値よりも大きくなっています。

**処置：**記述子が割り当てられたとき、VALUE 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

**SQL-02148 ANSI Dynamic のカウント値が範囲外です。**

**原因：**動的 GET 文または動的 SET 文のカウントが、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値よりも大きくなっています。

**処置：**記述子が割り当てられたとき、COUNT 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

**SQL-02149 ANSI Dynamic で項目記述子の領域が不足しています。**

**原因：**記述されている SQL 文に、記述子への割当てよりも多くの出力項目（または列）が含まれています。

**処置：**記述子を割り当てるとき、オカレンスの最大値を増やしてください。

**SQL-02150 ANSI Dynamic SET 文の長さが 0（ゼロ）です。**

**原因：**ANSI Dynamic 文に、無効な長さ 0 が検出されました。

**処置：**0 ではない長さを設定してください。

**SQL-02151 絶対数値の SET 文項目に対するホスト変数が無効です。**

**原因：**無効な型または長さのホスト変数を使用して、ANSI Dynamic 文で絶対数値項目を取得または設定しました。

**処置：**ホスト変数が C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S9(9) binary/comp/display SIGN LEADING SEPARATE であることを確認してください。

**SQL-02152 配列の GET/SET 文で使用する数値変数が無効です。**

**原因：**C の INT か SHORT、S9(4) か S9(9) バイナリまたは comp 以外の型のホスト変数が絶対数値に対して配列サイズ > 1 で使用されました。

**処置：**配列を示すために、for 句で論理積の絶対数値を指定する場合、C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S(9) バイナリの comp のみを使用してください。特に、このコンテキストでは display Sign Leading Separate は使用できません。

---

**SQL-02153 GET/SET 文で使用する文字変数が無効です。**

**原因：**ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）項目名として、CHARACTER、STRING または VARCHAR 以外の型のホスト変数が検出されました。

**処置：**ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）文字項目のホスト変数型に LONG または LONG VARCHAR 型を指定しないでください。ホスト変数を CHARACTER、STRING または VARCHAR に再宣言してください。

**SQL-02154 ANSI Dynamic にあるホスト変数用のデータ型が無効または未設定です。**

**原因：**以前に設定された有効な型のない、項目名 DATA の ANSI Dynamic SET 文が検出され、オプション MODE=ANSI が使用されました。

**処置：**MODE=ANSI で、DATA を設定する前に型を設定する必要があります。正しい項目型の SET 文または出力用に DESCRIBE を発行して、項目型を設定してください。あるいは、バインドまたは定義したホスト変数に対してデフォルトとして型が設定される mode=oracle を使用してください。

**SQL-02155 日付時間間隔は Dynamic=ANSI だけで有効です。**

**原因：**TYPE\_CODE オプションが ANSI に設定されていないときに、日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスしようとしてしました。

**処置：**日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスするには、プリコンパイラ・オプション TYPE\_CODE=ANSI を使用してください。

**SQL-02156 標識の型または戻り値の長さが無効です。**

**原因：**項目標識または戻り値の長さに関連付けられたホスト変数は、SHORT 型または S9(4)COMP である必要があります。値構文およびスカラーの場合、display Sign Leading Separate ホスト変数に取得されます。

**処置：**標識、ref 標識の符号付き short、および C の ref 戻り値の長さのホスト変数を使用してください。COBOL の場合は、s9(4) comp を使用してください。GET には配列以外であれば、display Sign Leading Separate ホスト変数を使用できる可能性があります。



# 第 II 部

---

## オプション・メッセージ

第 II 部には、次の章があります。

- [interMedia Audio メッセージ \(AUD\)](#)
- [interMedia Image メッセージ \(IMG\)](#)
- [interMedia Video メッセージ \(VID\)](#)
- [interMedia Text Messages \(DRG\)](#)
- [Time Series メッセージ \(TS\)](#)
- [空間データ・オプション・メッセージ \(SDO\)](#)
- [Visual Information Retrieval メッセージ \(VIR\)](#)



---

## *interMedia Audio* メッセージ (AUD)

*interMedia Audio* オプションについては、『Oracle8i *interMedia Audio, Image, and Video* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**AUD-00001 Audio Cartridge 環境を初期化できませんでした。**

**原因:** オーディオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00511 *string***

**原因:** オーディオ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00599 内部エラーが発生しました。**

**原因:** 内部エラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00601 オーディオのコピー中にメモリー不足が発生しました。**

**原因:** オーディオのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

**処置:** データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

**AUD-00602 オーディオ・データにアクセスできません。**

**原因:** オーディオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

**処置:** システム管理者に連絡してください。

---

**AUD-00603 オーディオ・データのソースにアクセスできません。**

**原因：**SOURCE 属性が無効です。

**処置：**確実にソースの SOURCE 属性をオーディオ・データとともに移入してください。

**AUD-00604 オーディオ・データの宛先にアクセスできません。**

**原因：**宛先の SOURCE 属性が無効です。

**処置：**宛先ソースの SOURCE 属性を有効にしてください。

**AUD-00606 オーディオ・データにアクセスできません。**

**原因：**無効なオーディオにアクセスしようとしてしました。

**処置：**オーディオの SOURCE 属性をオーディオ・データとともに移入してください。

**AUD-00607 オーディオの宛先に書き込みできません。**

**原因：**宛先オーディオの SOURCE 属性が無効です。

**処置：**宛先オーディオの SOURCE 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域とともに移入してください。

**AUD-00702 オーディオ処理環境の初期化ができません。**

**原因：**オーディオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00703 オーディオ・データの読み込みができません。**

**原因：**ソースにオーディオ・データがありません。

**処置：**オーディオ・データの移入方法は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**AUD-00704 オーディオ・データの読み込みができません。**

**原因：**ソースにオーディオ・データがありません。

**処置：**オーディオ・データの移入方法は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**AUD-00705 入力形式がサポートされていないか壊れています。**

**原因：**これは内部エラーです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**AUD-00706 出力形式がサポートされていないか壊れています。**

**原因：**これは内部エラーです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00707 オーディオ・データへアクセスできません。**

**原因：**オーディオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

**処置：**システム管理者に連絡してください。

**AUD-00710 オーディオの宛先に書き込みできません。**

**原因：**オーディオの宛先が無効です。

**処置：**オーディオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

**AUD-00711 オーディオの宛先のプロパティを設定できません。**

**原因：**これは内部エラーです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00712 オーディオの宛先に書き込みできません。**

**原因：**オーディオの宛先が無効です。

**処置：**オーディオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

**AUD-00713 オーディオ宛先のフォーマットがサポートされていません。**

**原因：**サポートされていない形式にオーディオを変換する要求になっています。

**処置：**サポートされる形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**AUD-00714 内部エラーが発生しました。**

**原因：**これは内部エラーです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**AUD-00715 現在のソースに格納されているオーディオのオープンに失敗しました。**

**原因：**ソース・オブジェクトに格納されているオーディオを読み取るためにオープンできません。

**処置：**オーディオ・ソースのアクセス権限が、コール者に正しく定義されていることを確認してください。



---

## *interMedia* Image メッセージ (IMG)

*interMedia* Image オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00001 Oracle8i *interMedia* 環境を初期化できません。**

**原因:** イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00502 位取りの値が無効です。**

**原因:** イメージ・プロセス機能用のパラメータ解析中に無効な位取りの値が検出されました。

**処置:** 有効な位取りの値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての構文の詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00505 CUT 四角形を指定する値の数が足りません。**

**原因:** 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

**処置:** 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

**IMG-00506 CUT 四角形を指定する値の数が余分にあります。**

**原因:** 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

**処置:** 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

**IMG-00510 *string***

**原因:** イメージ・プロセス機能用のパラメータ解析中に構文エラーが検出されました。

---

**処置:** 有効なパラメータ値を使って、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての構文の詳細は、『*Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイド*および*リファレンス*』を参照してください。

**IMG-00511 *string***

**原因:** イメージ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00512 適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。**

**原因:** イメージ・プロセス・コマンド文字列に、適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。プロセス・コマンド文字列で利用できる XSCALE および YSCALE を除き、スケール関数は相互に排他的であり、結合できません。

**処置:** スケール関数を削除して 1 つのみにしてください (XSCALE および YSCALE の場合は 2 つ)。

**IMG-00513 スケール変更操作で値が欠落しています。**

**原因:** イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに 2 つの整数値が必要です。

**処置:** FixedScale および MaxScale に 2 つの値を使用してください。

**IMG-00514 スケール変更操作で余分な値があります。**

**原因:** イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに 2 つの整数値が必要です。

**処置:** FixedScale および MaxScale に 2 つの値を使用してください。

**IMG-00515 入力チャンネル数が正しくありません。**

**原因:** 入力チャンネルの指定に、不正な値を使用しています。入力チャンネルには、灰色または赤、緑および青のチャンネル割当てに対して、1 つまたは 3 つのチャンネル番号が必要です。

**処置:** 1 つまたは 3 つの値を使用して、入力チャンネルを指定してください。

**IMG-00516 デフォルトのチャンネルが範囲外です。**

**原因:** デフォルトのチャンネル選択の指定に、不正な値を使用しています。

**処置:** バンド数以下で 0 を超えるチャンネル数を使用してください。



---

**IMG-00517 パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。**

**原因：** `setProperty` パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。

**処置：** 高さおよび幅の両方を指定してください。

**IMG-00518 高さまたは幅の値が無効です。**

**原因：** 高さまたは幅は正の整数である必要があります。

**処置：** 高さおよび幅の両方を正の整数として指定してください。

**IMG-00519 パラメータの組合わせが無効です。**

**原因：** CCITTG3 または CCITTG4 が `compressionFormat` として使用されている場合、`setProperty` パラメータ文字列に、高さ、幅、データ・オフセットおよび `userString` 以外のパラメータを指定できません。

**処置：** `compressionFormat` が CCITTG3 または CCITTG4 のいずれかである場合、高さおよび幅のみを指定してください。データ・オフセットおよび `userString` もオプションで指定できます。

**IMG-00520 invalid value for numberOfBands**

**原因：** `numberOfBands` の値は、正の整数である必要があります。

**処置：** `numberOfBands` を正の整数として指定してください。

**IMG-00521 invalid value for dataOffset**

**原因：** データ・オフセットの値は、正の整数である必要があります。

**処置：** データ・オフセットを正の整数として指定してください。

**IMG-00530 コマンドの解析中にエラーが発生しました。**

**原因：** イメージ処理関数または外部イメージ `SETPROPERTIES` 関数に渡されたコマンドの解析中に、内部エラーが発生しました。

**処置：** 関数に渡されたコマンドを確認してください。

正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列または外部イメージ `SETPROPERTIES` 関数についての構文の詳細は、『*Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイド*および*リファレンス*』を参照してください。

使用しているコマンドが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00531 イメージ処理コマンドが空または NULL です。**

**原因：** 空または NULL のイメージ処理コマンドが、イメージ・プロセス機能に渡されました。

---

**処置:** 正しい使用方法およびイメージ処理コマンド文字列についての詳細は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00599 内部エラー**

**原因:** 内部エラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00601 イメージのコピー中にメモリー不足になりました。**

**原因:** イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

**処置:** データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

**IMG-00602 イメージ・データにアクセスできません。**

**原因:** イメージ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

**処置:** システム管理者に連絡してください。

**IMG-00603 ソースのイメージ・データにアクセスできません。**

**原因:** ソース・イメージの SOURCE 属性が無効です。

**処置:** ソース・イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

**IMG-00604 宛先のイメージ・データにアクセスできません。**

**原因:** 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

**処置:** 宛先イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

**IMG-00606 イメージ・データにアクセスできません。**

**原因:** 無効なイメージにアクセスしようとしてしました。

**処置:** イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

**IMG-00607 宛先イメージへの書き込みができません。**

**原因:** 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

**処置:** 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

---

**IMG-00609 BFILE に格納されているイメージの読み込みができません。**

**原因:** BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

**処置:** イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルのあるディレクトリに読み込みアクセス許可があるかどうかを確認してください。

**IMG-00701 空のイメージのプロパティは設定できません。**

**原因:** イメージ・オブジェクトにデータがありません。

**処置:** イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00702 イメージ処理環境を初期化できません。**

**原因:** イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00703 イメージ・データの読み込みができません。**

**原因:** イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

**処置:** イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00704 イメージ・データの読み込みができません。**

**原因:** イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

**処置:** イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00705 サポートされていないか、または破損している入力形式です。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00706 サポートされていないか、または破損している出力形式です。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00707 イメージ・データにアクセスできません。**

**原因:** イメージ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

**処置:** システム管理者に連絡してください。

**IMG-00710 宛先イメージへの書き込みができません。**

**原因:** 宛先イメージが無効です。

---

**処置:** 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

**IMG-00711 宛先イメージのプロパティを設定できません。**

**原因:** これは、内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00712 宛先イメージへの書込みができません。**

**原因:** 宛先イメージが無効です。

**処置:** 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。宛先イメージを含む行がロックされていることを確認してください (一時 BLOB には適用されません)。

**IMG-00713 サポートされていない宛先イメージ・フォーマットです。**

**原因:** サポートされていない形式にイメージを変換する要求になっています。

**処置:** サポートされる形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00714 内部エラー**

**原因:** これは、内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**IMG-00715 BFILE に格納されているイメージをオープンできません。**

**原因:** BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

**処置:** イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルがあるディレクトリに読み込み許可があるかどうかを確認してください。

**IMG-00716 ソースのイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。**

**原因:** ソースのイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

**処置:** サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00717 宛先のイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。**

**原因:** 宛先のイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

---

**処置:** サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**IMG-00718 同じ一時 LOB をソースと宛先両方に使用することはできません。**

**原因:** ソースおよび宛先の両方に指定されている同じ一時 LOB で processCopy にコールされました。

**処置:** パラメータの宛先に異なる LOB を指定してください。



---

## *interMedia Video* メッセージ (VID)

*interMedia Video* オプションについては、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**VID-00001 Video Cartridge 環境の初期化に失敗しました。**

原因: ビデオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00511 *string***

原因: ビデオ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00599 内部エラーが発生しました。**

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00601 ビデオのコピー中にメモリー不足が発生しました。**

原因: ビデオのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

**VID-00602 ビデオ・データへアクセスできません。**

原因: ビデオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

---

**VID-00603 ビデオ・データのソースへアクセスできません。**

**原因：**ソース属性が無効です。

**処置：**ソースの SOURCE 属性をビデオ・データとともに移入してください。

**VID-00604 ビデオ・データの宛先へアクセスできません。**

**原因：**宛先ソースの SOURCE 属性が無効です。

**処置：**宛先ソースの SOURCE 属性が有効であることを確認してください。

**VID-00606 イメージ・データにアクセスできません。**

**原因：**無効なイメージにアクセスしようとしてしました。

**処置：**イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

**VID-00607 イメージの宛先へ書込みできません。**

**原因：**宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

**処置：**宛先イメージの SOURCE 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域とともに移入してください。

**VID-00702 ビデオ処理環境の初期化に失敗しました。**

**原因：**ビデオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00703 ビデオ・データの読み込みができません。**

**原因：**ソースにビデオ・データがありません。

**処置：**ビデオ・データの移入方法は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**VID-00704 ビデオ・データの読み込みができません。**

**原因：**ソースにビデオ・データがありません。

**処置：**ビデオ・データの移入方法は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**VID-00705 入力形式がサポートされていないか壊れています。**

**原因：**これは、内部エラーです。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

**VID-00706 出力形式がサポートされていないか壊れています。**

原因：これは、内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00707 ビデオ・データへアクセスできません。**

原因：ビデオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置：システム管理者に連絡してください。

**VID-00710 ビデオの宛先へ書き込みができません。**

原因：ビデオの宛先が無効です。

処置：ビデオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

**VID-00711 ビデオの宛先のプロパティを設定できません。**

原因：これは、内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00712 ビデオの宛先へ書き込みができません。**

原因：ビデオの宛先が無効です。

処置：ビデオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

**VID-00713 ビデオ宛先の形式がサポートされていません。**

原因：サポートされていない形式にビデオを変換する要求になっています。

処置：サポートされる形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, and Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**VID-00714 内部エラーが発生しました。**

原因：これは、内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VID-00715 現在のソースに格納されているビデオをオープンできません。**

原因：ソース・オブジェクトに格納されているビデオを、読み取るためにオープンできません。

処置：ビデオ・ソースのアクセス権限が、コール者に正しく定義されていることを確認してください。



---

## *interMedia* Text Messages (DRG)

*interMedia* ConText については、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle8i *interMedia* Text リファレンス』
- 『Oracle8i ConText Cartridge Developer's Guide』
- 『Oracle8i *interMedia* Text 移行ガイド』

**DRG-10000 *string.string* の読み込みに失敗しました。**

原因：指定されたテキストの列の読み込み中にエラーが発生しました。

処置：列の存在と権限を確認してください。

**DRG-10001 結果表：*string* にアクセスできません。**

原因：指定した表は存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

処置：指定された結果表を確認してください。

**DRG-10002 結果表に挿入できません。**

原因：テキスト・サーバーに挿入権限がないか、表領域がなくなりました。

処置：権限および表領域を確認してください。

**DRG-10011 オブジェクト名：*string* が無効です。**

原因：指定された表、列、またはプロシージャ名の形式が無効です。名前が長すぎるか、無効な文字が含まれています。無効なパラメータを渡した可能性があります。

処置：パラメータ値を確認してください。

**DRG-10015 ID が数値の制限 (2147483642) を超えています。**

原因：ID は 2147483642 バイト以下にしてください。

---

処置: ID には、214748364 以下の値を使用してください。

**DRA-10016 この *string* の変更は、所有者に限定されます。**

原因: 所有していないオブジェクトを修正しようとしてしました。

処置: 所有者にオブジェクトを修正してもらってください。

**DRG-10100 無効な引数: *string* が見つかりました。**

原因: 無効なコマンド引数が指定されました。

処置: 正しい引数をマニュアルで調べて、コマンドを再実行してください。

**DRG-10101 引数: *string* の値がありません。**

原因: この引数には値が必要です。

処置: 正しい引数値を指定して、コマンドを再実行してください。

**DRG-10102 必須の引数: *string* が足りません。**

原因: この引数は必須です。

処置: 引数を指定して、コマンドを再実行してください。

**DRG-10103 引数の値が無効です: *string***

原因: この引数に無効な値が渡されています。

処置: この引数の正しい値を、ドキュメンテーションで調べてください。

**DRG-10200 サーバー・パーソナリティ・マスク: *string* は無効です。**

原因: サーバー・パーソナリティ・マスクの指定が無効です。

処置: マニュアルを参照して、正しいマスクを指定してください。

**DRG-10202 サーバーは登録に失敗しました。**

原因: データ・ディクショナリへのサーバーの登録に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

**DRG-10203 サーバー名: *string* のサーバーは存在しません。**

原因: 存在しないサーバー名で更新が行われました。

処置: サーバー名を訂正してください。

**DRG-10204 サーバーの更新に失敗しました。**

原因: サーバーの更新に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

---

**DRG-10205 サーバーの登録解除に失敗しました。**

**原因:** データ・ディクショナリからのサーバーの削除に失敗しました。

**処置:** スタック上の次のエラーを見てください。

**DRG-10206 サーバーまたはクライアントの回復に失敗しました。**

**原因:** 失敗したサーバーまたはクライアントの回復を試みました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-10301 サーバーからの応答待機中にタイム・アウトしました。**

**原因:** 現在のシステム・ロードを処理するには実行しているサーバーが十分でないか、コマンドの未処理分が大きくなったか、あるいはサーバーが実行されていません。このメッセージは、要求を処理しようとしてサーバーの1つがクラッシュした場合にも、内部エラーとして表示されます。

**処置:** 実行しているサーバー数が十分かどうか、正しい型のコマンドを処理しているかどうかを確認してください。たとえば、すべてのサーバーが問合せコマンドを排他的に処理するように設定されていると、DDL コマンドはタイムアウトになります。サーバーのログ・ファイルも確認してください。

**DRG-10302 サーバーからの応答待機中に中断されました。**

**原因:** 要求が完了する前に、ユーザーが割り込みました。

**処置:** 要求を再起動してください。

**DRG-10303 処理すべきコマンドをキューに入れられませんでした。**

**原因:** 指定されたコマンド（複数の場合もある）が、キューに入りませんでした。これは、システムの負荷がかなり高くなっていることを表しますが、内部エラーが発生している可能性があります。

**処置:** コマンドを処理するサーバーが実行されているかどうかをチェックしてください。

**DRG-10304 ConText サーバーにコマンドを送信中に予期せぬエラーが発生しました。**

**原因:** ConText サーバーにコマンドを送信中に予期せぬエラーが発生しました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-10305 パイプ: *string* が満杯です。**

**原因:** パイプが満杯のため、パイプ・コマンドが送信できません。

**処置:** パイプ・コマンドを処理する ConText サーバーが実行されているかどうかを確認してください。

**DRG-10306: サーバーはコマンド処理中に予期せず終了しました。**

**原因:** コマンドの実行中にサーバーがシャットダウンしました。これは、SHOTDOWN ABORT の実行サーバーの内部エラーが原因です。

---

**処置:** 終了したサーバーで内部エラーが発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-10307 サーバーが稼動していません。**

**原因:** 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーがないため、コマンドが処理できません。

**処置:** 正しいパーソナリティ・マスクで ConText サーバーを開始してください。

**DRG-10308 必須の *string* パーソナリティ・マスクで稼動しているサーバーはありません。**

**原因:** 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーがないため、コマンドが処理できません。

**処置:** 正しいパーソナリティ・マスクで ConText サーバーを開始してください。

**DRG-10309 稼働中のコンテキスト・サーバーはありません。**

**原因:** 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている ConText サーバーがないため、コマンドが処理できません。

**処置:** ConText サーバーを開始してください。

**DRG-10310 要求を処理する前にサーバーが停止されました。**

**原因:** 要求を処理する前に、ConText サーバーがシャットダウンしたか、終了したため、コマンドが完了できませんでした。

**処置:** 正しいパーソナリティ・マスクで別の ConText サーバーを開始してください。

**DRG-10311 リモート送信はサポートされていません。**

**原因:** 索引指定でデータベース・リンクを指定しようとした。

**処置:** ローカルな索引名のみ指定してください。

**DRG-10312 ログ・ファイル名を指定する必要があります。**

**原因:** ログ・ファイル名なしでロギングを開始しようとした。

**処置:** ログ・ファイル名を指定してください。

**DRG-10313 ロギングはすでに開始されています。**

**原因:** ロギングがすでに開始されているのに、ロギングを開始しようとした。

**処置:** ロギングを停止するか、このメッセージを無視してください。

---

**DRG-10314 ログインは開始されていません。**

**原因:** ログインが開始されていないのに、ログインを停止しようとしてしました。

**処置:** ログインを開始するか、このメッセージを無視してください。

**DRG-10500 CREATE\_INDEX に失敗しました: 列指定: *string***

**原因:** 指定された列にテキスト索引が作成できませんでした。

**処置:** スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-10501 ストップ・ワード: *string* は無効です。**

**原因:** 指定されたストップ・ワードは、現行のレクサー・プリファレンスで複数のトークンへ lex されました。

**処置:** レクサー・プリファレンスを確認し、ストップ・ワードを再指定してください。

**DRG-10502 索引: *string* は存在しません。**

**原因:** 指定された索引が存在しないか、アクセス権がありません。

**処置:** 索引の名前と索引へのアクセス権を調べてください。

**DRG-10503 主キーがないため、表: *string* の索引を作成できません。**

**原因:** テキスト・キーには、単一の列一意キーが必要です。このキーの長さは、64 バイト以下でなければなりませんが、このようなキーが UNIQUE 索引として定義されていないか、主キーまたは UNIQUE キー制約として宣言されていません。

**処置:** 表に適切なテキスト・キーを作成するか、このプロシージャ・コールにテキスト・キーを明示的に指定してください。

**DRG-10504 作業環境の仕様が欠落しています。**

**原因:** プリファレンス指定が形式文字列パラメータに必要です。

**処置:** プリファレンスおよびプリファレンス名を指定してください。

**DRG-10505 メモリー・サイズの値が欠落しています。**

**原因:** MEMORY キーワードに値が指定されていません。

**処置:** メモリ・サイズ値を指定してください。

**DRG-10506 表: *string* が存在しません。**

**原因:** 指定した表、ビュー、シノニムがありません。表の読み込み中に、権限問題が発生した可能性もあります。

**処置:** 正しい表名を指定して再起動してください。

---

**DRG-10507 索引名: *string* は重複しています。**

**原因:** 指定された索引は、すでにディクショナリ内に存在します。

**処置:** この索引は、更新または削除できますが、これは、テキスト列に使用可能なテキスト索引がない場合のみ実行できます。

**DRG-10509 *string* は無効なテキスト列です。**

**原因:** 指定された列が無効です。

**処置:** 次の値が有効かどうかを確認してください。

- ConText でサポートされているデータ型のテキスト列
- 仕様部内の有効な表名、列名

**DRG-10510 ストップ・ワードが欠落しています。**

**原因:** 追加するストップ・ワードが指定されていません。

**処置:** ストップ・ワードを指定してください。

**DRG-10511 索引: *string* は存在しないか、または不完全です。**

**原因:** 索引の作成が不完全です。

**処置:** 索引を作成してから、この操作を行ってください。

**DRG-10512 STOPWORD キーワードがありません。**

**原因:** キーワード STOPWORD が不足しています。

**処置:** STOPWORD が含まれたパラメータ文字列を再指定してください。

**DRG-10513 索引: *string* メタデータが壊れています。**

**原因:** ディクショナリ内に、この索引に対して無効なプリファレンスがあります。

**処置:** データベース管理者に連絡してください。

**DRG-10516 Oracle エラーが発生したため、DDL 操作の実行に失敗しました。**

**原因:** Oracle エラーのため、要求された DDL 操作が失敗しました。

**処置:** スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**DRG-10517 索引: *string* はすでに有効です。**

**原因:** 索引は有効な状態で、要求した操作を必要としていません。

**処置:** 要求した操作を確認してください。



---

**DRG-10518 *string* 要求と矛盾する操作が進行中です。**

原因：別のセッションでこの索引が使用されています。次のような原因が考えられます。

- DML が要求され、DDL が処理中です。
- DDL が要求され、その索引で DML が処理中です。

処置：後でもう一度実行してください。

**DRG-10520 コンテキスト索引：*string* の削除に失敗しました。**

原因：指定された索引でコンテキスト索引が削除できませんでした。

処置：スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**DRG-10522 複数のストップ・ワードが指定されています。**

原因：複数のストップ・ワードを追加しようとしてしました。

処置：一度に1つのストップ・ワードを指定してください。

**DRG-10525 REBUILD キーワードがありません。**

原因：コンテキスト索引の変更オプションはすべて、REBUILD キーワードが必要です。

処置：索引変更を REBUILD キーワードと共に指定してください。

**DRG-10528 主キーに *string* 型は使用できません。**

原因：無効な主キーのデータ型で表に索引を作成しようとしてしました。

処置：テキスト・キーを VARCHAR2、NUMBER、VARCHAR、DATE、CHAR または MLSLABEL のいずれかに変更してください。

**DRG-10531 パラレル・パラメータは1以上でなければなりません。**

原因：パラレル =0 で索引の作成がコールされました。

処置：1以上の値を指定してください。

**DRG-10533 ユーザー名：*string* は無効です。**

原因：無効なユーザー名が指定されました。

処置：正しいユーザー名を指定してください。

**DRG-10535 テキスト索引：*string* の最適化に失敗しました。**

原因：Oracle エラーのため、要求された最適化操作が失敗しました。

処置：スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

---

**DRG-10549 オブジェクト名: *string* の長さが制限を超えています。**

**原因:** オブジェクト名が 30 文字の最大長を超えています。

**処置:** オブジェクト名を再作成する場合には、オブジェクト名の長さを短くしてください。

**DRG-10550 索引、作業環境、ソースまたはセクション名の構文に誤りがあります。**

**原因:** 名前に余分なピリオド (.) が含まれています。

**処置:** 名前の構文を調べてください。

**DRG-10553 列指定: *string* の構文に誤りがあります。**

**原因:** 列指定に余分なピリオド (.) が含まれています。

**処置:** 再作成する場合には、列指定の構文を確認してください。

**DRG-10556 無効な索引最適化モード: *string* が指定されました。**

**原因:** 指定されたオプションはサポートされていません。サポートされているモードは、次のとおりです。

1. FAST または断片化
2. FULL または Garbage Collection

**処置:** 上記のいずれかのオプションを指定してください。

**DRG-10557 FAST 最適化オプション: *string* が無効です。**

**原因:** FAST 最適化にはオプションは使用できません。

**処置:** オプションを付けずに FAST 最適化を指定してください。

**DRG-10558 索引最適化モードが欠落しています。**

**原因:** 最適化モード FAST または FULL を指定せずに最適化が要求されました。

**処置:** いずれかの最適化モードを指定してください。

**ORA-10560: FULL 最適化のための MAXTIME 値が欠落しているか、または無効です。**

**原因:** 完全な最適化には有効な MAXTIME 値が必要です。

**処置:** MAXTIME に分を指定してください。

**DRG-10561 索引: *string* は要求した操作を実行できる状態ではありません。**

**原因:** 以前のエラーによって、索引は有効な状態ではありません。

**処置:** 索引を削除して、索引を再作成してください。

**DRG-10562 索引変更パラメータが足りません。**

**原因:** パラメータ文字列が不足しています。

---

**処置:** 要求した索引の変更操作に関して正しいパラメータ文字列を入力してください。

**DRG-10568 FULL 最適化オプション: *string* が無効です。**

**原因:** 無効な FULL 最適化オプションが指定されています。

**処置:** MAXTIME などの有効な完全最適化オプション指定してください。

**DRG-10569 表または列: *string* が存在しません。**

**原因:** 指定された表、ビュー、シノニムまたは列が存在しません。表の読み込み中に、権限問題が発生した可能性もあります。

**処置:** 正しい表名または列名を指定して再起動してください。

**DRG-10573 索引: *string* は旧式です。**

**原因:** 廃止された索引が指定されています。

**処置:** 索引に対して UPGRADE\_INDEX を実行してください。

**DRG-10574 テキスト索引: *string* のアップグレードに失敗しました。**

**原因:** Oracle エラーのため、アップグレード操作に失敗しました。

**処置:** スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**DRG-10579 テキスト問合せ基準が必要です。**

**原因:** テキスト問合せ基準は必須です。

**処置:** テキスト問合せ基準を指定してください。

**DRG-10580 パラレルの索引作成はサポートされていません: *string***

**原因:** パラレル・サーバーで索引を作成しようとしてしました。

**処置:** 索引を削除して、索引作成のパラレルを 1 に設定してください。

**DRG-10581 間接データストアは、LONG または LOB のテキスト列では使用できません。**

**原因:** LONG または LOB 列に、ファイルや URL データストアなどの間接データストアを使用して索引を作成しようとしてしました。

**処置:** 直接データストアまたは VARCHAR 列を使用してください。

**DRG-10582 列: *string* が表: *string* がありません。**

**原因:** 無効な列が指定されています。

**処置:** 有効な列を指定してください。

---

**DRG-10583 TRUNCATE INDEX に失敗しました : *string***

**原因:** 指定された索引でコンテキスト索引が切り捨てできませんでした。

**処置:** スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-10584 Oracle エラーのため *string string string* は失敗しました。**

**原因:** SQL エラーのため、索引オブジェクトの DDL 操作が失敗しました。

**処置:** 同時に出力されるメッセージを参照してください。

**DRG-10592 索引作成パラメータの文字列: *string* が正しくありません。**

**原因:** 指定されたパラメータが正しくありません。

**処置:** 索引を削除して、正しいパラメータを再作成してください。

**DRG-10595 ALTER INDEX: *string* に失敗しました。**

**原因:** コンテキスト索引の変更に失敗しました。

**処置:** スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-10596 索引変更パラメータの文字列: *string* が正しくありません。**

**原因:** パラメータ文字列が無効です。

**処置:** 正しいパラメータ文字列で文を再発行してください。

**DRG-10597 再構築のオンライン操作はサポートされていません。**

**原因:** REBUILD ONLINE は要求された操作ではサポートされていません。

**処置:** ONLINE オプションを付けずに索引を変更してください。

**DRG-10598 パラメータ: *string* が重複または競合しています。**

**原因:** 同じプリファレンスが複数指定されています。

**処置:** パラメータ文字列を確認して、問題のパラメータを訂正してください。

**DRG-10599 列に索引が作成されていません。**

**原因:** 指定された列に索引が作成されていません。

**処置:** 列に索引を作成してから、この操作を行ってください。

**DRG-10601 この索引に対する保留 DML の削除に失敗しました。**

**原因:** トリガーのセットアップが削除できないため、要求された表に対する更新をモニターできません。

**処置:** スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

---

**DRG-10602 列: *string* (主キー: *string*) に対する DML 変更のキューイングに失敗しました。**

**原因:** 指定された列に対する変更が記録できません。

**処置:** スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポートに問い合わせてください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

**DRG-10606 サーバーは DML キューへのアクセスに失敗しました。**

**原因:** サーバーの DML キューへのアクセス中にエラーが発生しました。

**処置:** スタック上の次のエラーを参照してください。

**DRG-10700 作業環境が存在しません: *string***

**原因:** 指定されたプリファレンス名が存在しません。

**処置:** 正しいプリファレンス名を指定して再試行してください。

**DRG-10701 作業環境: *string.string* はすでに存在します。**

**原因:** 指定されたプリファレンスはすでに存在しています。

**処置:** プリファレンスを再作成する場合には、そのプリファレンスを削除する必要があります。

**DRG-10702 他のユーザーのスキーマでは作業環境を作成できません。**

**原因:** 別のユーザーのプリファレンスを作成しようとしました。

**処置:** 所有者、CTXSYS または CTXADMIN ロールを持つユーザーが作業環境を作成してください。

**DRG-10703 フレームワーク・オブジェクト: *string* は無効です。**

**原因:** 無効なオブジェクト型が指定されました。

**処置:** 有効なフレームワーク・オブジェクトを使用してください。

**DRG-10704 作業環境: *string* には *string* という名の属性はありません。**

**原因:** 無効な属性に値を設定しようとしています。この属性は、このオブジェクトではサポートされていません。

**処置:** 正しい属性名を指定してください。

**DRG-10705 値: *string* (属性: *string* に対する) が無効です。**

**原因:** 属性に無効な値を設定しようとしています。

**処置:** 属性のデータ型に正しい属性値を指定してください。

---

**DRG-10706 *string* の長さが最大サイズ: *string* を超えています。**

原因: パラメータのバイト数が大きすぎます。

処置: プリファレンスの設定を訂正し、再度実行してください。

**DRG-10707 属性: *string* (作業環境: *string*) に値が必要です。**

原因: 必要な属性が指定されていません。

処置: プリファレンスの設定を訂正し、再度実行してください。

**DRG-10708 クラス ID: *string* (作業環境: *string*) が無効です。**

原因: 指定されたクラス ID が、指定されたプリファレンスに対して適切ではありません。

処置: 正しいクラス ID を指定してください。

**DRG-10750 パラメータ: *string* は不明です。**

原因: パラメータを認識できません。

処置: 正しいパラメータを指定してください。

**DRG-10751 パラメータの値が無効です。**

原因: データ型が間違っているか、または範囲外です。

処置: 正しいパラメータ値を指定してください。

**DRG-10752 DEFAULT\_INDEX\_MEMORY は、MAX\_INDEX\_MEMORY より大きくできません。**

原因: DEFAULT\_INDEX\_MEMORY に、MAX\_INDEX\_MEMORY に設定した最大値より大きい値を設定しようとしてしました。

処置: 最大値より小さい値を指定してください。

**DRG-10753 メモリー・サイズの文字列: *string* が無効です。**

原因: 不適切にフォーマットされたメモリー文字列が指定されました。

処置: 正しくフォーマットされたメモリー文字列を指定してください。

**DRG-10754 メモリー・サイズは *string* から *string* までです。**

原因: 範囲外のメモリー・サイズが指定されました。

処置: 許可されている範囲内のメモリー・サイズを指定してください。

**DRG-10755 *string* と *string* に共通する文字があります。**

原因: 結合キャラクタ・セットは共通する文字を持つことができません。

処置: 属性値を訂正して、再実行してください。

---

**DRG-10756 テキスト索引も、題名索引も選択されていません。**

**原因:** INDEX\_TEXT および INDEX\_THEMES プリファレンスの両方を FALSE にすることはできません。

**処置:** INDEX\_TEXT または INDEX\_THEMES のいずれか、またはその両方を TRUE に設定してください。

**DRG-10757 ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。**

**原因:** ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。これには、ストップ・テーマが含まれます。

**処置:** 4096 を超えるストップ・ワードを使用しないでください。

**DRG-10800 問合せ: *string string string* に失敗しました。**

**原因:** 問合せ処理に失敗しました。

**処置:** スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**ORA-10801 別のユーザーの SQE を作成することはできません。**

**原因:** 別のユーザーの SQE を作成しようとしてしました。

**処置:** SQE 名指定から所有者を削除してください。

**DRG-10816 表示 / ハイライト・コールに失敗しました。**

**原因:** スタック上の次のエラーを参照してください。

**処置:** スタック上の次のエラーを参照してください。

**DRG-10817 CONTAINS の検索語指定がストップ・ワードまたはストップ・ワードの節: *string* で構成。**

**原因:** CONTAINS 問合せ内の 1 つ以上の検索語が、ストップ・ワードのみ、またはストップ・ワードのみの句で構成されています。

**処置:** ストップ・ワードを置換するか、ストップ・ワードを含まない句の中でストップ・ワードを使用してください。

**DRG-10819 contains カーソルをオープンできませんでした。**

**原因:** contains カーソルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

**処置:** スタック上の付随するエラー・メッセージを参照してください。

**DRG-10820 contains カーソル ID が無効です。**

**原因:** ID が存在しない contains カーソルをフェッチまたはクローズしようとしてしました。

**処置:** フェッチまたはクローズの起動を調べてください。

---

**DRG-10821 contains** カーソルがオープンされていません。

原因：オープンしていない **contains** カーソルからフェッチしようとしてしました。

処置：フェッチを実行する前にカーソルをオープンしてください。

**DRG-10822 問合せ名が重複しています。**

原因：すでに存在する名前を使用して、格納された問合せを作成しようとしてしました。

処置：別の名前を使用してください。

**DRG-10823: 問合せ名が無効です。**

原因：指定した問合せ名が無効です。

処置：問合せ名を確認してください。

**DRG-10825 格納された問合せが存在しません: *string***

原因：格納された問合せが存在しません。

処置：問合せ名を確認してください。

**DRG-10826 指定したテキストキーをもつ文書が見つかりません。**

原因：指定したテキスト・キーを持つ文書がありません。

処置：テキスト・キーを確認してください。

**DRG-10827 open\_con は、count\_last の前に実行しなければなりません。**

原因：LAST\_COUNT はメモリー内問合せから hit を戻すので、メモリー内問合せは COUNT\_LAST を使用する前に実行する必要があります。

処置：COUNT\_LAST を実行する前に、OPEN\_CON を実行してください。

**DRG-10828 トークン: *string* が列: *string* の最大長を超えています。**

原因：フィードバック表に挿入するトークンが、列サイズの最大値を超えています。

処置：問合せを変更するか、あるいはフィードバック表の列サイズまたはフィードバック・プロシージャ引数を合わせて変更してください。

**DRG-10829 フィードバック ID: *string* が最大長: *string* バイトを超えています。**

原因：FEEDBACK\_ID が、FEEDBACK\_ID 列で許可される最大長を超えています。

処置：最大長より小さい FEEDBACK\_ID を指定してください。



---

**DRG-10830 SHARELEVEL が 0 または 1 ではありません。**

原因：SHARELEVEL に無効な値が指定されました。

処置：0 または 1 に等しい SHARELEVEL のみを使用してください。

**DRG-10831 フィードバック表: *string* に挿入できません。**

原因：挿入の権限がありません。

処置：権限の有無をチェックしてください。

**DRG-10832 フィードバック表: *string* から削除できません。**

原因：削除の権限がありません。

処置：権限の有無をチェックしてください。

**DRG-10833 フィードバックに失敗しました。**

原因：フィードバック要求の処理に失敗しました。

処置：スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**DRG-10834 セクション名: *string* の大文字フォームが長すぎます。**

原因：セクション名の大文字フォームが、サポートされている長さより長くなっています。

処置：セクションを加える場合には、セクション名の長さを短くしてください。

**DRG-10835 題名索引で WITHIN 演算子はサポートされていません。**

原因：WITHIN がテーマ索引問合せに使用されています。

処置：WITHIN オペレータを取り除いて、問合せを修正してください。

**DRG-10836 WITHIN 演算子に渡される副問合せには WITHIN を記述できません。**

原因：副問合せに使用されている WITHIN オペレータが、WITHIN 問合せに渡されました。

処置：ネストされた WITHIN オペレータを取り除いて、問合せを修正してください。

**DRG-10837 セクション: *string* が存在しません。**

原因：指定されたセクション名が、USER\_SECTIONS に存在しません。

処置：有効なセクション名で問合せを修正してください。

**DRG-10838 無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。**

原因：無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。

処置：有効な SPAN を指定してください。有効な値は 0 ～ 100 の整数です。

**DRG-10839 無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。**

原因：無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。

---

処置：有効な ORDER を指定してください。有効値は T、TRUE、F または FALSE です (大 / 小文字は区別されません)。

**DRG-10840 0 (ゼロ) を含む CONTAINS 述語は、FIRST\_ROWS ヒントでサポートされません。**

原因：FIRST\_ROWS ヒントを持つ 0 を含む CONTAINS 述語を使用して、問合せを発行しようとした。

処置：FIRST\_ROWS ヒントを削除してください。

**DRG-10900 メモリー不足です。**

原因：これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置：システム管理者に連絡してください。

**DRG-11100 データベースに接続できません。**

原因：Oracle データベースに接続できません。

処置：Oracle エラーおよび接続文字列を確認してください。

**DRG-11101 ファイル: *string* のオープンに失敗しました。**

原因：ファイルのオープンに失敗しました。

処置：ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

**DRG-11102 割り当てられた lexer は、言語設定: *string* では動作できません。**

原因：マルチバイト言語の設定で、シングルバイトの lexer が選択されました。

処置：RDBMS 言語設定またはテキスト列の lexer を確認してください。

**DRG-11104 ConText エラー：**

原因：スタック上の次のエラーを参照してください。

処置：スタック上の次のエラーを参照してください。

**DRG-11106 ユーザー・データベース・セッションが、この操作中に強制終了されました。**

原因：このデータベース・セッションは存在しないか、または強制終了されました。

処置：ConText 操作の実行中にユーザー・データベース・セッションが強制終了した理由を調べてください。

**DRG-11107 パス指定: *string* は無効です。**

原因：指定されたパスが無効です。

処置：パス指定を確認してください。

---

**DRG-11108 指定したファイル名: *string* は無効です。**

**原因:** 指定したファイル名が無効です。

**処置:** ファイル名が空白で開始または終了していないかどうか、無効な文字が含まれていないかなどの問題を調べてください。

**DRG-11109 割り当てられた lexer は、*string* 問合せオペレータをサポートしていません。**

**原因:** この lexer は、この問合せオペレータをサポートしていません。

**処置:** 問合せでこのオペレータを使用しないでください。

**DRG-11110 *string***

**DRG-11111 *string* の値は、*string* から *string* までの値でなければなりません。**

**原因:** 指定されたパラメータ値が範囲外です。

**処置:** 範囲内のパラメータ値を指定してください。

**DRG-11112 *string* の長さが最大値 *string* を超過しています。**

**原因:** 指定されたパラメータ値が長すぎます。

**処置:** 正しい長さのパラメータ値を指定してください。

**DRG-11113 *string* の値は、*string* の 1 つでなければなりません。**

**原因:** 指定されたパラメータ値が無効です。

**処置:** 有効なパラメータ値を指定してください。

**DRG-11203 INSO フィルタは、このプラットフォームでサポートされていません。**

**原因:** INSO フィルターをサポートしていないプラットフォームでこれを使用しようとしてしました。

**処置:** INSO フィルタを使用しないでください。

**DRG-11204 ユーザー・フィルタ・コマンドが長すぎます。**

**原因:** ユーザー・フィルタ・コマンドは、32 文字以下である必要があります。

**処置:** 32 文字以下のユーザー・フィルタ・コマンドを使用してください。

**DRG-11205 ユーザー・フィルタ・コマンドに無効な文字が含まれています。**

**原因:** ユーザー・フィルタ・コマンドには、スラッシュ、カッコ、セミicolonなどの特殊文字は使用できません。

**処置:** ユーザー・フィルタ・コマンドに特殊文字を使用しないでください。

**DRG-11206 ユーザー・フィルタ・コマンド: *string* を実行できませんでした。**

**原因:** ユーザー・フィルタ・コマンドが実行できません。

---

処置：コマンドが \$ORACLE\_HOME/ctx/bin にあるかどうか、そのコマンドが実行可能かどうかを確認してください。

**DRG-11207 ユーザー・フィルタ・コマンドが状態: *string* で終了しました。**

原因：ユーザー・フィルタ・コマンドがエラー状態で終了しました。

処置：処置は必要ありません。

**DRG-11208 ORACLE\_HOME が設定されていません。**

原因：ORACLE\_HOME が設定されていません。

処置：CTXSRV 実行時に ORACLE\_HOME が設定されているかどうかを確認してください。

**DRG-11209 *string* のファイル名が最大長: *string* を超えています。**

原因：ファイル名の値が長すぎます。

処置：長すぎないファイル名を指定してください。

**DRG-11400 キー: *string* での文書の解析に失敗しました。**

原因：言語抽出に指定された文書が解析できませんでした。この文書は、完全な英文になっていません。

処置：文書の内容を確認してください。

**DRG-11403 主キーの値は長すぎます。**

原因：サービス要求に、主キーの最大長（64 バイト）を超えた主キー・パラメータが渡されました。

処置：主キー・パラメータを確認してください。

**DRG-11404 主キーの値は指定されていません。**

原因：サービス要求に NULL の主キー・パラメータが渡されました。

処置：主キー・パラメータを確認してください。

**DRG-11410 結果表: *string* に挿入できませんでした。**

原因：結果表への言語出力の挿入中に Oracle エラーが発生しました。

処置：Oracle エラー・コードに対応する処置を行ってください。

**DRG-11418 言語解析機能用の文書の内容が十分ではありません。**

原因：言語抽出に指定した文書は、指定された解析機能で解析されましたが、文書の内容が言語抽出には不十分でした。

処置：文書の内容を確認するか、言語の設定を変更してください。

---

**DRG-11422 言語サービスの初期化に失敗しました。**

**原因：**言語サービスの初期化に失敗しました。メモリーが不足している可能性があります。

**処置：**サーバーを再起動してください。

**DRG-11425 gist レベル: *string* が無効です。**

**原因：**指定された gist レベルが無効です。

**処置：**有効な gist レベルを指定してください。

**DRG-11427 有効な gist レベルの値は *string* です。**

**原因：**これは情報メッセージです。

**処置：**処置は必要ありません。

**DRG-11432: ConText lexicon にアクセス中、ファイル・エラーが発生しました。**

**原因：**辞書へのアクセス中に Oracle エラーが発生しました。

**処置：**Oracle エラー・スタックを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-11435 主キーの値が無効です。**

**原因：**サービス要求に有効でない主キー・パラメータが渡されました。

**処置：**主キー・パラメータを確認してください。

**DRG-11439 索引名の長さが最大値: 25 文字を超えています。**

**原因：**索引の長さが索引名の最大サイズを超えています。

**処置：**索引を削除して、短い索引名で再作成してください。

**DRG-11440 *string* 言語ではサポートされない操作です。**

**原因：**要求された操作は現行の言語ではサポートされません。

**処置：**サポートされている操作を使用してください。

**DRG-11441 gist numParagraphs *string* が無効です。**

**原因：**gist numParagraphs に無効な値が指定されました。

**処置：**gist numParagraphs に有効な値のみを指定してください。

**DRG-11442 有効な gist numParagraphs の値は、*string* です。**

**原因：**gist numParagraphs に無効な値が指定されました。

**処置：**このメッセージで示した gist numParagraphs に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

---

**DRG-11443 gist maxPercent *string* が無効です。**

原因：gist maxPercent に無効な値が指定されました。

処置：gist maxPercent に有効な値のみを指定してください。

**DRG-11444 有効な gist maxPercent の値は、*string* です。**

原因：gist maxPercent に無効な値が指定されました。

処置：このメッセージで示した gist maxPercent に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

**DRG-11500 列名が正しくありません。*string* (行:*string*) が見つかりました。**

原因：列名またはキーワードの綴りが間違っている可能性があります。

処置：指定された行の近くの綴りおよび句読点を確認してください。

**DRG-11501 識別子:*string* が、列名のかわりに行:*string* が見つかりました。**

原因：列名の綴りが間違っている可能性があります。

処置：指定された行の近くの綴りを確認してください。

**DRG-11502 行:*string* で、ファイル:*string* の読み込みに失敗しました。**

原因：ファイル名が間違っている、FILE\_TYPE が正しくない、またはファイル・システムのエラーです。

処置：ファイル名、型とファイルの整合性を確認してください。

**DRG-11503 文の挿入により文の最大サイズを超えました。**

原因：文の合計の長さが、データベースの最大値を超えました。

処置：列名を短くするか、列数を少なくしてください。

**DRG-11504 指定した LONG 値のパラメータ:*string* は無効です。**

原因：オプション引数が無効です。

処置：LONG バッファ・サイズに 0 より大きい値を KB 単位で指定してください。

**DRG-11505 *string* の LONG データは見つからないか、無効です。**

原因：データまたはデータ・ファイルのいずれかが無効です。

処置：ファイルが存在しているかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。

**DRG-11506 エラーのため、行:*string* のレコードは無視されました。**

原因：この行データの解析中に、エラーが発生しました。

処置：エラーのある行を別のロード・ファイルに移動して、修正してください。

**DRG-11507 ファイル:*string* の読み込みでファイル・エラーが発生しました。**

原因：ファイルが見つからないか、読み込めません。

---

**処置:** ファイルの名前と位置を確認してください。

**DRG-11508 *string* トークン (行: *string*) が誤っているか、または存在しません。**

**原因:** 必要なトークンが見つかりません。

**処置:** 影響のあるレコードをエラーのあるロード・ファイルに移動して、修正してください。

**DRG-11509 行: *string* に値を指定してください。**

**原因:** テキストに値がありません。

**処置:** 影響のあるレコードをエラーのあるロード・ファイルに移動して、修正してください。

**DRG-11510 行: *string* で回復不能なエラーが発生しました。**

**原因:** 前のメッセージを参照してください。

**処置:** 前のメッセージを参照してください。

**DRG-11511 指定した表に LONG RAW 列はありません。**

**原因:** テキストは、LONG RAW 型の列に挿入する必要があります。

**処置:** データの表および型を確認してください。

**DRG-11512 シソーラス・ロード・ファイルの行: *string* の構文に誤りがあります。**

**原因:** ロード・ファイルは、ロードするシソーラスに固有の形式である必要があります。

**処置:** マニュアルを参照して、正しい構文を調べてください。

**DRG-11513 ファイル: *string* のオープンまたは書込みができません。**

**原因:** ファイルのオープンまたは書込みを試みましたが、失敗しました。

**処置:** システム管理者に連絡してください。

**DRG-11514 ユーザー: *string* に、*string* の UPDATE または SELECT 権限はありません。**

**原因:** ユーザーには、UPDATE または SELECT 権限は付与されていません。

**処置:** ユーザー権限を確認してください。

**DRG-11515 テキスト・キーの値が不十分です。**

**原因:** 指定された値の数がテキスト・キーの数と一致しません。

**処置:** テキスト・キーの数と同じ数の値を指定してください。

**DRG-11516 この操作を実行するには、少なくとも CTXUSER のロールが必要です。**

**原因:** ユーザーに CTXUSER、CXTAPP または CTXADMIN のロールがありません。

**処置:** ユーザーに適切なロールを与えてください。

---

**DRG-11517 テキスト・オブジェクトの妥当性検査中にエラーが発生しました。**

原因：同時に出力される Oracle メッセージを参照してください。

処置：同時に出力される Oracle メッセージを参照してください。

**DRG-11518 テキスト表: *string* に LONG または LONG RAW 列がありません。**

原因：指定された表に LONG または LONG RAW 列がありません。

処置：指定された表を確認してください。

**DRG-11519 LONG または LONG RAW 列のエクスポート中にエラーが発生しました。**

原因：同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

処置：同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

**DRG-11520 ファイルの書込み中にエラーが発生しました。**

原因：ファイルが存在しません。

処置：ファイルが存在するかを確認してください。

**DRG-11521 LONG または LONG RAW 列の更新中にエラーが発生しました。**

原因：同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

処置：同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

**DRG-11522 指定したテキスト・キーをもつ行が存在しません。**

原因：表の中の行に指定されたテキスト・キーがありません。

処置：正しいテキスト・キーを使用してください。

**DRG-11523 指定した行を更新用にロックできません。**

原因：他プロセスが指定した行をロックしています。

処置：ロックを解放するか、またはロックが解放されるまで持ってください。

**DRG-11524 主キーの値が指定されていません。**

原因：主キー値が指定されていません。

処置：主キー値を指定してください。

**DRG-11525 無効な *commitafter* パラメータ: *string* が指定されました。**

原因：オプション引数が無効です。

処置：0 を超えるコミットを指定してください。

**DRG-11526 ファイル名が最大長を超えています。**

原因：ファイル名の値が長すぎます。

処置：最大長を超えないファイル値を使用してください。



---

**DRG-11527 行: *string* で終了トークンが見つかりません。**

原因: レコードの終わりに <TEXTEND> が見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11528 LONG または LONG RAW 列定義が構造体データで見つかりました。**

原因: 位置が誤っていることが考えられます。

処置: 構造化データから LONG または LONG RAW 列への作業環境を削除してください。

**DRG-11529 トークンが最大長を超えています。**

原因: 列の名前または値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11530 トークンが最大長を超えています。**

原因: 句またはリレーション・ワードの値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11531 行: *string* で開始トークンが見つかりません。**

原因: <TEXTSTART: がレコードの始めに見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11532 行: *string* (ファイル: *string*) の終わりで読み込みエラーが発生しました。**

原因: 行の終わりまで読み込み中に文字が見つかりました。

処置: 無関係な文字を削除してください。

**DRG-11533 列: *string* の値が正しくありません。**

原因: 列の値が長すぎるか、引用符が一致していません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11534 列: *string* が存在しない、またはスペルミスです。**

原因: 列が存在しないか、綴りが間違っています。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

**DRG-11600 URL 保存: *string* が永続的に移動されました。**

原因: URL が参照している文書が永続的に移動されました。

処置: 文書の新しいアドレスを調べてください。

---

**DRG-11601 URL 保存:** *string* に対する要求の構文に誤りがあります。

原因: クライアントが正しい要求を送信できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-11602 URL 保存:** *string* へのアクセスには認証が必要です。

原因: ユーザーにパスワードまたは認証が必要です。

処置: 必要なアクセス権を取得するか、URL を確認してください。

**DRG-11603 URL 保存:** *string* へアクセスするにはペイメントが必要です。

原因: URL にアクセスするにはペイメントが必要です。

処置: URL を確認するか、またはアクセスに必要であればペイメントを行ってください。

**DRG-11604 URL 保存:** *string* へのアクセスは否認されました。

原因: URL へのアクセスが否認されました。

処置: URL を確認してください。URL が正しい場合には、URL へのアクセスは試みないでください。

**DRG-11605 URL 保存:** *string* で指定された文書が見つかりません。

原因: 指定されたホストに文書が見つかりませんでした。

処置: URL を確認してください。

**DRG-11606 URL 保存:** *string* へのアクセスがクライアント要求の待機中にタイム・アウト。

原因: クライアントからタイムアウト周期内に応答がありませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-11607 URL 保存:** 誤った応答が原因で、*string* へのアクセスが否認されました。

原因: URL の Web サーバーが HTTP プロトコルに準拠していません。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

**DRG-11608 URL 保存:** *string* のホスト部分が誤って指定されています。

原因: URL のホスト部分が解析できません。

処置: URL を確認してください。

**DRG-11609 URL 保存:** *string* で指定されたローカル・ファイルをオープンできません。

原因: ローカル・ファイルがオープンできませんでした。

処置: URL を確認してください。

---

**DRG-11610 URL 保存:** *string* で指定されたローカル・ファイルを読み込むことができません。

原因: ローカル・ファイルが読み込めませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

**DRG-11611 URL 保存:** *string* で指定されたプロトコルが不明です。

原因: 解析したプロトコルが HTTP またはファイルのいずれでもありませんでした。

処置: URL を確認してください。

**DRG-11612 URL 保存:** *string* で指定されたホストが不明です。

原因: 指定されたホストのアドレスが解決できませんでした。

処置: URL を確認してください。

**DRG-11613 URL 保存:** *string* で指定されたホストへの接続が拒否されました。

原因: 指定されたホストへの接続が拒否されました。

処置: URL を確認してください。

**DRG-11614 URL 保存:** *string* に指定されたホストとの通信がタイム・アウトしました。

原因: ネットワーク操作がタイムアウトしました。

処置: 後でもう一度試みてください。Web サーバーとのネットワーク接続が切断されている可能性があります。

**DRG-11615 URL 保存:** ネットワーク内の *string* へ送信する書込みが失敗しました。

原因: Web サーバーへの書込み中に不明なエラーが発生しました。

処置: ネットワーク接続を確認してください。

**DRG-11616 URL 保存:** *string* へアクセスしようとするリダイレクションが多すぎます。

原因: URL へアクセスしようとする HTTP リダイレクションの連鎖が多すぎます。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

**DRG-11617 URL 保存:** URL: *string* が長すぎます。

原因: URL 文字列の長さが URLSIZE を超えています。

処置: URLSIZE 属性の値を大きくしてください。

**DRG-11618 URL 保存:** *string* で示された文書が大きすぎます。

原因: 文書がユーザーの設定した最大サイズを超えています。

処置: URL にアクセスしないか、文書のサイズ制限を大きくしてください。

**DRG-11619 URL 保存:** 表内の行が空です。

原因: 行が削除されているか、あるいは欠落しています。

---

処置：必要であれば、表を確認してください。

**DRG-11620 URL 保存：スレッド操作のエラー。**

原因：スレッド操作に失敗しました。

処置：システム管理者に連絡してください。

**DRG-11621 URL 保存：string に関するソケット・オープン・エラー。**

原因：ソケット・オープンに失敗しました。オープンしているファイル記述子が多すぎる可能性があります。

処置：起動するスレッドの最大数を減らしてください。

**DRG-11622 URL 保存：string の読取りについての不明な HTTP のエラー。**

原因：ConText が認識できない HTTP エラーが発生しました。

処置：HTTP エラー・コードを調べてください。有効な場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-11623 URL 保存：string の読取りについての不明なエラー。**

原因：ConText が認識できないエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-11624 属性 string (string) は無効です：有効範囲は string から string の間です。**

原因：属性に設定可能な値の範囲を超えています。

処置：属性値を変更してください。

**DRG-11625 MAXURLS \* URLSIZE は、string よりも小さくなければなりません。**

原因：MAXURLS \* URLSIZE は制限値を超えることはできません。

処置：MAXURLS または URLSIZE のいずれかの値を小さくしてください。

**DRG-11700 シソーラス：string はすでに存在しています。**

原因：同じ名前のシソーラスが存在します。

処置：別の名前を使用してください。

**DRG-11701 シソーラス：string は存在しません。**

原因：シソーラスが存在しません。

処置：別のシソーラスを使用するか、シソーラスを作成してください。

**DRG-11702 string**

原因：問合せでシソーラス演算子の解析中にエラーが発生しました。

処置：詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

---

**DRG-11703 この機能を実行するには、ユーザー : *string* には最低 CTXAPP ロールが必要です。**

**原因:** 権限が不十分です。

**処置:** ユーザーに CTXAPP ロールを付与してください。

**DRG-11704 句 : *string* が存在しません。**

**原因:** 句が存在しません。

**処置:** 別の句を使用するか、または句を作成してください。

**DRG-11705 *string* から *string* への複数レベルジャンプです。**

**原因:** シソーラス・ロード・ファイルに、解析できないマルチレベル・ジャンプがあります。

**処置:** シソーラス・ファイルを修正してください。

**DRG-11706 リレーション : *string* が無効です。**

**原因:** 指定されたリレーションが無効です。

**処置:** 有効なリレーションを指定して、再送信してください。

**DRG-11707 有効なリレーション : *string***

**原因:** 指定されたリレーションが無効です。

**処置:** 有効なリレーションはリストされているとおりです。

**DRG-11708 シソーラスが多すぎます。**

**原因:** CTXKBTC では 16 を超えるシソーラスはコンパイルできません。

**処置:** 指定する値を少なくしてください。

**DRG-11709 シソーラスの語句が多すぎます。**

**原因:** シソーラスの語句数が最大値を超えています。

**処置:** シソーラスの語句数を減らしてください。

**DRG-11710 シソーラスの語句 : *string* が長すぎます。**

**原因:** ナレッジ・ベースでは 80 文字を超える語句が許可されていません。

**処置:** 80 文字を超える語句を使用しないでください。

**DRG-11711 語句 : *string* のデータが多すぎます。**

**原因:** 語句 1 個につきデータ・サイズが内部的に制限されています。

**処置:** シソーラスを再設計してください。

**DRG-11712 語句 : *string* に対して複数の上位概念語があります。**

**原因:** 語句に対して複数の上位語は許可されません。

---

処置：それぞれの語句が上位概念を 1 つのみを持っていることを確認してください。

**DRG-11713 1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語があります。**

原因：1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれのシノニム・リングが優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

**DRG-11714 シノニムに異なる上位概念語があります。**

原因：すべてのシノニムには、同じ上位語が必要です。

処置：すべてのシノニムに同じ上位語があることを確認してください。

**DRG-11715 2KB カテゴリ : *string* と *string* に上位概念語関係を追加しようとしてしました。**

原因：上位語関係は、2 つのナレッジ・ベース・カテゴリ間には追加できません。

処置：上位語階層を再設計してください。

**DRG-11716 下位概念語 : *string* を非優先語 : *string* に対して追加しようとしてしました。**

原因：下位語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：下位語を優先語に付加してください。

**DRG-11717 類義語 : *string* を非優先語 : *string* に対して追加しようとしてしました。**

原因：類義語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：類義語を優先語に付加してください。

**DRG-11718 語句 : *string* に対して複数の優先語があります。**

原因：語句に対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれの語句が優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

**DRG-11719 上位概念語の階層が深すぎます。**

原因：上位語の階層が深すぎます。

処置：最善の結果が得られるように階層を均一にしてください。

**DRG-11720 シノニム・リング当りのシノニムが多すぎます。**

原因：1 つの優先語に対するシノニムが多すぎます。

処置：さらに区分して、階層を深くしてください。

**DRG-11721 シソーラス : *string* が空です。**

原因：シソーラスにエントリが存在しません。

処置：エントリを追加するか、シソーラスを削除してください。

---

**ORA-11722 言語の指定が無効です。**

原因：言語の指定は 10 文字を超えてはいけません。

処置：言語の指定を 10 文字以下にしてください。

**DRG-12201 セクション・グループ: *string* はすでに存在します。**

原因：同じ名前のセクション・グループがすでに存在します。

処置：別名を使用するか、または既存のセクション・グループを削除してください。

**DRG-12202 セクション・グループの作成でエラーが発生しました。**

原因：セクション・グループの作成時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12203 セクション・グループ: *string* がありません。**

原因：指定されたセクション・グループは存在しません。

処置：既存のセクション・グループを指定してください。

**DRG-12204 セクション・グループ: *string* の削除でエラーが発生しました。**

原因：セクション・グループの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12206 タグ: *string* は、すでにセクション・グループ: *string* にあります。**

原因：指定された開始タグは同じセクションにすでに存在します。

処置：別の開始タグを指定してください。

**DRG-12210 セクション: *string* の追加でエラーが発生しました。**

原因：セクションの追加時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12211 セクションまたはセクション ID: *string* は存在しません。**

原因：削除するセクション名またはセクション ID が存在しません。

処置：存在するセクション名またはセクション ID を指定してください。

**DRG-12212 セクション: *string* の削除でエラーが発生しました。**

原因：セクションの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置：Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12213 他のユーザーのセクション・グループまたはセクションは作成 / 削除できません。**

原因：自分のセクション・グループ・オブジェクトのみを作成または削除できます。

処置：オブジェクトを所有するユーザーに作成または削除させてください。

---

**DRG-12217 タグは 64 バイト以下でなければなりません。**

原因：開始または終了タグの最大値は 64 バイトです。

処置：64 バイト以内の開始または終了タグを指定してください。

**DRG-12218 セクション・グループ名が欠落しています。**

原因：セクション・グループ名を指定する必要があります。

処置：セクションまたはセクション・グループの作成時にセクション・グループ名を指定してください。

**DRG-12219 セクション名が欠落しています。**

原因：セクションを作成する場合、セクション名を指定する必要があります。

処置：セクション名を指定してください。

**DRG-12220 有効なタグを指定してください。**

原因：セクション・グループにセクションを追加する場合、タグを指定する必要があります。

処置：タグを指定してください。

**DRG-12223 セクション名: *string* は確保されている名前です。**

原因：セクションに予約名を割り当てようとした。

処置：予約名を使用しないでください。

**DRG-12224 セクション・グループの作成には `ctx_ddl.create_section_group` を使用します。**

原因：CTX\_DDL.CREATE\_PREFERENCE を使用して、セクション・グループを作成しようとした。

処置：CTX\_DDL.CREATE\_SECTION\_GROUP を使用してください。

**DRG-12225 このタイプのセクション・グループにセクションは追加できません。**

原因：無効なセクション・グループ・タイプにセクションを追加しようとした。

処置：別のセクション・グループ・タイプを使用してください。

**DRG-12226 *string* という名前のフィールド・セクションは、このセクション・グループにすでに存在します。**

原因：ゾーン・セクションにフィールド・セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置：別の名前を使用してください。

**DRG-12227 *string* という名前のゾーン・セクションは、このセクション・グループにすでに存在します。**

原因：フィールド・セクションにゾーン・セクションと同じ名前を割り当てようとした。



---

**処置:** 別の名前を使用してください。

**DRG-12228 フィールドのセクション数 (*string*) がその最大数を超過しました。**

**原因:** セクション・グループの一意のフィールド・セクション数が、最大数を超過しています。

**処置:** 一意のフィールド・セクションの数を減らしてください。

**DRG-12227 特殊セクション *string* は、このセクション・グループにすでに存在します。**

**原因:** すでに存在している特殊セクションを追加しようとした。

**処置:** 処置は必要ありません。

**DRG-12230 特殊セクション名は、*string* の 1 つでなければなりません。**

**原因:** 無効な特殊セクションを追加しようとした。

**処置:** 有効な特殊セクションを使用してください。

**DRG-12400 テンプレート: *string* が空です。**

**原因:** テンプレートが空です。

**処置:** テンプレートが正しくインストールされているかを確認してください。

**DRG-12401 無効なテンプレート: ループ内の問合せ**

**原因:** CTX REPEAT タグ内では CTX EXEC タグを付けることはできません。

**処置:** CTX EXEC タグを削除してください。

**DRG-12402 テンプレート: *string*、行: *string* の処理でエラーが発生しました。**

**原因:** テンプレートの処理時にエラーが発生しました。

**処置:** スタック上の他のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12403 テンプレート: *string* が見つかりません。**

**原因:** テンプレートが存在しません。

**処置:** テンプレート名とそのテンプレートがインストールされているかを確認してください。

**DRG-12404 テンプレート: *string* が複数見つかりました。**

**原因:** 同じ名前のテンプレートが複数見つかりました。

**処置:** 必要に応じてテンプレートを削除してください。

---

**DRG-12405 CTX REDIRECT または CTX LABEL タグの処理でエラーが発生しました。**

**原因:** タグの構文エラーです。

**処置:** タグ構文を修正してください。

**DRG-12406 CTX EXEC タグ属性 (*string*) が無効です。**

**原因:** 属性が正しく指定されていません。

**処置:** 指定された属性の構文を確認してください。

**DRG-12407 CTX REPEAT タグ属性 (*string*) が無効です。**

**原因:** 属性が正しく指定されていません。

**処置:** 指定された属性の構文を確認してください。

**DRG-12408 変数参照が無効です: *string***

**原因:** 参照された変数が存在しません。

**処置:** ラベルおよび列名を確認してください。

**DRG-12409 *string* のラベルに構文エラーがあります。**

**原因:** CTX EXEC タグの SQL に、ラベルまたはラベル型の正しくない構文があります。

**処置:** CTX EXEC タグの SQL 属性を確認してください。

**DRG-12410 CTX EXEC タグを処理できません。**

**原因:** CTX EXEC タグの SQL 属性の処理時にエラーが発生しました。

**処置:** スタック上の他のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12411 SQL 処理エラー: *string***

**原因:** CTX EXEC タグの SQL 属性から SQL を間違って実行しました。

**処置:** SQL 属性の SQL を確認してください。

**DRG-12412 テンプレート処理属性 (*string*) が欠落しているかまたは無効です。**

**原因:** 指定された属性が HTML 入力フィールドでは欠落しているか、または無効です。

**処置:** テンプレートの INPUT、SELECT、RADIO および CHECKBOX タグでテンプレート処理固有の属性を調べてください。

**DRG-12422 クライアントへの書き込みに失敗しました。**

**原因:** 次のメッセージを参照してください。

**処置:** 管理者に連絡してください。

**DRG-12430 必須の引数がありません: *string***

**原因:** この引数は必須です。

**処置:** この引数を指定した状態で URL を送り直してください。

---

**DRG-12431 構成セクション: *string* が見つかりません。**

原因: 指定された構成引数が無効です。

処置: 引数を修正して URL を送り直してください。

**DRG-12432 構成ファイル: *string* が見つからないか、または読み込み不能です。**

原因: 構成ファイルの処理時にエラーが発生しました。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12433 *string*JDBC ドライバ・クラスのロードに失敗しました。**

原因: ドライバ・クラスが無効です。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

**DRG-12434 構成情報: *string* を使用した接続に失敗しました。**

原因: 構成情報が正しくありません。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

**DRG-12435 ハイライト表の割当てに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12436 ドキュメント表の割当てに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12437 ハイライト表のリリースに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12438 ドキュメント表のリリースに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12439 ハイライト表の読み込みに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

**DRG-12440 ドキュメント表の読み込みに失敗しました。**

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

---

**DRG-12441 ハイライト数の計算に失敗しました。**

**原因:** 次のメッセージを参照してください。

**処置:** 管理者に連絡してください。

**DRG-12500 ストップ・リスト: *string* はすでに存在します。**

**原因:** 指定されたストップ・リストはすでに存在しています。

**処置:** ストップ・リストを再作成する場合に、重複しているストップ・リストを削除してください。

**DRG-12501 NULL のストップ・リストは許可されていません。**

**原因:** 指定されたストップ・リストが NULL です。

**処置:** 有効なストップ・リストを指定してください。

**ORA-12502 他のユーザーのストップ・リストは変更できません。**

**原因:** 自分のストップ・リストまたはストップ・ワード・オブジェクトのみ作成または削除できます。

**処置:** オブジェクトを所有するユーザーに作成または削除させてください。

**DRG-12503 ストップ・リストの作成または削除中にエラーが発生しました。**

**原因:** ストップ・リストの作成時に Oracle エラーを検出しました。

**処置:** Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12504 ストップ・リスト: *string* は存在しません。**

**原因:** 指定したストップ・リストが存在しません。

**処置:** ストップ・リストが有効であることを確認してください。

**DRG-12505 ストップ・ワードの追加または削除中にエラーが発生しました。**

**原因:** ストップ・ワードの追加または削除中に Oracle エラーを検出しました。

**処置:** Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

**DRG-12506 ストップ・ワード: *string* はストップ・リスト: *string* ではありません。**

**原因:** 指定したストップ・ワードが存在しません。

**処置:** ストップ・ワードが有効であることを確認してください。

**DRG-12507 ストップ・ワード: *string* は、すでにこのストップ・リストにあります。**

**原因:** 指定されたストップ・ワードはすでに存在しています。

**処置:** ワードを再作成する場合に、重複しているワードを削除してください。

---

**DRG-12508 ストップ・ワードは NULL にできません。**

**原因:** 指定されたストップ・ワードが NULL です。

**処置:** ストップ・ワードを再作成する場合に、NULL のストップ・ワードを削除してください。

**DRG-12509 ストップ・ワード: *string* の長さがその制限である *string* バイトを超えています。**

**原因:** ストップ・リスト・エントリが最大長を超えています。

**処置:** ストップ・リスト・エントリの長さを短くしてください。

**DRG-12511 ストップ・リストの作成には `ctx_ddl.create_stoplist` を使用します。**

**原因:** CTX\_DDL.CREATE\_PREFERENCE を使用して、ストップ・リストを作成しようとしていました。

**処置:** CTX\_DDL.CREATE\_STOPLIST を使用してください。

**DRG-12512 無効なストップ・クラス: *string* です。**

**原因:** 無効なストップ・クラスが指定されました。

**処置:** 有効なストップ・クラスを指定してください。

**DRG-12513 有効なストップ・クラス: *string***

**原因:** 無効なストップ・クラスが指定されました。

**処置:** 有効なストップ・クラスがリストされています。

**DRG-12600 ユーザー・データストア・プロシージャ名: *string* にセミコロンがあります。**

**原因:** 指定されたプロシージャ名にセミコロンが含まれています。

**処置:** セミコロンを削除するか、またはプロシージャを改名してください。正しい形式は `packagename.procedure_name` です。

**DRG-12601 ユーザー・データストア・プロシージャ名: *string* は無効です。**

**原因:** プロシージャ名の形式が無効です。形式は `packagename.procedurename` または `procedurename` である必要があります。

**処置:** PROCEDURE 属性の形式が、`packagename.procedurename` または `procedurename` であることを確認してください。

**DRG-12602 索引所有者には、ユーザー・データストア・プロシージャ: *string* へのアクセス権がありません。**

**原因:** 索引所有者には、プロシージャに対する実行権限がありません。

**処置:** CTXSYS を使用して、プロシージャに対する実行権限を索引所有者に付与してください。

---

**DRG-12603 CTXSYS は、ユーザー・データストア・プロシージャ: *string* を所有していません。**

**原因:** CTXSYS に、ユーザー・データストア・プロシージャに対する実行権限がありません。

**処置:** パッケージが CTXSYS によって所有されており、プロシージャが存在することを確認してください。

**DRG-12604 ユーザー・データストア・プロシージャの実行に失敗しました。**

**原因:** ユーザー・データストア・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

**処置:** データストア・プロシージャを確認してください。

**DRG-50000 max. string length larger than pagesize: str *string*, pagesize *string***

**原因:** 指定された（またはデフォルト）の最大文字列長がページ・サイズを超えています。

**処置:** 最大文字列のサイズを小さくしてください。

**DRG-50100 CORE LSF error: *string***

**原因:** CORE LSF エラーを検出しました。

**処置:** コア・エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

**DRG-50101 CORE LEM error: *string***

**原因:** エラー・スタックの読み込み中に、CORE LEM エラーが検出されました。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50300 error sending message from server to client**

**原因:** 内部データベース・エラーまたは内部 ConText エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50301 server error reading request queue**

**原因:** データベース・エラーまたは内部 ConText エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50302 server error reading OOB break queue; cannot detect interrupts**

**原因:** データベース・エラーまたは内部 ConText エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50303 error in bufout**

**原因:** 内部エラーです。

**処置:** オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-50304 error in execute()**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50305 getcmd() called when one of the queue names is NULL**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50400 maximum number of fuzzy match candidates exceeded: *string***

原因：内部エラーです。索引ワードが多すぎる可能性があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50401 failed to retrieve fuzzy match candidates from db: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50600 assertion failed**

原因：内部確認条件に違反しています。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50601 fatal error**

原因：致命的なエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50603 unrecognized operation code *string***

原因：無効なオペレーション・コードが見つかりました（スイッチ・デフォルトに達しました）。

処置：.h ファイルのバージョンを確認してください。

**DRG-50607 failed to obtain column info for cid *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50608 unexpected end of data**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-50609 pipe internal error**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50610 internal error: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50700 unknown command (args=queue, command)**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50701 error in listener.get\_cmd()**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50702 error in drtIsleep()**

原因：テスト関数での内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50703 listener startup error**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50704 Net8 リスナーが実行されていないか、または外部プロシージャを起動できません。**

原因：ConText は外部コードをコールして要求を完了する必要がありますが、EXTPROC エージェント・プロセスを起動できませんでした。

処置：外部プロシージャ用に設定されているリスナーが、実行されていない場合は、リスナーを起動してください。リスナーが実行中の場合は、リスナーを外部プロシージャ用に設定して再起動してください。詳細は、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。

**DRG-50800 failed to open cursor**

原因：内部問合せに対してオープンしているカーソルが多すぎます。

処置：カーソル・クリーンアップ・ルーチンをインプリメントしてください。

**DRG-50801 failed to parse cursor**

原因：内部問合せの解析エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。



---

**DRG-50802 failed to bind input**

原因：内部問合せのバインド・エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

**DRG-50803 failed to define output**

原因：内部問合せの定義エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

**DRG-50804 failed to exec cursor**

原因：内部問合せの実行時エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

**DRG-50805 failed to close cursor**

原因：内部問合せのカーソル・クローズ・エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

**DRG-50806 failed to rollback**

原因：トランザクションのロールバック・エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50807 failed to rollback**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50850 *string***

原因：ORA エラーです。

処置：このマニュアルの ORA の章を参照してください。

**DRG-50851 SQL execute failed**

原因：SQL 文の実行に失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに報告してください。

**DRG-50852 failed to turn SQL trace on**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50853 fetch error**

原因：内部問合せのフェッチ・エラーです。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

---

**DRG-50855 logoff fail**

原因：データベースのログオフに失敗しました。

処置：プログラムのバージョンを確認してください。

**DRG-50857 oracle error in *string***

原因：情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

**DRG-50858 OCI error: *string***

原因：一般的な OCI エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50859 failed to allocate statement handle**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50860 failed to prepare statement**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50861 failed to obtain type descriptor**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50862 failed to create new Oracle object**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50863 string assignment failed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50864 number assignment failed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-50865 failed to append to collection**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50866 failed to resize string**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50867 failed to free Oracle object**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50868 failed to free statement handle**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50900 text query parser error on line *string*, column *string***

原因：無効な問合せです。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50901 text query parser syntax error on line *string*, column *string***

原因：無効な問合せです。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50902 unexpected character *string***

原因：無効な問合せです。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50903 invalid weight *string***

原因：無効な重みです。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50904 weight *string* outside valid range 0.1 to 10.0**

原因：無効な重みです。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50905 invalid score threshold *string***

原因：無効なスコアのしきい値です。

処置：問合せを訂正してください。

---

**DRG-50906 score threshold *string* is not an integer**

原因：無効なスコアのしきい値です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50907 score threshold *string* outside valid range 1 to 100**

原因：無効なスコアのしきい値です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50908 invalid maximum number of documents *string***

原因：ドキュメントの最大数が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50909 maximum number of documents *string* is not an integer**

原因：ドキュメントの最大数が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50910 max documents requested *string* outside valid range 1 to 65535**

原因：ドキュメントの最大数が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50911 invalid first document number *string***

原因：最初のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50912 first document number *string* is not an integer**

原因：最初のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50913 first document requested *string* is not a positive number**

原因：最初のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50914 invalid last document number *string***

原因：最後のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

---

**DRG-50915 last document *string* is not an integer**

原因：最後のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50916 last document *string* is less than first document**

原因：最後のドキュメントの番号が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50917 escape on at end of text query *string***

原因：一致しないエスケープ文字があります。

処置：エスケープをオフにしてください。

**DRG-50918 mismatched close escape character**

原因：オープン・エスケープ文字とクローズ・エスケープ文字が一致していません。

処置：オープン・エスケープとクローズ・エスケープを一致させてください。

**DRG-50919 NEAR operand not a phrase, equivalence or another NEAR expression**

原因：NEAR オペレータのオペランドの型が無効です。

処置：オペランドの型を修正してください。

**DRG-50920 part of phrase not itself a phrase or equivalence**

原因：句の一部である式の型が無効です。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50921 EQUIV operand not a word or another EQUIV expression**

原因：EQUIV オペレータのオペランドの型が無効です。

処置：オペランドの型を修正してください。

**DRG-50922 PL/SQL execution failed for *string***

原因：PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を戻している可能性があります。

処置：PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を戻している可能性があります。

**DRG-50923 could not rewrite PL/SQL for execution**

原因：解析内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-50924 PL/SQL inside PL/SQL not supported**

原因：PL/SQL ファンクション・コールは、別の PL/SQL コールを戻しました。

処置：再帰 PL/SQL を削除してください。

**DRG-50925 could not parse return value of PL/SQL**

原因：PL/SQL ファンクションで戻された文字列を解析できませんでした。

処置：コールする PL/SQL ファンクションを修正してください。

**DRG-50926 invalid text query string**

原因：問合せ文字列が空か、無効な文字から構成されています。

処置：問合せを訂正してください。

**DRG-50927 parser failed on line string on column string**

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50928 reserved failure on line string on column string**

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50929 parser internal on line string on column string**

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50930 parser memory failure on line string on column string**

原因：メモリーの割当てエラーまたは開放エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50931 parser not opened**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50932 parser preference initialization failed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50933 parser hash insert failure**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-50934 parser hash create failure**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50935 parser component failure**

原因：内部エラーです。

処置：他のエラーを調べてください。

**DRG-50936 query word *string* is too complex for index**

原因：内部エラーです。

処置：他のエラーを調べてください。

**DRG-50937 query too complex**

原因：問合せが複雑すぎます。

処置：問合せを小さくしてください。

**DRG-50938 parser already bound**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50939 parser not set**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50940 parser not parsed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-50941 PL/SQL function *string* cannot be executed**

原因：PL/SQL ファンクションが存在していないか、ユーザーによって実行されていない可能性があります。

処置：問合せに指定された PL/SQL ファンクションを修正してください。

**DRG-50942 errors: *stringstring***

原因：PL/SQL ファンクションでエラーが見つかりました。そのエラー・メッセージです。

処置：エラー・メッセージを参照してください。

---

**DRG-50943 query token too long on line *string* on column *string***

原因：問合せトークンの長さが 256 バイトを超えています。

処置：問合せを修正してください。

**DRG-50944 NEAR operator not supported for theme index**

原因：NEAR がテーマ索引問合せに使用されています。

処置：NEAR オペレータを取り除いて、問合せを修正してください。

**DRG-50945 Illegal phrase in query for theme index**

原因：テーマ索引問合せに不正な句が指定されています。

処置：問合せを修正してください。

**DRG-50946 Invalid unary operator for theme index**

原因：STEM、FUZZY、SOUNDEX はテーマ索引では許可されていません。

処置：問合せを修正してください。

**DRG-50947 ABOUT clause not allowed without a theme index**

原因：問合せに ABOUT 句が含まれていますが、それをサポートするテーマ索引がありません。

処置：問合せを修正してください。

**DRG-50948 ABOUT clause required in the absence of a text index**

原因：テキスト索引がありませんが、問合せに ABOUT 句が含まれていません。1 つのみテーマ索引が存在する状態で、それぞれの検索語が ABOUT 句に属している必要があります。

処置：問合せを修正してください。

**DRG-50949 SQE が多すぎます。**

原因：SQE が多すぎて拡張できません。

処置：問合せまたは SQE を修正してください。

**DRG-50950 循環 SQE が見つかりました。**

原因：循環 SQE 参照が見つかりました。

処置：問合せまたは SQE を修正してください。

**DRG-51000 wordlist function initialization failed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。



---

**DRG-51001 wordlist preference initialization failed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51002 unexpected component failure**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51007 wordlist unexpected OCI failure**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51010 wordlist not bound**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51017 unable to open storage buffer for fuzzy match candidates**

原因：内部エラーです。メモリーが不足している可能性があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51018 unable to destroy fuzzy match object**

原因：内部エラーです。メモリーが壊れている可能性があります。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51019 unable to open or illegal format for fuzzy match data file: *string***

原因：ファジー・マッチ情報を含むオペレーティング・システム・ファイルをオープンできないか、またはそのファイルの形式が正しくありません。

処置：ConText ドキュメントを参照してファジー・マッチ情報ファイルが正しい位置にあるかを確認し、ファイルの破損状態を確認してください。

**DRG-51020 out of memory in fuzzy matcher**

原因：これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置：システム管理者に連絡してください。

**DRG-51021 undefined error in fuzzy matcher**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-51022 undefined error in stemmer**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51023 stemmer file cannot be opened**

原因：stemmer 辞書を含むオペレーティング・システム・ファイルをオープンできないか、またはファイル内容が正しくありません。

処置：ConText Option ドキュメントを参照して stemmer 辞書が正しい位置にあるかを確認し、ファイルの破損状態を確認してください。

**DRG-51024 out of memory in stemmer**

原因：これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置：システム管理者に連絡してください。

**DRG-51025 an invalid character was passed to the stemmer**

原因：stemmer に入力されたワードに無効な文字があります。

処置：stem するワードから無効な文字を削除してください。

**DRG-51028 unexpected error in fuzzy match expansion: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51029 unexpected error in fuzzy match expansion: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**ORA-51100 プログラムの項の索引が正しくありません。**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51101 項の作成のコールバックが失敗しました。**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51200 open keymap failed for index id = *string***

原因：指定された列 ID のキー・マップの初期化に失敗しました。

処置：索引 ID を確認してください。内部エラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-51201 failed to perform DDL operation: database object *string***

原因: DDL 操作のテキスト・キー・マッピング・サービスに失敗しました。

処置: Oracle エラーを確認して、適切な処置を行ってください。

**DRG-51202 invalid key mapping operation mode : *string***

原因: 無効なキー・マップ・モードの値が見つかりました。内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51203 found doc ids without mappings during get maps**

原因: 文書 ID でのマップの取得中にマッピングされていない文書 ID が見つかりました。索引データとキー・マップ・サービスとの同期が取れていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51300 error getting dml Queue lock**

原因: DML Queue の処理中にロックされたままの状態、サーバーが停止した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51301 error releasing dml Queue lock**

原因: 内部データベース・エラーです。または使用中のロックが削除された可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51309 Get\_batch() failed**

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51310 batch\_done() failed**

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51311 DML lock handle previously allocated**

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51312 DML lock internal error *string***

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-51403 New index name not provided by kernel**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51801 failed to seek in file: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51802 failed to read from file: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51803 failed to open file: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-51804 failed to write to file: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52100 *string* returned internal error code *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52101 an invalid session handle was passed to ConText**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52102 an invalid transaction handle was passed to ConText**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52103 the ConText environment could not reset**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52104 the ConText environment could not initialize**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**DRG-52105 no delete function found**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52106 ConText service results could not be committed**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52107 ctxkbt internal error**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52108 failed to delete knowledge base user extension**

原因：内部エラーです。

処置：ファイルのアクセス権限を調べて、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52109 error in reading thesaurus**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52110 error in writing extended knowledge base**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52111 error in knowledge base cache**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52200 invalid state during export**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52201 incompatible ConText versions**

原因：互換性のないバージョンの ConText のデータをインポートしようとしてしました。

処置：ソースおよびターゲットの ConText のバージョンに互換性があることを確認してください。

---

**DRG-52202 invalid class name: *string***

原因：指定したクラス名が無効です。

処置：有効なクラス名を指定してください。

**DRG-52203 invalid object name: *string***

原因：指定したオブジェクト名が無効です。

処置：有効なオブジェクト名を指定してください。

**DRG-52204 error while registering index**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52205 class *string* and object *string* already exists for this index**

原因：クラスおよびオブジェクトのエントリが重複しています。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52206 error while registering index object**

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52207 the specified attribute does not exist: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52208 the specified attribute already exist: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**DRG-52210 error while registering value for attribute: *string***

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

## Time Series メッセージ (TS)

Time Series の詳細は、『Oracle8i Time Series ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

**TS-00500 内部エラーです。**

**原因：**これは Time Series 例外に対する内部エラーの一括エラー番号です。処理で例外条件が検出されたことを示します。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**TS-00501 入力パターンが同じ長さではありません。**

**原因：**入力カレンダーに異なる長さのパターンがあります。

**処置：**同じ長さのパターンを持つカレンダーを使用してください。

**TS-00502 パターン・アンカーはその月の 29 日または 30 日にあることはできません。**

**原因：**Time Series が、その月の 29 日または 30 日にあるパターン・アンカーを持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：**すべてのパターン・アンカーがその月の 29 日または 30 日でないことを確認してください。

**TS-00503 パターン・アンカーは、すべてゼロ (0) またはすべて 1 のパターンの場合だけ NULL にできます。**

**原因：**パターン・アンカーが NULL なので、パターンは NULL *patanchor* に対して受け入れられませんでした。アンカーは、すべて 0 またはすべて 1 のパターンの場合のみ NULL にできます。

**処置：**パターン・アンカー日付を指定するか、パターンを調整してください。

**TS-00504 DisplayValCal/DisplayValTS に無効な validflag パラメータが渡されました。**

**原因：**無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValT がコールされました。

---

**処置:** それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力でのみ、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

**TS-00505 DisplayValCal/DisplayValTS に無効な outmessage パラメータが渡されました。**

**原因:** 無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValT がコールされました。

**処置:** それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力でのみ、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

**TS-00506 カレンダ・パターンが NULL です。**

**原因:** Time Series が、NULL パターンを持つカレンダに遭遇しました。

**処置:** すべてのカレンダが、確実に非 NULL パターンを持つようにしてください。

**TS-00507 カレンダに不正な mindate または maxdate があります。**

**原因:** Time Series が、不正な MINDATE または MAXDATE を持つカレンダに遭遇しました。

**処置:** すべてのカレンダの MINDATE または MAXDATE が正確であることを確認してください。

**TS-00508 頻度が 5、7、10、16、18 のカレンダに対して NULL パターン・アンカーが不正です。**

**原因:** Time Series が、次の頻度で、NULL パターン・アンカーを持つカレンダに遭遇しました。

- 週 (5)
- 四半期 (7)
- 10 日間 (10)
- 半月 (16)
- 半年 (18)

**処置:** (5、10、16、18) の頻度値を持つすべてのカレンダに非 NULL パターン・アンカーがないことを確認してください。

**TS-00509 入力カレンダに 1 より大きく等しくないパターン・ビットがあります。**

**原因:** Time Series が、1 よりも大きいパターン・ビットと対応するパターン・ビットが等しくないパターンを持つカレンダに遭遇しました。Union & Intersection 操作では、ビットが 1 より大きい場合、2 つの入力カレンダは一致するパターン・ビットを持っていなければなりません。

**処置:** 渡されたカレンダのパターン・ビットが一致することを確認してください。



---

**TS-00510 datetab にカレンダー範囲外の日付があります。**

**原因：** DeriveExceptions が入力カレンダーの MINDATE/MAXDATE の範囲外の日付に遭遇しました。

**処置：** MINDATE/MAXDATE を調整するか、入力 DateTab から無関係な日付を削除してください。

**TS-00511 カレンダーのパターン・ビット配列が空または NULL です。**

**原因：** Time Series が空か、NULL パターン・ビット配列を持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：** 有効なパターンを含めるためにカレンダーを更新してください。

**TS-00512 頻度値が無効です。**

**原因：** Time Series がサポートされていない頻度を持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：** すべてのカレンダーをサポートされている頻度（1、2、3、4、5、6、7、8、10、16、18）に制限してください。

**TS-00513 入力した日付の順序が正しくありません。**

**原因：** 指定された日付範囲の順序が逆でした。

**処置：** 日付範囲を指定するとき、必ず早い方の日付を先にリストしてください。

**TS-00514 カレンダー・パターンに不正確なアンカー日があります。**

**原因：** Time Series が誤った精度のアンカーを持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：** アンカーの精度を調整して、カレンダー頻度を一致させてください。

**TS-00515 入力した日付がカレンダーの mindate/maxdate を超えています。**

**原因：** Time Series が MINDATE より小さいか、MAXDATE より大きい日付を持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：** 入力した日付がすべて、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

**TS-00516 入力した日付は、カレンダーの maxdate より大きい日付です。**

**原因：** Time Series が MAXDATE より大きい日付に遭遇しました。

**処置：** 入力した日付がすべて、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

**TS-00517 カレンダー・パターン・アンカーの頻度を設定できません。**

**原因：** Time Series が頻度を設定できないパターン・アンカーを持つカレンダーに遭遇しました。アンカーに設定した頻度が、許可された Oracle 日付を超えています。

**処置：** カレンダー・パターン・アンカーが少なくとも最小 Oracle 日付（ユリウス 1）の頻度単位であることを確認してください。パターン・アンカーは、[Oracle MinDate + 頻度, Oracle Maxdate] の範囲内になければなりません。

---

**ORA-00519 時間系列型の系列属性が NULL です。**

**原因：**Time Series が時間系列内で NULL 系列に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列が非 NULL 時間構成要素を確実に持つようにしてください。

**TS-00520 入力したカレンダーは NULL です。**

**原因：**Time Series が NULL カレンダーに遭遇しました。

**処置：**すべてのカレンダーが非 NULL であることを確認してください。

**TS-00522 カレンダーへのスケール変更日付がエラーです。**

**原因：**入力した日付は指定されたカレンダーへ位取りできません。

**処置：**指定されたカレンダーは有効で、カレンダーの MINDATE/MAXDATE が可能性のあるすべてのタイムスタンプ値を包含していることを確認してください。

**TS-00523 入力した日付が NULL です。**

**原因：**スケールアップが NULL 日付に遭遇しました。NULL 日付に対して定義されているスケール方法がありません。

**処置：**スケールアップへのすべての入力が、確実に非 NULL であるようにしてください。

**TS-00525 入力した時間系列が NULL です。**

**原因：**Time Series が NULL 時間系列に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列がアトミック NULL ではないことを確認してください。

**TS-00526 入力した時間系列に NULL のカレンダーがあります。**

**原因：**Time Series が時間系列内で NULL カレンダーに遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列が有効な（非 NULL）時間構成要素を持つことを確認してください。

**TS-00527 ターゲットのカレンダー頻度へのスケール引上げがエラーです。**

**原因：**スケールアップが、入力した時間系列のカレンダーよりも短い頻度のターゲット・カレンダーに遭遇しました。

**処置：**スケールアップには、ターゲット・カレンダーと同じ頻度か、それより長い頻度に行ってください。

**TS-00528 カレンダーに NULL の mindate または NULL の maxdate があります。**

**原因：**Time Series が NULL の MINDATE または MAXDATE を持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：**すべてのカレンダーが有効な MINDATE または MAXDATE を持つことを確認してください。

---

**TS-00529 カレンダの mindate が maxdate より大きくなっています。**

**原因：**Time Series が MAXDATE より大きい MINDATE を持つカレンダに遭遇しました。

**処置：**すべてのカレンダが有効な MAXDATE 以下の MINDATE を持つことを確認してください。

**TNS-00530 系列索引は 0 (ゼロ) より大きくなければなりません。**

**原因：**GetNthElement が 1 より小さな索引に遭遇しました。

**処置：**0 より大きい索引を使用してください。

**TS-00531 入力した時間系列に NULL のカレンダ参照があります。**

**原因：**Time Series が NULL のカレンダ参照を持つ時間系列に遭遇しました。

**処置：**すべてのカレンダが有効であることを確認してください。

**TS-00532 時間系列で参照されるカレンダは DEREf できません。**

**原因：**時間系列で参照されるカレンダは DEREf できません。

**処置：**問合せを実行しているユーザーがオブジェクトを保存しているカレンダ表のセレクト権限を持っていることと、正しいカレンダが時間系列参照により参照されていることを確認してください。

**TS-00533 時間系列に、そのカレンダの mindate/maxdate を超える日付があります。**

**原因：**Time Series が MINDATE/MAXDATE を超える日付を持つ時間系列に遭遇しました。

**処置：**すべてのタイムスタンプがカレンダの MINDATE/MAXDATE 内にあることを確認してください。

**TS-00534 要求する行数は正の整数でなければなりません。**

**原因：**要求した行数が 0 未満でした。

**処置：**正数を使用して、要求する行数を指定してください。

**TS-00535 時間系列参照に NULL の table\_name パラメータがあります。**

**原因：**Time Series が NULL の TABLE\_NAME を持つ時間系列参照に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列参照に有効な表名が含まれていることを確認してください。

**TS-00536 時間系列参照に NULL の tstamp\_colname パラメータがあります。**

**原因：**Time Series が NULL の TSTAMP\_COLNAME を持つ時間系列参照に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列参照に有効なタイムスタンプ列名が含まれていることを確認してください。

---

**TS-00537 時間系列参照に NULL の value\_colname パラメータがあります。**

**原因：**Time Series が NULL の VALUE\_COLNAME を持つ時間系列参照に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列参照に有効な列名が含まれていることを確認してください。

**TS-00538 時間系列参照に NULL の qualifier\_colname パラメータがあります。**

**原因：**Time Series が NULL の QUALIFIER\_COLNAME を持つ時間系列参照に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列参照に有効な修飾子列名が含まれていることを確認してください。

**TS-00539 時間系列参照に NULL の qualifier\_value パラメータがあります。**

**原因：**Time Series が NULL の QUALIFIER\_VALUE を持つ時間系列参照に遭遇しました。

**処置：**すべての時間系列参照に有効な修飾子値が含まれていることを確認してください。

**TS-00540 実効リード・タイム・スタンプが、カレンダーの mindate/maxdate を超えています。**

**原因：**指定されたパラメータが MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイムスタンプになります。

**処置：**リード・タイム・スタンプやリード・ユニットを調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

**TS-00541 実効ラグ・タイム・スタンプが、カレンダーの mindate/maxdate を超えています。**

**原因：**指定されたパラメータが MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイムスタンプになります。

**処置：**ラグ・タイム・スタンプやラグ・ユニットを調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

**TNS-00542 mavg/msum 用のウィンドウ・サイズは、1 以上でなければなりません。**

**原因：**移動する average/sum に渡されたウィンドウ・サイズ・パラメータが、0 よりも大きくありませんでした。

**処置：**1 以上のウィンドウ・サイズ・パラメータを使用してください。

**TS-00547 入力した塗りつぶし型は有効です。**

**原因：**Fill が、0 より小さいか、2 よりも大きな Fill 型でコールされました。

**処置：**有効な Fill 型を使用してください。0、1、または 2 を入力してください。

---

**TS-00548 Lead 用のターゲット・タイム・スタンプが無効です。**

**原因：**Lead へのターゲット・タイム入力が、入力した時間系列カレンダーに関して無効です。

**処置：**Lead 関数へ入力したターゲット・タイムは、入力した時間系列カレンダーに関して有効なタイム・スタンプであることを確認してください。

**TS-00551 時間系列参照を使う SQL 文の解析エラーです。**

**原因：**時間系列参照から構成された SQL 文が無効でした。

**処置：**時間系列参照の妥当性を検証してください。

- 時間系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証する。
- 表名や列名に、スペースや無効な句読点がないか。
- 参照されている表のセレクト権限がユーザーにあるか。
- 表名はスキーマ名で修飾されているか。

**TS-00552 時間系列参照を使う SQL 文の実行エラーです。**

**原因：**時間系列参照から構成された SQL 文が無効でした。

**処置：**時間系列参照の妥当性を検証してください。

- 時間系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証する。
- 表名や列名に、スペースや無効な句読点がないか。
- 参照されている表のセレクト権限がユーザーにあるか。
- 表名はスキーマ名で修飾されているか。

**TS-00553 0(ゼロ) 除算によるエラーです。**

**原因：**TSDivide による 0 での除算をしようとしてしました。

**処置：**定数による除算のとき、定数が 0 でないことを確認してください。

**TS-00554 入力したカレンダー・パターンが等しくありません。**

**原因：**DeriveExceptions は、参照時間系列のカレンダーが処理中の時間系列と同じパターンを持っている必要があります。

**処置：**DeriveExceptions が同じパターンを持つ時間系列でのみコールされていることを確認してください。

---

**TS-00555 入力したカレンダー頻度が等しくありません。**

**原因：**DeriveExceptions は、参照時間系列のカレンダーが処理中の時間系列と同じ頻度を持っている必要があります。

**処置：**DeriveExceptions が同じ頻度を持つ時間系列でのみコールされることを確認してください。

**TS-00556 参照カレンダーの mindate が、ターゲット・カレンダーの mindate を超えています。**

**原因：**DeriveExceptions が、ターゲット時間系列のカレンダーよりも大きな MINDATE を持つ参照時間系列のカレンダーに遭遇しました。

**処置：**DeriveExceptions が適切な時間系列でのみコールされていることを確認してください。

**TS-00557 ターゲット・カレンダーの maxdate が、参照カレンダーの maxdate を超えています。**

**原因：**DeriveExceptions が、ターゲット時間系列のカレンダーよりも小さな MAXDATE を持つ参照時間系列のカレンダーに遭遇しました。

**処置：**DeriveExceptions が適切な時間系列でのみコールされることを確認してください。

**TS-00558 ターゲット・カレンダーには、空のオンまたはオフの例外リストが必要です。**

**原因：**DeriveExceptions が空でない例外リストを持つターゲット時間系列に遭遇しました。

**処置：**DeriveExceptions が、空の例外リストを持つターゲット時間系列でのみコールされていることを確認してください。

**TS-00559 カレンダーの caltype フィールドに無効な値があります。**

**原因：**Time Series が無効のカレンダー型を持つカレンダーに遭遇しました。

**処置：**すべてのカレンダーが有効なカレンダー型値を持つことを確認してください。有効なカレンダー型値は、(Exception-driven calendars = 0) です。

**TS-00560 入力データに不正確なタイム・スタンプがあります。**

**原因：**DeriveExceptions 関数が時系列（または datetab）入力中で不正確な日付に遭遇しました。

**処置：**DeriveExceptions をコールする前に、時系列（または datetab）内のすべてのタイム・スタンプがターゲット・カレンダーに関して正確であることを確認してください。

**TS-00561 begin\_create\_ts\_group がコールされませんでした。**

**原因：**BEGIN\_CREATE\_TS\_GROUP は、このプロシージャがコールされる前にコールされなければなりません。

**処置：**この関数をコールする前に、BEGIN\_CREATE\_TS\_GROUP をコールしてください。

---

**TS-00562 列名が重複しています。**

**原因：**時間系列に指定された 2 つの名前が同じでした。

**処置：**各時間系列に、一意の列名を付けてください。この列名が、TSTAMP 列の明示的列名やデフォルトの列名または GROUP\_NAME 列の列名と競合しないことを確認してください。デフォルト値を判断するには、GET\_ATTRIBUTES を使用してください。

**ORA-00563 列属性が不明です。**

**原因：**時間系列が定義列なしで定義されました。

**処置：**ADD\_VARCHAR2、ADD\_NUMBER または ADD\_INTEGER で時間系列に少なくとも 1 つの列を定義してください。

**TS-00564 不明な格納モデルです。**

**原因：**指定された時間系列格納モデルが、有効な格納モデルに対応していません。

**処置：**プロシージャが有効な格納モデル記述子 'OBJECT' か 'FLAT' でコールされていることを確認してください。

**TS-00565 格納モデルが誤りです。**

**原因：**時間系列プロシージャは現在定義されている格納モデルではコールできません。

**処置：**プロシージャが有効な格納モデル記述子 'OBJECT' か 'FLAT' でコールされていることを確認してください。

**TS-00566 不明な時間系列グループです。**

**原因：**指定された時間系列の定義が不明です。

**処置：**コールが既知の時間系列定義を確実に参照するようにしてください。

**TS-00567 サポートされていないデータ型です。**

**原因：**時間系列に指定された列データ型はサポートされていません。

**処置：**時間系列の列データ型が、NUMBER、INTEGER、または VARCHAR2 であることを確認してください。

**TS-00568 コール順序が不正です。**

**原因：**正しい順序で関数がコールされていません。

**処置：**正しい順序で関数がコールされていることを確認してください。

---

**ORA-00569 すべての属性を削除することはできません。**

**原因：**時間系列グループに属するオブジェクトのすべては削除できませんでした。これは基礎オブジェクトがもはや存在していないか、他の時間系列定義が基礎オブジェクトを参照しているからです。

**処置：**オブジェクトを直接削除するために、権限を取得してください。

**TS-00570 宣言された列が多すぎます。**

**原因：**時間系列に宣言された列が多すぎます。許可される最大数の制限については、ドキュメントを参照してください。

**処置：**余分の列を収容するために、他の時間系列を宣言してください。

**TS-00571 細目表がなければなりません。**

**原因：**元表が存在しない場合、ADD\_EXISTING\_COLUMN は不正です。

**処置：**ADD\_VARCHAR2\_COLUMN または ADD\_NUMBER\_COLUMN プロシージャをコールしてください。

**TS-00572 列が見つかりません。**

**原因：**ADD\_EXISTING\_COLUMN が元表に存在しない列に対してコールされました。

**処置：**既存の元表に、NUMBER または VARCHAR2 列表を指定してください。

**TS-00573 細目表が存在してはいけません。**

**原因：**元表が存在しない場合、ADD\_VARCHAR2\_COLUMN やおよび ADD\_NUMBER\_COLUMN は不正です。

**処置：**元表が存在するときは、ADD\_COLUMN 関数をコールしてください。

**TS-00574 ログ・ファイルはすでにオープンしています。**

**原因：**ログ・ファイルがすでにオープンしているとき、OPEN\_LOG がコールされました。

**処置：**CLOSE\_LOG をコールして、OPEN\_LOG をコールする前に現行のログ・ファイルをクローズしてください。

**TS-00575 パラメータが detail\_table\_exists と競合しています。**

**原因：**DETAIL\_TABLE\_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、DETAIL\_TABLE\_ATTR、DETAIL\_TABLE\_PK または TSNAME\_LENGTH フィールドが非 NULL 値へ設定されました。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES を DETAIL\_TABLE\_EXISTS=1 でコールするとき、DETAIL\_TABLE\_ATTR、DETAIL\_TABLE\_PK、および DETAIL\_TSNAME\_LENGTH パラメータを NULL にしてください。



---

**TS-00576 パラメータが `map_table_exists` と競合しています。**

**原因：**MAP\_TABLE\_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、MAP\_TABLE\_ATTR または MAP\_TABLE\_PK フィールドが非 NULL 値へ設定されました。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES を MAP\_TABLE\_EXISTS=1 でコールするとき、MAP\_TABLE\_ATTR または MAP\_TABLE\_PK パラメータを NULL にしてください。

**TS-00577 パラメータが `cal_table_exists` と競合しています。**

**原因：**CAL\_TABLE\_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、CAL\_TABLE\_ATTR または CAL\_TABLE\_PK フィールドが非 NULL 値へ設定されました。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES を CAL\_TABLE\_EXISTS=1 でコールするとき、CAL\_TABLE\_ATTR または CAL\_TABLE\_PK パラメータを NULL にしてください。

**TS-00578 細目表が見つかりません。**

**原因：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定された元表が見つかりませんでした。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定された元表が存在することを確認してください。

**TS-00579 SET\_FLAT\_ATTRIBUTES で指定した `tstamp` フィールドが存在しません。**

**原因：**TSTAMP フィールドが既存の元表に見つかりません。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定された TSTAMP 列名が元表に存在することを確認してください。

**TS-00580 指定された `tstamp` フィールドは `DATE` 列ではありません。**

**原因：**コールは DATE データ型でない TSTAMP フィールドを指定しました。

**処置：**DATE データ型である TSTAMP フィールドを指定してください。

**TS-00581 SET\_FLAT\_ATTRIBUTES で指定した `tsname` フィールドが存在しません。**

**原因：**TSNAME フィールドが既存の元表に見つかりません。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定された TSNAME 列名が元表に存在することを確認してください。

**TS-00582 指定した `tsname` フィールドは `VARCHAR2` 列ではありません。**

**原因：**コールは VARCHAR2 データ型でない TSNAME フィールドを指定しました。

**処置：**VARCHAR2 データ型である TSNAME 列を指定してください。

**TS-00583 既存の細目表に主キー制約が見つかりません。**

**原因：**必要な主キー制約が欠けている元表で時間系列を作成しようとしてしました。

**処置：**元表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

---

**TS-00584 既存の細目表に、最初の列として tsname がある索引が見つかりません。**

**原因：**TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していない詳細表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**元表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

**TS-00585 既存の細目表に、2 番目の列として tstamp がある索引が見つかりません。**

**原因：**TSTAMP フィールドを主キー索引の 2 番目の列として指定していない詳細表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**元表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

**TS-00586 カレンダ表が見つかりません。**

**原因：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が見つかりませんでした。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されたカレンダ表が存在することを確認してください。

**TS-00587 カレンダ表が正しい型ではありません。**

**原因：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表ではありませんでした。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表であることを確認してください。

**TS-00588 カレンダ表に主キー制約が見つかりません。**

**原因：**必要な主キー制約が欠けているカレンダ表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**カレンダ表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

**TS-00589 既存のカレンダ表に、最初の列として NAME がある索引が見つかりません。**

**原因：**TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないカレンダ表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**カレンダ表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

---

**TS-00590 マップ表が見つかりません。**

**原因：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されているマップ表が見つかりませんでした。

**処置：**SET\_FLAT\_ATTRIBUTES に指定されたマップ表が存在することを確認してください。

**TS-00591 既存のマップ表に CALNAME フィールドが見つかりません。**

**原因：**指定したマップ表には、型 VARCHAR2(256) の CALNAME と呼ばれるフィールドがなければなりません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00592 既存のマップ表内の CALNAME フィールドが VARCHAR2 フィールドではありません。**

**原因：**指定した既存のマップ表には、型 VARCHAR2 の CALNAME と呼ばれるフィールドがなければなりません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00593 CALNAME VARCHAR2 フィールドの長さが 256 ではありません。**

**原因：**指定した既存のマップ表には、長さ 256 の CALNAME と呼ばれる VARCHAR2 フィールドがなければなりません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00594 既存のマップ表に tsname 列が見つかりません。**

**原因：**指定した既存のマップ表には、元表に TSNAME 列と同じ名前のフィールドが存在する必要があります。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00595 マップ表内の tsname フィールドが VARCHAR2 列ではありません。**

**原因：**既存のマップ表内の TSNAME フィールドは、VARCHAR2 フィールドでなければなりません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00596 既存のマップ表内の tsname フィールドの長さが正しくありません。**

**原因：**既存のマップ表にある TSNAME フィールドの長さは、元表にある TSNAME フィールドの長さと同じでなければなりません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

---

**TS-00597 マップ表に主キー制約が見つかりません。**

**原因：**指定されたマップ表は、TSNAME フィールドに主キー制限を持っていないかもしれません。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00598 マップ表に tsname フィールドの索引が見つかりません。**

**原因：**TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないマップ表で時間系列を作成しようとしてしました。

**処置：**指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

**TS-00599 入力パラメータ値が不正です。**

**原因：**入力パラメータの組合せや値が不正です。

**処置：**コールへ入力したパラメータの値や組合せが正しいかどうかを確認してください。

**TS-00600 tstamp 値の更新が不正です。**

**原因：**instead of トリガーが、TSTAMP フィールドを更新しようとしていることを検出しました。

**処置：**時間系列での TSTAMP フィールドの更新は許可されていません。

**TS-00601 tstamp 値の更新が不正です。**

**原因：**更新トリガーが、TSNAME フィールドを更新しようとしていることを検出しました。

**処置：**時間系列での TSNAME フィールドの更新は許可されていません。

**TS-00602 カレンダが見つかりません。**

**原因：**挿入トリガーまたは削除トリガーが、標準の時間系列のカレンダを取り出すのに失敗しました。

**処置：**更新中の時間系列にそれと関連付けられたカレンダがあるかどうかを確認してください。

**TS-00603 tstamp 日付が有効ではありません。**

**原因：**カレンダに対して有効でないタイム・スタンプ日付値を使用して挿入が行われました。

**処置：**タイム・スタンプ日付が時間系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

---

**TS-00604 タイム・スタンプは、開始日付前の最初の有効日付でなければなりません。**

**原因：**開始日付前の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしました。

**処置：**タイム・スタンプ日付が時間系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

**TS-00605 タイム・スタンプは、終了日付後の最初の有効日付でなければなりません。**

**原因：**終了日付後の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしました。

**処置：**タイム・スタンプ日付が時間系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

**TS-00606 時間系列内の有効日付は削除できません。**

**原因：**時間系列の途中でタイム・スタンプを削除しようとしました。

**処置：**時間系列の終わりでタイム・スタンプを削除してください。

**TS-00607 時間系列グループは存在します。**

**原因：**指定した時間系列グループはすでに存在しています。

**処置：**BEGIN\_CREATE\_TS\_GROUP がまだ存在していない時間系列を指定していることを確認してください。

**TS-00608 時間系列インスタンスが見つかりません。**

**原因：**挿入トリガーまたは削除トリガーが、時間系列インスタンスを取り出すのに失敗しました。

**処置：**指定された時間系列インスタンスが存在しているかどうかを確認してください。

**TS-00609 begin\_create\_ts\_group はすでにコールされています。**

**原因：**時間系列グループを定義中に BEGIN\_CREATE\_TS\_GROUP をコールしようとしました。

**処置：**CANCEL\_CREATE\_TS\_GROUP をコールするか、開始された時間系列グループ定義を完了してください。

**TS-00610 取り消すものはありません。**

**原因：**開始されている時間系列グループ定義がないときに、CANCEL\_CREATE\_TS\_GROUP をコールしようとしました。

**処置：**時間系列定義が開始されていないときに、このコールを実行しないでください。

---

**TS-00611 頻度が有効ではありません。**

**原因：**関数に渡された頻度が、有効なカレンダー頻度値に対応しません。

**処置：**コールが有効なカレンダー頻度値を渡していることを確認してください。

**TS-00612 指定した時間系列型はサポートされていません。**

**原因：**作成する時間系列オブジェクト表に誤った型が指定されています。

**処置：**時間系列オブジェクト表でサポートされる型は、ORDSYS.ORDTNUMSERIEA および ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES のみです。

**TS-00613 時間系列オブジェクト表が見つかりません。**

**原因：**SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES に指定された時間系列オブジェクト表が見つかりません。

**処置：**SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES に指定された時間系列オブジェクト表が存在することを確認してください。

**TS-00614 既存のオブジェクト表は異なる型です。**

**原因：**(既存の) オブジェクト表の型が、指定された時間系列の型と一致しません。

**処置：**既存のオブジェクト表で時間系列グループを作成中に、時間系列の型がオブジェクト表の型と一致していることを確認してください。時間系列オブジェクト表でサポートされる型は、ORDSYS.ORDTNUMSERIES および ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES のみであることを注意してください。

**TS-00615 時間系列オブジェクト表に主キー制約が見つかりません。**

**原因：**必要な主キー制約が欠けているオブジェクト表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**時間系列オブジェクト表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

**TS-00616 既存の時間系列オブジェクト表に NAME 属性の索引が見つかりません。**

**原因：**名前フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないオブジェクト表で時間系列を作成しようとした。

**処置：**時間系列表が名前フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

**TS-00617 パラメータが object\_table\_exists と競合しています。**

**原因：**OBJECT\_TABLE\_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES がコールされたとき、OBJECT\_TABLE\_ATTRIBUTES、STORAGE\_TABLE\_NAME、STORAGE\_TABLE\_ATTRIBUTES または OBJECT\_TABLE\_PK フィールドが非 NULL 値に設定してください。

---

**処置:** OBJECT\_TABLE\_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES がコールされたとき、OBJECT\_TABLE\_ATTRIBUTES、STORAGE\_TABLE\_NAME、STORAGE\_TABLE\_ATTRIBUTES および OBJECT\_TABLE\_PK はすべて NULL へ設定してください。

**TS-00618** サポートされていない引数で setprecision がコールされました。

**原因:** 引数として日付および頻度を使用して、SetPrecision をコールしようとした。インタフェースはもうサポートされていません。ここで、SetPrecision には引数としてカレンダーと日付が必要です。

**処置:** カレンダーと日付のある SetPrecision をコールするか、データベースの互換モードを 8.0.5 へ変更してください。データベースの互換モードを変更すると、新しい機能が動作しなくなることに注意してください。

**TS-00619** storage\_table\_attributes には OVERFLOW 句が必要です。

**原因:** SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES を使用して、OBJECT\_TABLE\_ATTRIBUTES は OVERFLOW を含まない句に設定されました。これは、ORDTVARCHAR2SERIES のオブジェクト格納を作成するときに必要です。

**処置:** OBJECT\_TABLE\_ATTRIBUTES 内に指定された OVERFLOW 句が存在する ORDTVARCHAR2SERIES へ設定された OBJECT\_TABLE\_TYPE で、SET\_OBJECT\_ATTRIBUTES がコールされることを確認してください。

**TS-00620** 時間系列が無効です。

**原因:** 新しい時間系列インスタンスが有効な時間系列でないので、オブジェクト・ビュー挿入または更新トリガーが失敗しました。

**処置:** 挿入中または更新中の新しい時間系列が有効な時間系列かどうかを確認してください。

**TS-00630** 正規でない時間系列は有効な入力ではありません。

**原因:** DeriveExceptions 関数には、入力した時間系列が正規の時間系列であることが必要です（正規でない時間系列には関連するカレンダーがないので、DeriveExceptions 関数への入力は不正となります）。

**処置:** DeriveExceptions 関数に入力した時間系列が正規の時間系列であることを確認してください。

**TS-00631** 先行および遅延操作は、正規でない時間系列ではサポートされていません。

**原因:** リード操作およびラグ操作には、カレンダーが時間系列のタイム・スタンプの結果を計算することが必要です。

**処置:** リードおよびラグが、カレンダーのある時間系列だけで使用されていることを確認してください。

---

**TS-00632 塗り**は正規でない時間系列ではサポートされていません。

**原因:** Fill には、カレンダーが時間系列のタイム・スタンプの結果を計算することが必要です。

**処置:** Fill が、カレンダーのある時間系列だけで使用されていることを確認してください。

**TS-00633 表の属性値が大きすぎます。**

**原因:** 渡された表属性値が大きすぎます。

**処置:** 表属性 VARCHAR2 値が 1023 未満であることを確認してください。

**TS-00640 時間系列はターゲット・カレンダーにスケール変更できません - 頻度が一致しません。**

**原因:** 時間系列およびカレンダーの頻度には、互換性がありません。

**処置:** スケール変更された時間系列に関連付けられたカレンダーは、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

**TS-00641 時間系列はターゲット・カレンダーにスケール変更できません - カレンダー・アンカーが一致しません。**

**原因:** 時間系列とカレンダーに関連付けられたカレンダー・アンカーが一致していません。

**処置:** スケール変更された時間系列に関連付けられたカレンダーは、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

**TS-00642 時間スケール変更エラー: 1 回の入力間隔が出力間隔 2 回以上にわたっています。**

**原因:** ソース時間系列の 1 回の間隔が、スケール変更するターゲット・カレンダーの間隔 2 回以上にわたっています。

**処置:** スケール変更される時間系列がターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。

**TS-00643 時間スケール変更エラー: 入力間隔で既存でない出力間隔をマップしています。**

**原因:** 入力した時間系列の 1 つ以上のセルに、ターゲット・カレンダーの関連付けられた間隔がありません。

**処置:** スケール変更される時間系列がターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。



---

**TS-00644 時間スケール変更エラー: permitDropData パラメータが範囲外です。**

**原因:** permitDropData の無効な値が Scaleup のパラメータとして指定されました。

**処置:** permitDropData パラメータが 0 または 1 であることを確認してください。

**TS-00645 不規則な時間の連続に対して scaledownrepeat はサポートされません。**

**原因:** NULL カレンダのある時間系列が scaledownrepeat へ渡されました。

**処置:** scaledownrepeat で使用する時間系列に、カレンダがあることを確認してください。

**TS-00646 不規則な時間の連続に対して scaledownrepeat はサポートされません。**

**原因:** NULL カレンダのある時間系列が ScaleDownSplit へ渡されました。

**処置:** scaledownsplit で使用する時間系列に、カレンダがあることを確認してください。

**TS-00647 scaleup オプションは無効です。**

**原因:** 認識できないオプションを ScaleUp 関数で使しました。

**処置:** 有効なオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。

**TS-00648 scaleup オプションの組み合わせが無効です。**

**原因:** 複数の数値オプション、または数値と名前付けオプションの組み合わせが、ScaleUp で使されました。

**処置:** 有効なオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。名前付けオプションが数値オプションとともに使されていないこと、および 1 つ以上の数値オプションが指定されていないことを確認してください。

**TS-00649 scaleup オプションは無効です。**

**原因:** 認識できない数値オプションを ScaleUp 関数で使しました。有効な数値オプションには、0、1、10、および 11 があります。

**処置:** 有効な数値オプションだけを使用することを確認してください。名前付けオプションの使用については、ドキュメントを参照してください。

**TS-00650 scaleup オプションが重複しています。**

**原因:** 複数の数値オプションまたは数値と名前付けオプションの組み合わせが、ScaleUp で使されました。

**処置:** 複数の名前付けオプションを使用する場合は、オプションを重複しないように、また矛盾するオプションを使用しないように注意してください。矛盾するオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。



---

## 空間データ・オプション・メッセージ (SDO)

空間データについては、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

**SDO-00000 正常に完了しました。**

**原因:** 操作が正常に終了しました。例外事項はありません。

**処置:** 処置は必要ありません。

**SDO-00002 *string* ではエラーが多すぎます - 強制終了中です。**

**原因:** 許可されるエラーの最大数に達しました。

**処置:** エラーを修正するか、または許可される最大のエラー数を増加してください。

**SDO-00200 内部ヒープ・マネージャの初期化用にメモリーを割当てできませんでした。**

**原因:** 必須メモリーを割当てできませんでした。

**処置:** 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

**SDO-00201 メッセージ・ハンドラを初期化できません。**

**原因:** 必須メモリーを割当てできなかった可能性があります。

**処置:** 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

**SDO-00202 必須メモリーの割当て実行中にメモリー不足になりました。**

**原因:** 必須メモリーを割当てできませんでした。

**処置:** 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

---

**SDO-00203 最大バインド配列サイズが無効です。**

**原因：**必要な処理を行うために割り当てられた空間が、十分ではありません。

**処置：**バインド・サイズ値を増加してください。

**SDO-00250 処理用に *string* をオープンできません。**

**原因：**名前で指定された処理用ファイルをオープンできませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00251 *string* をクローズできません。**

**原因：**名前で指定されたファイルをクローズできませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00252 *string* を読み込めません。**

**原因：**名前で指定された処理用ファイルを読み込めませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00253 *string* に書き込めません。**

**原因：**指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00254 *string* でシークできません。**

**原因：**名前で指定された処理用ファイルをシークできませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00255 ログ・ファイルに書き込めません。**

**原因：**ログ・ファイルに書き込めませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00256 *string* を削除できません。**

**原因：**名前で指定されたファイルを削除できませんでした。

**処置：**このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00257 *string* を改名できません。**

**原因：**名前で指定されたファイルを改名できませんでした。

---

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00258 処理用に一時ファイルをオープンできません。**

**原因:** 名前で指定された処理用ファイルをオープンできませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00259 一時ファイルをクローズできません。**

**原因:** 名前で指定されたファイルをクローズできませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00260 一時ファイルから読み込めません。**

**原因:** 名前で指定された処理用ファイルを読み込めませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00261 一時ファイルに書き込めません。**

**原因:** 指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00262 一時ファイルでシークできません。**

**原因:** 名前で指定された処理用ファイルをシークできませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00263 他と重複しない一時ファイル名を作成できません。**

**原因:** 一意のファイル名を作成できませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00264 一時ファイルを削除できません。**

**原因:** 一時ファイルを削除できませんでした。

**処置:** このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00265 一時ファイルを改名できません。**

**原因:** 一時ファイルを改名できませんでした。

---

処置：このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

**SDO-00267 パスで環境変数を変換できません。**

原因：環境変数が無効か、定義されていません。

処置：環境変数が正しいことを検証してください。

**SDO-00269 プロセスを分岐できません (エラー番号 = *string*)。**

原因：指定されたオペレーティング・システム・エラーのため、デーモンを分岐できませんでした。

処置：オペレーティング・システムのエラーを修正してください。

**SDO-00270 デーモン・プロセスを連結解除できません (エラー番号 = *string*)。**

原因：デーモンが制御ターミナルから連結解除できませんでした。

処置：指定されたオペレーティング・システムのエラーを修正してください。

**SDO-01000 キーワードまたは引数番号 *string* の値が無効です。**

原因：キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、または引数の値の型が不正です。

処置：コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

**SDO-01001 必須のキーワードが欠落しています。**

原因：キーワードがコマンド行で省かれました。

処置：必須のキーワードをコマンド行に設定してください。

**SDO-01002 キーワード *string* の引数が無効です。**

原因：引数が欠落しているか、または範囲外です。

処置：引数が、指定されたキーワードに正しいことを検証してください。

**SDO-01003 *string* が有効なキーワードでないか、またはキーワードの値が欠落しています。**

原因：キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、またはキーワードの値が欠落しています。

処置：コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

**SDO-01004 コマンド行の組み合わせが無効です。**

原因：使用されたキーワードが、コマンド行の前のキーワードと組み合わせることができません。

処置：コマンド行の構文を確認してください。

**SDO-01005 コマンド行にエラーが検出されました。**

原因：コマンド行パラメータが不正に定義されています。

---

**処置:** コマンド行パラメータがすべて正しく指定されていることを検証してください。

**SDO-01006 コマンド行にユーザー ID が指定されていません。**

**原因:** コマンド行にユーザー ID が指定されていません。

**処置:** コマンド行にユーザー ID を指定してください（たとえば、ユーザー ID = sims/sims）。

**SDO-01007 接続文字列を解析できません。**

**原因:** 指定された接続文字列を正しく解析できませんでした。

**処置:** 接続文字列が有効であることを検証してください。有効ならば、メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01008 NULL のユーザー ID が指定されました。**

**原因:** NULL のユーザー ID が指定されました。

**処置:** ユーザー ID を入力してください。

**SDO-01009 NULL のパスワードが指定されました。**

**原因:** NULL のパスワードが指定されました。

**処置:** パスワードを入力してください。

**SDO-01200 内部エラー: [string]**

**原因:** 内部の合致操作中に、エラーが発生しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01201 内部エラー: [string]**

**原因:** 内部の副文字列操作中に、エラーが発生しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01202 内部エラー: [string]**

**原因:** 内部の増分値操作中に、エラーが発生しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01203 内部エラー: [string]**

**原因:** 内部の ID 設定操作中に、エラーが発生しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

---

**SDO-01204 内部エラー: [string]**

**原因:** 内部の ID 取得操作中に、エラーが発生しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01500 ユーザー名 / パスワードが無効です。ログオンは拒否されました。**

**原因:** Oracle にログインするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

**処置:** 有効なユーザー名 / パスワードの組合せを、正しい形式で入力してください。

**SDO-01501 Oracle にログオンできません。**

**原因:** Oracle へのログインに失敗しました。

**処置:** Oracle 接続文字列が有効であることを検証してください。

**SDO-01502 MDSYS として接続できません。**

**原因:** Oracle MDSYS アカウントへの接続に失敗しました。

**処置:** このアカウントが存在し、正しく設定されていることを検証してください。

**SDO-01503 パーティションはロックされています。**

**原因:** パーティションは現在使用されています。

**処置:** パーティションがアンロックされるまで、待機してください。

**SDO-01507 パーティションは不明な状態でロックされています。**

**原因:** パーティションの状態が不明です。

**処置:** 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリが正しいことを検証してください。

**SDO-01508 他で実行された後に、パーティション・レコードを挿入しました。**

**原因:** 複数のロードが同時に同じパーティションを作成しました (1 つのみ有効)。

**処置:** ロード・プロセスを再実行してください。

**SDO-01600 表を作成できません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置:** 表を作成できることを検証してください。

**SDO-01601 一時表を作成できません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置:** 表を作成できることを検証してください。

**SDO-01602 表を削除できません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。



---

**処置:** 表を削除できることを検証してください。

**SDO-01603 一時表を削除できません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置:** 表を削除できることを検証してください。

**SDO-01604 表を切り捨てられません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置:** 表を切り捨てられることを検証してください。

**SDO-01605 一時表を切り捨てられません。**

**原因:** このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置:** 表を切り捨てられることを検証してください。

**SDO-01607 HHCODE 列には領域情報がありません。**

**原因:** HHCODE 列の空間情報が見つかりませんでした。

**処置:** 空間情報が正しいことを検証してください。

**SDO-01608 HHCODE 列には *string* の領域情報が欠落しています。**

**原因:** 空間情報が入力されていません。

**処置:** 空間情報が正しいことを検証してください。

**SDO-01609 指定された所有者に対する領域表名が存在しません。**

**原因:** 空間表名の綴りに誤りがあるか、存在しません。

**処置:** 表が存在することを検証し、綴りを確認してください。

**SDO-01610 非 NULL フィールド *string* に NULL が渡されました。**

**原因:** 非 NULL フィールドとして設定された列に、NULL フラグが設定されました。

**処置:** 非 NULL 設定にフラグを設定してください。

**SDO-01611 *string* の領域値は境界外です。**

**原因:** 空間値が、ディメンションの上限および下限範囲内にありません。

**処置:** データが正しく、ディメンションの下限および上限が正しいかどうかを検証してください。

**SDO-01612 列 *string* にはサポートされないデータ型があります。**

**原因:** 列が、サポートされていないデータ型で定義されています。

**処置:** この列に別のデータ型を使用してください。

---

**SDO-01613 *string* は、パーティションで区切られていない領域表として検索できませんでした。**

**原因：**指定された表は存在しないか、またはパーティションで区切られていない空間表ではありません。

**処置：**指定された表が存在し、パーティションで区切られていない空間表であることを検証してください。

**SDO-01614 一時表からディメンション情報を検索できません。**

**原因：**表が存在しない可能性があります。

**処置：**表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01615 一時列表から HHCODE 列情報を検索できません。**

**原因：**一時表が不正です。

**処置：**表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01616 領域表には HHCODE 列が含まれていません。**

**原因：**HHCODE 列が指定された空間表に存在しません。

**処置：**HHCODE 列が指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01617 指定された表にパーティション・キー列がありません。**

**原因：**パーティション・キーとして指定された HHCODE 列がありませんでした。

**処置：**空間表を変更して、パーティション・キーを持たせてください。

**SDO-01618 HHCODE 列の領域情報が見つかりませんでした。**

**原因：**HHCODE 列の空間情報が存在しません。

**処置：**対応する空間表の、空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01619 細目の最大レベルを超えました。**

**原因：**パーティション上の最大サブディビジョン点で、高水位標を超過しています。

**処置：**空間表をより高い水位標で変更してください。

**SDO-01620 指定されたロールバック・セグメントにトランザクションを割り当てられません。**

**原因：**指定されたロールバック・セグメントは無効です。

**処置：**ロールバック・セグメントが正しいことを検証してください。

**SDO-01621 一時ビューを作成できません。**

**原因：**このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**処置：**ビューを作成できることを検証してください。

---

**SDO-01622 一時ビューを削除できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：ビューを削除できることを検証してください。

**SDO-01700 パーティションで基本トリガーを作成できません。**

原因：トリガーを作成できませんでした。

処置：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**SDO-01701 パーティションで基本トリガーを使用可能にできません。**

原因：トリガーを使用可能にできませんでした。

処置：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

**SDO-01702 表から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：表から選択できることを検証してください。

**SDO-01703 一時表から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：表から選択できることを検証してください。

**SDO-01704 user\_users ビューから情報を選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：このビューから選択できることを検証してください。

**SDO-01705 一時列表から選択できません。**

原因：表が存在しない可能性があります。

処置：表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01706 一時表から選択できません。**

原因：表が存在しない可能性があります。

処置：表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01707 一時表に挿入できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：表に挿入できることを検証してください。

**SDO-01708 all\_tables ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置：ビューへのアクセス権があり、正しく作動していることを検証してください。

---

**SDO-01800 sys.col\$ から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.COL\$ から選択できることを検証してください。

**SDO-01801 sys.obj\$ から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.OBJ\$ から選択できることを検証してください。

**SDO-01802 sys.ts\$ から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.TS\$ から選択できることを検証してください。

**SDO-01803 sys.tab\$ から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.TAB\$ から選択できることを検証してください。

**SDO-01804 sys.dba\_tables から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.DBA\_TABLES から選択できることを検証してください。

**SDO-01805 sys.dba\_users から選択できません。**

原因：このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置：MDSYS が SYS.DBA\_USERS から選択できることを検証してください。

**SDO-01850 string の HHCODE 列名が無効です。**

原因：指定された空間表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

処置：HHCODE 列が指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01851 all\_md\_columns ビューでは列情報が見つかりませんでした。**

原因：指定された空間表では非 HHCODE 列が見つかりませんでした。

処置：ビュー ALL\_MD\_COLUMNS が正しいことを検証してください。

**SDO-01852 all\_md\_tables ビューではクラス情報が見つかりませんでした。**

原因：空間表のクラス情報が見つかりませんでした。

処置：ビュー ALL\_MD\_TABLES が正しいことを検証してください。

**SDO-01853 all\_md\_tables ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

---

**SDO-01854 領域表の HHCODE 列名 *string* が見つかりませんでした。**

**原因:** 指定された空間表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

**処置:** HHCODE 列が指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01855 指定された HHCODE 列のディメンション名 *string* が見つかりませんでした。**

**原因:** 指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

**処置:** 入力されたディメンション名が有効であり、または指定された HHCODE 列のディメンション名が指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01856 指定された領域表の列名 *string* が見つかりませんでした。**

**原因:** 指定された空間表に列名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

**処置:** 入力された列名が正しく、指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01857 パーティション・キー列のディメンション名 *string* が見つかりませんでした。**

**原因:** 指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

**処置:** 入力されたディメンション名が有効であり、または指定されたパーティション・キー列のディメンション名が指定された空間表に存在することを検証してください。

**SDO-01858 *string* の非 NULL フィールドに値が渡されていません。**

**原因:** 非 NULL フィールドとして設定された列に値が渡されませんでした。

**処置:** NULL 以外の値で、この列を渡してください。

**SDO-01859 *string* のデータ型が無効です。**

**原因:** COL 構造体データ型の説明は、空間表を説明するデータ型に一致しません。

**処置:** データを説明するデータ型が正しく、空間表の列が正しいデータ型を持っていることを検証してください。

**SDO-01860 パーティション名の順序がオーバーフローしました。**

**原因:** 順序の可能な値をすべて使い果たしました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-01900 md\$col 表から情報を選択できません。**

**原因:** 表が存在しないか、または矛盾しています。

**処置:** 空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

---

**SDO-01901 md\$dim 表から情報を選択できません。**

原因：表が存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01902 md\$ptab 表から情報を選択できません。**

原因：表が存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01903 mdv\$tab ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01904 mdv\$col ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01905 mdv\$dim ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01906 all\_md\_dimensions ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01907 all\_md\_columns ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01908 all\_tab\_columns ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置：ビューへのアクセス権があり、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01909 all\_md\_dimensions ビューからディメンション情報を検索できません。**

原因：ビューが存在しない可能性があります。

処置：ビューが存在し、正しく作動していることを検証してください。

**SDO-01910 all\_md\_columns ビューから列情報を検索できません。**

原因：ビューが存在しない可能性があります。

処置：ビューが存在し、正しく作動していることを検証してください。

---

**SDO-01911 md\$ler 表から情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01912 md\$pts 表から情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01913 md\$stab 表から情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01914 md\$exc 表から情報を挿入できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01915 md\$ler 表から情報を挿入できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01916 md\$ptab 表から情報を挿入できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01917 md\$exc 表から情報を削除できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01918 md\$ler 表から情報を削除できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01919 md\$ptab 表から情報を削除できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01920 md\$ptab 表で情報を更新できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

---

**SDO-01921 md\$ler 表から情報を更新できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01922 md\$pts 表から情報を更新できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01923 md\$tab 表から情報を更新できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01924 dba\_md\_columns ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-01925 dba\_md\_dimensions ビューから情報を選択できません。**

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：空間データ・オプションのデータ・ディクショナリを検証してください。

**SDO-05000 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。**

原因：SLF ファイルが、パーティションで区切られた空間表、またはパーティションで区切られていない空間表に構築されています。SLF ファイルが誤ったクラスにロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05001 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。**

原因：SLF ファイルの HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05002 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。**

原因：SLF ファイルの各 HHCODE 列に対するディメンションの合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。



---

**SDO-05003 SLF ヘッダー : *string* 領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの非 HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05004 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの HHCODE 列名が、空間表の名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05005 SLF ヘッダー : *string* はデータ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05006 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの最大レベルが、空間表での最大レベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

---

**SDO-05007 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの HHCODE 列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05008 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの HHCODE 列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05009 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05010 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05011 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション・レベルが、空間表でのレベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

---

**SDO-05012 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの下限が、空間表での下限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05013 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの上限が、空間表での上限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05014 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの列名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05015 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05016 SLF ヘッダー : *string* は領域データ・ディクショナリ : *string* と一致しません。**

**原因 :** SLF ファイルの列タイプが、空間表での列タイプと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置 :** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

---

**SDO-05017 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの列の精度フィールドが、空間表での精度フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05018 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの列のスケール・フィールドが、空間表でのスケール・フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05019 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。**

**原因:** SLF ファイルの列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

**処置:** SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

**SDO-05020 SLF ファイルではデータが見つかりません (ヘッダー情報のみ)。**

**原因:** 変換処理中に、SLF レコードの書き込みプロセスが停止しました。

**処置:** SLF ファイルを再作成して、SLF データが書込まれていることを検証してください。

**SDO-05200 *string* の行は複雑すぎて解析できません。**

**原因:** 制御ファイルのデータが、最大のフィールド制限を超過しました。

**処置:** メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**SDO-05201 *string* のフィールド数が不十分です。**

**原因:** 制御ファイルのフィールドが3つより少なくなっています。

**処置:** 制御ファイルの正確さを確認してください。

**SDO-05202 *string* で必要な行またはキーワードが見つかりません。**

**原因:** 必要なキーワードまたは行が見つかりませんでした。

**処置:** 指定されたキーワードの順序が正しいことを検証してください。

---

**SDO-05203 無効なパーティション・キー列数が *string* に指定されました。**

**原因：**複数のパーティション・キーが、名前で指定された制御ファイルに指定されました。

**処置：**名前で指定された制御ファイルに、HHCODE が 1 つだけパーティション・キーとして指定されていることを検証してください。

**SDO-05204 HHCODE 列には *string* のディメンション順序が欠落しています。**

**原因：**空間情報を名前で指定された制御ファイルに入力している時、ディメンション順序が省かれました。

**処置：**ディメンションの順序値が正しいことを検証してください。

**SDO-05205 *string* でファイル型キーワードが見つかりません。**

**原因：**指定されたファイルに、必要なファイル型が欠落しています。

**処置：**制御ファイルに正確な情報があることを検証してください。

**SDO-05206 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。**

**原因：**制御ファイルにフィールドが複数ありました。

**処置：**制御ファイルの正確さを確認してください。

**SDO-05207 制御ファイルに指定された *string* は無効なファイル型です。**

**原因：**ファイル型の綴りが不正です。有効なファイル型は BINARY と ASCII のみです。

**処置：**制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを検証してください。

**SDO-05208 *string* で書式キーワードが見つかりません。**

**原因：**名前で指定されたファイルで、要求された書式キーワードが欠落しています。

**処置：**制御ファイルに正確な情報があることを検証してください。

**SDO-05209 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。**

**原因：**制御ファイルにフィールドが 2 つ以上ありました。

**処置：**制御ファイルの正確さを確認してください。

**SDO-05210 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。**

**原因：**キーワード FIXED が制御ファイル内に見つかりませんでした。

**処置：**制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

**SDO-05211 データ・ファイルに指定された *string* は無効なレコード長です。**

**原因：**与えられたデータ・ファイルに指定されたレコード長が無効です。

**処置：**指定されたレコード長が正しいことを検証してください。

---

**SDO-05212 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。**

原因：有効なキーワードは DIMENSION と COLUMN のみです。

処置：制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを検証してください。

**SDO-05213 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。**

原因：欠落しているキーワード POSITION が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置：制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

**SDO-05214 *string* に無効なポジション値が指定されました。**

原因：フィールド位置が不正に指定されました。

処置：指定されたフィールド位置が正しいことを検証してください。

**SDO-05215 制御ファイルに指定された *string* は無効なファイル型です。**

原因：指定されたデータ型の綴りが不正でした。有効なデータ型は INTEGER および SMALLINT、FLOAT、DOUBLE、BYTEINT、DATE、RAW、CHAR のみです。

処置：指定されたデータ型が正しいことを検証してください。

**SDO-05216 指定された位置の長さが *string* と矛盾します。**

原因：フィールド位置が不正に指定されました。

処置：指定されたフィールド位置が正しいことを検証してください。

**SDO-05217 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。**

原因：欠落しているキーワード NULLIF が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置：制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

**SDO-05218 制御ファイルの *string* は無効な NULL 標識です。**

原因：NULL 標識が不正に指定されました。

処置：NULL 標識が正しいことを検証してください。

**SDO-05219 *string* では領域情報が見つかりませんでした。**

原因：名前で指定されたファイルで、空間情報が見つかりませんでした。

処置：ディメンション情報を名前で指定されたファイルに入力してください。

**SDO-05220 *string* では領域情報または列情報が見つかりませんでした。**

原因：名前で指定されたファイルで、空間情報が見つかりませんでした。

処置：列情報およびディメンション情報を名前で指定されたファイルに入力してください。

---

**SDO-05221 データ・ファイルの *string* は予期せぬ値です。**

原因：必要な値が見つかりませんでした。

処置：指定されたファイルが正しいことを検証してください。

**SDO-05222 列: *string* を使用してデータを変換できません。**

原因：不正なデータが渡されたか、または不正な形式文字列が使用されました。

処置：データおよび形式文字列が正しいことを検証してください。

**SDO-05500 ユーザーにより SD\*Loader が強制終了されました。**

原因：ユーザーによりプログラムが強制終了されました。

処置：処置は必要ありません。

**SDO-05501 SQL\*Loader で全レコードをパーティションにロードできません。**

原因：レコードのいくつかが不正か、または拒否されました。

処置：ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを訂正してください。

**SDO-05502 SQL\*Loader でエラーが発生しました。**

原因：SQL\*Loader プロセスが停止しました。

処置：ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを訂正してください。

**SDO-07506 RESTORE 要求に失敗しました。**

原因：RESTORE 要求に失敗しました。

処置：ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを訂正してください。

**SDO-07510 不正なブール値です。**

原因：不正なブール値が指定されました。

処置：値が TRUE または FALSE であることを検証してください。

**SDO-07511 端末からユーザー入力を読み込めません。**

原因：端末からのユーザー入力のプロンプトを試行中に、エラーが検出されました。内部エラーです。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。





---

## Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

Visual Information Retrieval オプションについては、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

**VIR-01001 ANALYZE で SIGNATURE の生成に失敗しました。**

**原因:** Analyze 関数は signature を生成できませんでした。

**処置:** Analyze されるイメージが有効であることを確認してください。

**VIR-01002 SCORE で SIGNATURES の比較に失敗しました。**

**原因:** Score 関数は 2 つの signature を比較できませんでした。

**処置:** signature が正しく生成されていることを確認してください。

**VIR-01003 SIGNATURE バッファが小さすぎます。**

**原因:** 生成される signature は、それを受け取るために割り当てられた記憶領域よりも大きいものです。

**処置:** signature に割り当てる領域を増加してください。分析するイメージの複雑さを軽減してください。また、分析するイメージを切り取って、余分な特徴を削減してください。

**VIR-01005 属性文字列が空または NULL です。**

**原因:** 空または NULL の weight 属性文字列が Score または Similar 関数に渡されました。

**処置:** 正しい使用方法および属性の weight 文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

---

**VIR-01006 属性値が無効です。**

**原因：**Score または Similar 関数で属性の重み文字列を解析しているときに、無効な値が見つかりました。

**処置：**有効な属性値を使って、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および Score と Similar 属性の weight 文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

**VIR-01007 内部エラー**

**原因：**内部エラーが発生しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VIR-01008 string**

**原因：**Score または Similar 関数で属性の weight 文字列を解析しているときに、構文エラーが見つかりました。

**処置：**正しい有効なパラメータ値を使って、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および属性の weight 文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

**VIR-01009 イメージ・データを読み込みません。**

**原因：**イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

**処置：**イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

**VIR-01010 SIGNATURE データが破損しているか、または無効です。**

**原因：**signature 内のデータが有効な Virage signature ではありません。

**処置：**Analyze メソッドを使って signature を再作成してください。

**VIR-01011 SIGNATURE のバイト順序が正しくありません。**

**原因：**signature 内のデータは有効な Virage signature の可能性があります、バイト順序が正しくありません。

**処置：**Convert メソッドを使ってバイト順序を変更してください。

**VIR-01012 SIGNATURE の変換に失敗しました。**

**原因：**signature 内のデータが有効な Viisage signature でない可能性があります。

**処置：**有効な Viisage signature で signature を再作成してください。

**VIR-01013 無効な変換操作です。**

**原因：**指定された変換操作が無効です。

**処置：**正しい使用方法および変換操作文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

---

**VIR-01014 指定されたフォントの太さが無効です。**

**原因：**指定された weight が Score には無効です。標準とフェイシャルの両方の weight が指定されました。

**処置：**標準とフェイシャルの両方の属性には weight を指定しないでください。

**VIR-01015 フォントの太さが未指定です。**

**原因：**渡されたすべての weight が 0 です。少なくとも 1 つの属性に weight を付ける必要があります。

**処置：**少なくとも 1 つの属性に weight を指定してください。

**VIR-01016 初期化中に内部エラーが発生しました。**

**原因：**VIR イメージ・エンジンを初期化しようとしているときに、内部エラーが発生しました。

**処置：**オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

**VIR-01017 イメージを分析中にメモリー不足になりました。**

**原因：**イメージの分析中に、外部プロシージャ・エージェントがオペレーティング・システムのメモリーを使い果たしました。

**処置：**データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、外部プロセス・エージェントのプロセス・メモリーの割当てを増やしてください。

**VIR-01018 SIGNATURE を固有のバイト順序に変換できません。**

**原因：**signature データが壊れている可能性があります。

**処置：**Analyze メソッドを使って signature を再作成してください。

**VIR-01019 SIGNATURE が Viisage 署名ではありません。**

**原因：**受け取った signature が Viisage signature ではありません。

**処置：**有効な Viisage signature で signature を再作成してください。



---

---

# 索引

## A

---

AUD, 14-1

## D

---

DRG, 17-1

## I

---

IMG, 15-1

## M

---

MOD, 1-1

## O

---

O2F, 2-1  
O2I, 3-1  
O2U, 4-1

## P

---

PCB, 5-1  
PCF, 6-1  
PCS, 7-1  
PG2, 8-1  
PGO, 9-1  
PPE, 10-1  
PR2, 11-1  
PRO, 12-1

## S

---

SDO, 19-1  
SQL, 13-1

## T

---

TS, 18-1

## V

---

VID, 16-1  
VIR, 20-1

